

(様式第 10)

京大病サ企第 5 3 号  
令和 3 年 1 0 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名  
国立大学法人京都大学  
学長 湊 長 博

京都大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。  
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町
氏 名	国立大学法人 京都大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

京都大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒606-8507 京都府京都市左京区聖護院川原町54番地 電話 (075) 751-3111
---

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1呼吸器内科                      2消化器内科                      ③循環器内科                      4腎臓内科 5神経内科                      6血液内科                      7内分泌内科                      8代謝内科 9感染症内科                      10アレルギー疾患内科またはアレルギー科                      11リウマチ科	
診療実績 呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、アレルギー疾患内科またはアレルギー科、リウマチ科の内容は内科で診療している。 神経内科の診療内容は脳神経内科にて提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載す

ること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科                      2消化器外科                      3乳腺外科                      4心臓外科 5血管外科                      ⑥心臓血管外科                      7内分泌外科                      8小児外科	
診療実績 消化器外科、乳腺外科、内分泌外科、小児外科の内容は外科で診療している。	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科    ②小児科    ③整形外科    ④脳神経外科    ⑤皮膚科    ⑥泌尿器科    7産婦人科    ⑧産科    ⑨婦人科    ⑩眼科    ⑪耳鼻咽喉科    ⑫放射線科    13放射線診断科    14放射線治療科    ⑮麻酔科    ⑯救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科    ②矯正歯科    3口腔外科	
歯科の診療体制 通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1歯科口腔外科    2脳神経内科    3形成外科    4リハビリテーション科    5病理診断科
6                      7                      8                      9                      10                      11                      12
13                      14                      15                      16                      17                      18                      19
20                      21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
60床	床	15床	床	1,066床	1,141床

## 6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	531人	508人	689.6人	看 護 補 助 者	59人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	27人	0人	27人	理 学 療 法 士	25人	臨床検査技師	98人
薬 剤 師	94人	9人	100.9人	作 業 療 法 士	14人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	8人	そ の 他	0人
助 産 師	54人	0人	54人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	1,229人	50人	1,267.5人	臨 床 工 学 士	33人	医療社会事業従事者	15人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	150人
歯科衛生士	7人	2人	8.54人	歯 科 技 工 士	3人	事 務 職 員	448人
管理栄養士	16人	4人	19人	診療放射線技師	70人	そ の 他 の 職 員	155人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	56人	眼 科 専 門 医	3人
外 科 専 門 医	29人	耳鼻咽喉科専門医	5人
精 神 科 専 門 医	8人	放射線科専門医	1人
小 児 科 専 門 医	8人	脳神経外科専門医	2人
皮 膚 科 専 門 医	6人	整形外科専門医	8人
泌尿器科専門医	5人	麻 酔 科 専 門 医	8人
産婦人科専門医	5人	救 急 科 専 門 医	3人
		合 計	147人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 宮本 享 ) 任命年月日 平成31年4月1日

平成27年4月から平成31年3月まで医療安全管理委員会の委員として医療に係る安全管理の業務に従事した。

# 9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日 当 たり 平 均 入 院 患 者 数	694.6 人	10.8 人	705.4 人
1 日 当 たり 平 均 外 来 患 者 数	1580.0 人	61.2 人	1,641.3 人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数	1,021.2 剤		
必要医師数	168.0 人		
必要歯科医師数	5.0 人		
必要薬剤師数	24.0 人		
必要（准）看護師数	415.0 人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

# 10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	1590.47m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病 床 数	79 床	心 電 計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	820.74m <sup>2</sup>		病床数	58床
	[移動式の場合]	台 数	台			
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合]	床 積	73.12m <sup>2</sup>			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	794.00m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動生化学分析装置、全自動血球計数装置			
細菌検査室	199.00m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動微生物培養検出装置、全自動細菌培養感受性装置			
病理検査室	349.20m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 密閉式自動固定包埋装置、全自動H&E染色装置、自動免疫染色装置			
病理解剖室	57.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、写真撮影装置			
研 究 室	41,337.98m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電子顕微鏡、遠心分離機			
講 義 室	496.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	329 人
図 書 室	787.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	7 室	蔵 書 数	220,256 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

# 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		91.1%	逆紹介率		89.1%
算出根拠	A：紹介患者の数		12,492人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16,903人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		4,795人		
	D：初診の患者の数		18,962人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

# 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
北村 雅史	京都大学副学 長（法務・コン プライアンス 担当）		総長が指名する 副学長	有・無	3
平野 哲郎	立命館大学 法科大学院 教授		法律に関する専 門的知識を有す る者	有・無	1
佐和 貞治	京都府立医科 大学 医療安 全管理部 部 長		医療に係る安全 管理に関する専 門的知識を有す る者	有・無	1
伊藤 英樹	広島大学病院 医療安全管 理部 部長		医療に係る安全 管理に関する専 門的知識を有す る者	有・無	1
山口 育子	認定 NP0 法人 ささえあい医 療人権センタ ー COML 理事 長	○	医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者	有・無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
  3. その他

# 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	
京都大学ホームページに掲載。	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
LDLアフェレシス療法	0人
MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	28人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
ペムトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	0人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	1人
内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘出 子宮頸がん(FIGOによる臨床進行期分類がIB期以上及びⅡB期以下の扁平上皮がん又はFIGOによる臨床進行期分類がIA2期以上及びⅡB期以下の腺がんであって、リンパ節転位及び腹腔内臓器に転移していないものに限る。)	0人
全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロピドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法 全身性エリテマトーデス(初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る。)	0人
FOLFIRINOX療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	キメラ抗原受容体T細胞療法(CAR-T療法)	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 再発・難治性のB細胞腫瘍(急性白血病, 悪性リンパ腫)の治療として、患者自身から採取したT細胞に、CD19に対するキメラ抗原受容体を遺伝子導入し、増殖させた後、患者に投与する。			
医療技術名	経皮的動脈弁置換術(TAVI)	取扱患者数	41人
当該医療技術の概要 以前は開胸手術しか方法がなかった大動脈弁狭窄症に対するカテーテルによる経皮的動脈弁形成術。治療はハイブリッド手術室で行われる。手術は心臓血管外科とのハートチームで行う。ハイブリッド手術室で行う必要がある。施設認定が必要。			
医療技術名	経皮的僧帽弁形成術(MitraClip)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 重症僧帽弁閉鎖不全症患者に対して、カテーテルにより僧帽弁をクリップすることにより経皮的僧帽弁形成術が可能となった。開胸手術に対しハイリスク患者に治療を行うこと出来るようになった。全身麻酔下でハイブリッド手術室で施行され、施行施設認定が必要。			
医療技術名	エキシマレーザー使用によるデバイスリード抜去術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 感染などの理由で、植え込み術後数年が経過したペースメーカーや除細動器をレーザーを用いて、抜去する。手術は心臓血管外科のバックアップのもとに、ハイブリッド手術室で行う必要がある。			
医療技術名	リードレスペースメーカー	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 血管閉塞、認知症、フレイルなど通常のペースメーカー植え込みが困難あるいはリスクの高い症例、VVI適応の症例について、当院では心臓血管外科のバックアップのもとに経カテーテル的にリードレスペースメーカー植え込み術を施行している。			
医療技術名	経カテーテル的心房中隔閉鎖術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 従来開胸手術で閉鎖していた心房中隔欠損を経カテーテル的に閉鎖デバイスを用いて閉鎖するものである。			
医療技術名	経カテーテル的左心耳閉鎖術(WATCHMAN)	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 心房細動において血栓塞栓症の予防のために抗凝固療法が難しい患者に対して、血栓形成を予防するため経カテーテル的に左心耳を閉鎖する。			
医療技術名	局所進行膵癌に対する超音波内視鏡下金マーカー留置術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 局所進行膵癌と対して動体追尾強度変調放射線治療を施行するため、超音波内視鏡下に金マーカーを留置するもの。			
医療技術名	脳磁図	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 脳磁図はてんかんの患者に対する手術部位の診断や手術方法の選択を含めた治療方針の決定のために欠かせない非侵襲的な脳機能検査法であり、原発性及び続発性てんかん、中枢神経疾患に伴う感覚障害及び運動障害の鑑別診断としても行われる。脳波に比べ優れた空間解像度と、MRI/PETより優れた時間解像度を併せ持つ。てんかん診療支援センターの関連科・部署である脳機能センター、脳神経内科、脳神経外科、小児科、てんかん・運動異常生理学講座が協力して提供している。			



医療技術名	デジタル脳波「広域時間周波数帯域解析プログラム」のてんかん脳波への臨床応用	取扱患者数	50人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>デジタル脳波の最大の特徴である①広域時間周波数帯域で脳波データを記録して、②2次解析で時間周波数解析、超低周波数波形、超高周波数波形を同時表示解析、を生かして記録直後から利用できる「広域時間周波数帯域解析システム」を開発した。この手法で、従前のデジタル脳波の視察レベルではわからなかったてんかん脳波の特徴を容易に抽出できるようになった。</p>			
医療技術名	肝移植患者の術前オンラインHDF	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>肝移植待機患者の待機中にオンラインHDFを行うことで、肝不全による肝性昏睡からの回復を図り、脳死肝移植まで安全に待機することが可能になる。</p>			
医療技術名	体重10kg以下の小児体外循環	取扱患者数	4人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>極めて体重の軽い小児の体外循環を安全に行える施設は少ない。当院では、急性肝不全などの症例の移植前に体外循環を行っている。</p>			
医療技術名	Radial Incision and Cutting (RIC)	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>食道がんなどの術後の難治性狭窄に対する狭窄解除術。</p>			
医療技術名	光線力学的療法	取扱患者数	10人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>食道がんに対する化学放射線療法後の遺残再発に対する根治的救済治療。</p>			
医療技術名	経口的咽頭喉頭表在がん切除術	取扱患者数	15人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>咽喉頭の表在癌に対する経口的内視鏡下切除術。</p>			
医療技術名	リキッドバイオプシー	取扱患者数	30人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>血液検体を用いたがん遺伝子パネル検査。</p>			
医療技術名	全エクソンシーケンス検査	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>がん組織中の全エクソンのバリエーションを網羅的に調べる検査。</p>			
医療技術名	トラスツズマブ、ラパチニブ	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>HER2/Erbb2 陽性の原発性乳癌患者を対象とした術後補助療法におけるラパチニブ単独療法、トラスツズマブ単独療法、両剤の逐次療法、および両剤併用療法に関する無作為化、多施設共同、オープンラベル、第Ⅲ相試験。</p>			
医療技術名	トラスツズマブエムタンシン	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>手術可能なHER2陽性原発性乳癌患者を対象とした術後補助療法としてのアントラサイクリン化学療法後のタキサン+トラスツズマブ+ペルツズマブとトラスツズマブエムタンシン+ペルツズマブを比較する多施設共同非盲検ランダム化第Ⅲ相比較試験。</p>			
医療技術名	オラパリブ	取扱患者数	4人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>十分な局所性治療及び術前補助化学療法又は術後補助化学療法を終了した高リスク生殖細胞系BRCA1/2変異陽性HER2陰性原発乳癌患者に対する術後補助療法としてのオラパリブの有効性と安全性を評価する無作為化二重盲検並行群間比較プラセボ対照多施設共同第Ⅲ相試験。</p>			

医療技術名	KHK2375	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 進行・再発乳癌患者を対象としたKHK2375の第Ⅱ相臨床試験。			
医療技術名	アベマシクリブ	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 リンパ節転移陽性、ホルモン受容体陽性、HER2陰性の再発高リスク早期乳癌患者を対象とした標準的な術後内分泌療法単独、とアベマシクリブとの併用の無作為化非盲検第Ⅲ相試験。			
医療技術名	アテゾリズマブ (抗PD-L1抗体)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 手術可能なトリプルネガティブ乳癌患者を対象とした、術後補助療法におけるアテゾリズマブ (抗PD-L1抗体)+アンスラサイクリン/タキサンベースの化学療法と化学療法単独を比較する多施設共同ランダム化非盲検第Ⅲ相試験。			
医療技術名	トラスツズマブ デルクステカン (DS-8201a)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 T-DM1治療歴のあるHER2陽性切除不能及び／又は転移性乳癌患者を対象として抗HER2抗体薬物複合体であるトラスツズマブ デルクステカン (DS-8201a)を医師選択治療と比較検討する多施設共同無作為化非盲検実薬対照第Ⅲ相試験。			
医療技術名	カピバセルチブ	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 アロマターゼ阻害薬による治療中又は治療後に再発又は進行が認められた局所進行 (手術不能) 又は転移性のホルモン受容体陽性ヒト上皮細胞成長因子受容体2陰性 (HR+/HER2-) 乳癌の治療として、カピバセルチブとフルベストラント投与の有効性及び安全性をプラセボとフルベストラント投与と比較して評価する第Ⅲ相二重盲検無作為化試験 (CAPItello-291)。			
医療技術名	ペルツズマブ	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 手術可能なHER2陽性原発性乳癌における術後療法としての化学療法+トラスツズマブ+プラセボと化学療法+トラスツズマブ+ペルツズマブのランダム化、多施設共同、二重盲検、プラセボ対照での比較試験 (製造販売後臨床試験)。			
医療技術名	サイクリン依存症キナーゼ (CDK)4/6阻害薬palbociclib (PD-0332991)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 ネオアジュバント化学療法後の再発リスクが高いホルモン受容体陽性HER2陰性原発性乳癌患者を対象としたサイクリン依存症キナーゼ (CDK)4/6阻害薬palbociclib (PD-0332991)を評価する第Ⅲ相試験「PENELopeB」。			
医療技術名	抗PD-1抗体薬 (ニボルマブ)	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 HER2陰性転移性乳癌に対する抗PD-1抗体薬+放射線療法の安全性、有効性および免疫学的バイオマーカーとの関連を探索する臨床試験 - 第Ⅰb/Ⅱ相試験-。			
医療技術名	パルボシクリブ	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 PALLAS:PALbociclib CoLlaborative Adjuvant Study (パルボシクリブの術後補助療法に関する共同研究) ホルモン受容体陽性 (HR+) / ヒト上皮成長因子受容体2 (HER2) 陰性の早期乳がんに対するパルボシクリブと標準的な術後補助内分泌療法の併用と標準的な術後補助内分泌療法単独を比較する無作為化第Ⅲ相試験。			
医療技術名	パルボシクリブ	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 手術可能なホルモン感受性HER2陰性原発性乳癌の術前療法として、ホルモン療法+パルボシクリブとホルモン療法+プラセボを比較する第Ⅲ相ランダム化二重盲検比較試験。			
医療技術名	生体肝移植	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 生体ドナーから肝臓を提供いただきレシピエントに移植手術を行う。			

医療技術名	脳死肝移植	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
脳死ドナーから肝臓を提供いただきレシピエントに移植手術を行う。			
医療技術名	脳死小腸移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
ドナーから小腸を提供いただきレシピエントに移植手術を行う。			
医療技術名	難治緑内障に対するチューブシャント手術	取扱患者数	約30人
当該医療技術の概要			
従来の緑内障手術や点眼加療では十分な眼圧下降が得られない難治性緑内障にたいして、バルベルト®緑内障インプラントやアーメド緑内障バルブを用いた治療を行い、良好な治療成績が得られている。			
医療技術名	難治性視神経炎の診断と治療	取扱患者数	約10人
当該医療技術の概要			
視神経炎はステロイド点滴治療のみで改善し予後良好と考えられてきたが、ステロイド抵抗性や依存性の視神経炎も存在するため造影MRIや光干渉断層計を用いた評価、および症例に応じて血漿交換・免疫抑制剤を併用した治療を行っている。			
医療技術名	増殖糖尿病網膜症に対する小切開硝子体手術	取扱患者数	約40人
当該医療技術の概要			
難治性の網膜疾患である増殖糖尿病網膜症に対して、低侵襲な小切開硝子体手術を行い、合併症が少なく、良好な治療成績を得ている。			
医療技術名	糖尿病黄斑浮腫に対する抗VEGF療法	取扱患者数	約40人
当該医療技術の概要			
難治性の慢性疾患である糖尿病黄斑浮腫への新規治療である抗VEGF療法を行った。			
医療技術名	糖尿病網膜症の新規眼底イメージングによる評価法の確立	取扱患者数	約110人
当該医療技術の概要			
糖尿病網膜症に対して、光干渉断層計、光干渉断層計血管撮影、超広角眼底撮影などの眼底イメージングを用いて客観的な評価を行った。			
医療技術名	滲出型加齢黄斑変性に対する抗VEGF療法	取扱患者数	約400人
当該医療技術の概要			
滲出型加齢黄斑変性に対して、プロルシズマブ、アフリバルセプト、ラニビズマブ硝子体注射を行った。			
医療技術名	萎縮型加齢黄斑変性及びその前駆病変の眼底イメージングによる評価法の確立	取扱患者数	約200人
当該医療技術の概要			
萎縮型加齢黄斑変性およびその前駆病変(ドルーゼン)の患者に対して、カラー眼底写真、蛍光眼底造影、光干渉断層計、光干渉断層計血管造影、眼底自発蛍光などの眼底イメージングによる評価を行った。			
医療技術名	フォン・ヒッペル・リンドウ病における網膜血管腫の眼底イメージングによる評価法の確立	取扱患者数	約30人
当該医療技術の概要			
フォン・ヒッペル・リンドウ病患者およびその血縁者に対して、広角カラー眼底写真、広角蛍光眼底造影、光干渉断層計、光干渉断層計血管造影などの眼底イメージングによる評価を行った。			
医療技術名	次世代シーケンサーを用いた網膜色素変性の遺伝子変異診断	取扱患者数	約30人
当該医療技術の概要			
網膜色素変性を含む遺伝性網膜変性疾患に対し、次世代シーケンサーを用いた網羅的な遺伝子解析を行い、約半数の症例で原因となる遺伝子変異を同定した。			
医療技術名	仮面症候群及び急性網膜壊死に対する硝子体手術	取扱患者数	約20人
当該医療技術の概要			
仮面症候群は悪性腫瘍に伴うブドウ膜炎で、予後不良の疾患である。また、急性網膜壊死はヘルペスウイルスによる視力障害が重篤な疾患である。これらに対して、診断目的もしくは視機能改善を目指した硝子体手術を施行した。			

医療技術名	難治性不妊症患者に対する自己末梢血リンパ球を用いた免疫療法	取扱患者数	31人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>複数回に渡る形態良好胚を移植しても妊娠にいたらない難治性不妊患者に対して自己末梢血リンパ球を一定期間培養した後、胚移植に先んじて子宮内に投与する方法。</p>			
医療技術名	小児・若年女性のがん患者における妊孕能温存のための卵巣組織凍結保存	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>小児・若年がん患者に対してがん治療開始前に、卵巣組織を腹腔鏡にて摘出し、保存する方法。</p>			
医療技術名	若年女性のがん、免疫疾患、および早発卵巣機能不全患者における妊孕能温存のための卵子凍結保存	取扱患者数	12人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>小児・若年がん患者に対してがん治療開始前に、体外受精と同様の方法で、未受精卵子を採卵し、凍結保存する方法。</p>			
医療技術名	小児カテーテル治療	取扱患者数	41人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>経皮的心臓内手術をカテーテルにより行う。</p>			
医療技術名	胎児心エコー診断	取扱患者数	55人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>胎児期に心臓エコーで先天性心疾患を診断。</p>			
医療技術名	胎児心臓病治療	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>主に不整脈疾患の胎児心臓病治療。</p>			
医療技術名	在宅肺高血圧治療薬持続点滴	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>重症肺高血圧治療の一環として在宅点滴医療。</p>			
医療技術名	小児経皮的心房中隔欠損閉鎖術	取扱患者数	6人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>カテーテルを用いた、心房中隔欠損孔の閉鎖術。</p>			
医療技術名	CAR-T細胞療法	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>再発/難治急性リンパ性白血病に対するCD19 CAR-T細胞治療。</p>			
医療技術名	完全体腔内尿路変向術	取扱患者数	6人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>体腔鏡下膀胱全摘除術に伴う尿路変向術(回腸導管造設術・回腸利用新膀胱造設術など)を体腔鏡下に実施する事でより低侵襲に手術を行う。</p>			
医療技術名	膀胱前腔温存 ロボット支援体腔鏡下前立腺全摘除術	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>ロボット支援体腔鏡下前立腺全摘除術の際に膀胱前腔温存を温存するアプローチを採用することで術後の尿失禁を予防する。</p>			
医療技術名	Level 2 以上IVC塞栓を伴う腎癌に対する腎摘除術	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>肝内IVCのレベルまで進展した腫瘍塞栓を伴う腎癌に対する腎摘除術を安全・確実に行う。</p>			

医療技術名	全身化学療法後の精巣腫瘍に対する後腹膜リンパ節郭清	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
全身化学療法後に強固に癒着した後腹膜リンパ節組織を安全・確実に郭清する。			
医療技術名	T1b以上の腎細胞癌に対するロボット支援下腎部分切除術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
cT1b(4cm以上)の腎細胞癌に対してロボット支援下腎部分切除術を行う(一般的な適応はcT1a(4cm以下)まで)。			
医療技術名	副腎癌に対する開胸開腹併用での切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
横隔膜浸潤などが疑われる副腎癌症例に対して開腹だけではなく開胸も行つて経横隔膜アプローチも併用し安全な手術を行う。			
医療技術名	広範頭蓋底腫瘍切除・再建術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
頭蓋底腫瘍(悪性腫瘍含む)に対する摘出手術及び切除後再建手術を、内視鏡手術、開頭手術、外切開手術、単独あるいは組み合わせた術式で行う。			
医療技術名	腫瘍椎体全摘手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
原発または転移性腫瘍の存在する脊椎骨の全摘手術。			
医療技術名	頸椎後縦靱帯骨化症前方手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
頸椎後縦靱帯骨化巣の前方切除固定術。			
医療技術名	早期肺癌および肝癌に対する動体追尾定位放射線治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
肺がんや肝がんの呼吸性移動に合わせて放射線治療ビームの方向を追従させ、がんに限局した照射を行う放射線治療である。従来法と比較して、がん病巣への線量を損なうことなく、正常肺、肝臓の線量を約20%低減することが可能となった。			
医療技術名	局所進行膵癌に対する動体追尾強度変調放射線治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
動体追尾機能と強度変調放射線治療(IMRT)とを組み合わせた革新的な治療法であり、治療の難しかった局所進行膵癌に対して実施している。従来法と比較して治療強度を大きく高めつつ、周囲臓器への線量は低く抑えることが可能となった。			
医療技術名	前立腺癌に対する寡分割定位的強度変調放射線治療	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要			
前立腺癌に対して寡分割定位的強度変調放射線治療を適用することにより治療期間を約3週間と従来の半分以上に短縮することが可能となり、患者負担を軽減する治療である。			
医療技術名	食道癌に対する強度変調放射線治療	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要			
食道癌に対して強度変調放射線治療を利用することで、従来は実現不能だった脊髄への線量を抑え、癌病巣に必要な線量を投与することが可能となった。			
医療技術名	肛門管癌に対する強度変調放射線治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
肛門管癌に対して強度変調放射線治療を利用することで、外陰部、膀胱、小腸への不要な高線量被曝を抑え、癌病巣へ必要な線量を投与することが可能となった。			
医療技術名	Dynamic WaveArc照射法	取扱患者数	51人
当該医療技術の概要			
Vero4DRTではその構造上の特徴から、患者を動かすことなく非同一平面からの照射を用いた回転式の強度変調放射線治療を行うことが可能となり、病巣の周囲の正常臓器への線量を通常の回転式強度変調放射線治療よりも低減することが可能となった。			

医療技術名	下部直腸癌に対する強度変調放射線治療	取扱患者数	4人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>下部直腸癌に対して強度変調放射線治療を利用することで、小腸、大腸への不要な高線量被曝を軽減し、原発巣と所属リンパ領域へ適切な線量を投与可能となった。</p>			
医療技術名	多発脳転移に対するsingle isocenter volumetric-modulated arc radiosurgery	取扱患者数	13人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>多発脳転移に対して強度変調放射線治療と定位放射線治療を併用することにより、短い治療時間で病巣に必要な線量を投与することが可能となった。</p>			
医療技術名	68Ga-DOTATOC-PET・CT検査	取扱患者数	約10人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>自家合成したPET製剤(68Ga-DOTATOC)を投与してPET/CTを撮像し、神経内分泌腫瘍の病巣検索やルタテラによる内照射治療の適否を決めるためのソマトスタチン受容体イメージングを行うものである。従来のオクトレオスキャンより診断精度が高く、ソマトスタチン受容体イメージングとしては欧米では本検査が主流であるが、本邦では当施設のみ施行している。</p>			
医療技術名	術中3TMRIを用いた頭蓋内腫瘍摘出術	取扱患者数	47人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>頭蓋内腫瘍摘出術中に3TMRIを撮影し、腫瘍摘出や合併症の有無を検査することでより高度な治療を提供する。</p>			
医療技術名	覚醒下手術と機能部位同定を用いた頭蓋内腫瘍・てんかん焦点切除術	取扱患者数	30人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>てんかん、脳腫瘍の手術で術中に覚醒し、神経機能マッピング、脳波検査を行ない、より正確な局在診断の上で手術を実施できる。</p>			
医療技術名	移動型CT・術中3TMRIを用いた内視鏡下経鼻的頭蓋底腫瘍摘出術	取扱患者数	56人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>移動型CT・術中3TMRIを用いることでより正確な頭蓋底腫瘍摘出が可能である。</p>			
医療技術名	functional MRI	取扱患者数	24人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>MRIを用いて脳機能マッピングを行い、摘出可能領域を決定する。</p>			
医療技術名	propofolを用いたWADA test	取扱患者数	21人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>頰動脈よりプロポフォールを投与し、優位半球となる言語、記憶機能半球を同定する。</p>			
医療技術名	内視鏡下腫瘍摘出術	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>小開頭で内視鏡を用いることで、低侵襲頭蓋内腫瘍摘出を行う。</p>			
医療技術名	ロボットスーツHALを用いたリハビリテーション	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>脳損傷後運動障害に対するロボットスーツHALを用いたリハビリテーションを行うことで機能回復をはかる。</p>			
医療技術名	flow diverter stentを用いた脳動脈瘤の治療	取扱患者数	29人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>難治性大型脳動脈瘤に対して、flow diverter stentを使用した血管内治療を行う。</p>			
医療技術名	脳磁図(MEG)を用いた脳機能局在の解析	取扱患者数	37人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>脳磁図を用いた脳機能局在、てんかん焦点の同定。</p>			
医療技術名	自家培養表皮を用いた皮膚再建	取扱患者数	20人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>先天性巨大色素性母斑患者に対し、母斑切除後の皮膚再建を自家培養表皮を用いて行う。</p>			

医療技術名	母指多指症に対する併合法を用いた母指再建術	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 低形成な多指症組織を融合して健常と同等の母指を再建する手術。			
医療技術名	骨短縮症に対する骨延長術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 創外固定器を用いて仮骨延長および骨延長および骨移植を行い、骨短縮症の骨を健常同等にする手術。			
医療技術名	唇裂患者に対する口唇形成手術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 唇裂患者の初回口唇形成術ならびに術後変形に対して機能的、審美的な面に配慮して行う手術。			
医療技術名	口蓋裂患者に対する口蓋形成術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 口蓋裂患者の鼻咽腔閉鎖機能改善を目的として筋層再建も併用した口蓋閉鎖手術。			
医療技術名	顎裂患者に対する顎裂骨移植手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 顎裂に対して骨移植を行い、その後の歯列矯正や顔貌改善を目的とした手術。			
医療技術名	唇裂患者に対する外鼻形成手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 唇裂を原因として発症した外鼻変形に対して自家組織を用いて機能および審美性を回復させる手術。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	6	56	ベーチェット病	112
2	筋萎縮性側索硬化症	40	57	特発性拡張型心筋症	71
3	脊髄性筋萎縮症	10	58	肥大型心筋症	15
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	16	60	再生不良性貧血	36
6	パーキンソン病	331	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	9	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	33
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トウス病	3	65	原発性免疫不全症候群	26
11	重症筋無力症	117	66	IgA 腎症	49
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	32
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	59	68	黄色靱帯骨化症	4
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	24	69	後縦靱帯骨化症	50
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	7
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	67
17	多系統萎縮症	38	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	51	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライゾーゾーム病	3	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	11
21	ミトコンドリア病	13	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	144	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	37
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	125
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	28	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	93
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	175
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	70
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	27
34	神経線維腫症	32	89	リンパ脈管筋腫症	25
35	天疱瘡	20	90	網膜色素変性症	140
36	表皮水疱症	6	91	バッド・キアリ症候群	11
37	膿疱性乾癬(汎発型)	9	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	78
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	21
40	高安動脈炎	84	95	自己免疫性肝炎	11
41	巨細胞性動脈炎	9	96	クローン病	182
42	結節性多発動脈炎	34	97	潰瘍性大腸炎	288
43	顕微鏡的多発血管炎	43	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	18	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	28	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	47	101	腸管神経節細胞減少症	1
47	バージャー病	8	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	7	103	GFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	568	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	257	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	218	106	クリオピリン関連周期熱症候群	6
52	混合性結合組織病	72	107	全身型若年性特発性関節炎	2
53	シェーグレン症候群	95	108	TNF受容体関連周期性症候群	2
54	成人スチル病	30	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	24	110	フラウ症候群	0
	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
113	筋ジストロフィー	13	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	2
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	5
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	14



118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	3
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	1
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	1	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	1	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	4	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	2
144	レノックス・ガストー症候群	2	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	1	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	5	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	0
疾 患 名		患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラー ゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	1	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	2	266	家族性地中海熱	4
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	3	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ 症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	22	270	慢性再発性多発性骨髄炎	2
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	31
224	紫斑病性腎炎	5	272	進行性骨化性線維異形成症	2
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	1
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	7	277	リンパ管腫症/ゴーム病	2
230	肺胞低換気症候群	2	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	2

232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	1
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	1
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	5
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	1	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスporter1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	32
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	2	299	囊胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	28
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	1
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	2	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトースー1ーリン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	14
	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	1	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	0
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 特定機能病院入院基本料(一般病棟)7対1入院基本料	・ 精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 後発医薬品使用体制加算1
・ 歯科外来診療環境体制加算2	・ 病棟薬剤業務実施加算1
・ オンライン診療料	・ 病棟薬剤業務実施加算2
・ 救急医療管理加算	・ データ提出加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ 入退院支援加算
・ 診療録管理体制加算1	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 医師事務作業補助体制加算1	・ 精神疾患診療体制加算
・ 急性期看護補助体制加算	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 看護職員夜間配置加算	・ 地域医療体制確保加算
・ 看護補助加算	・ 特定集中治療室管理料2
・ 療養環境加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料1
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 新生児特定集中治療室管理料1
・ 無菌治療室管理加算1	・ 総合周産期特定集中治療室管理料
・ 無菌治療室管理加算2	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 緩和ケア診療加算	・ 小児入院医療管理料2
・ 精神科応急入院施設管理加算	・ 精神科急性期治療病棟入院料1
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 短期滞在手術等基本料1
・ 精神科リエゾンチーム加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染防止対策加算1	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・ウイルス疾患指導料	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・外来栄養食事指導料の注2	・薬剤管理指導料
・糖尿病合併症管理料	・医療機器安全管理料1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・医療機器安全管理料2
・がん患者指導管理料イ	・精神科退院時共同指導料1及び2
・がん患者指導管理料ロ	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
・がん患者指導管理料ハ	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・がん患者指導管理料ニ	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・外来緩和ケア管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・遺伝学的検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・精密触覚機能検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・小児運動器疾患指導管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・がんゲノムプロファイリング検査
・婦人科特定疾患治療管理料	・先天性代謝異常症検査
・腎代替療法指導管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・院内トリアージ実施料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・外来放射線照射診療料	・検体検査管理加算(Ⅰ)
・ニコチン依存症管理料	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・国際標準検査管理加算
・がん治療連携計画策定料	・遺伝カウンセリング加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・小児鎮静下MRI撮影加算
・胎児心エコー法	・頭部MRI撮影加算
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・全身MRI撮影加算
・ヘッドアップティルト試験	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・外来化学療法加算1
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・連携充実加算
・脳波検査判断料1	・無菌製剤処理料
・脳磁図(自発活動を測定するもの)	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・脳磁図(その他のもの)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・神経学的検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・補聴器適合検査	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ロービジョン検査判断料	・摂食機能療法の注3に掲げる摂食嚥下支援加算
・コンタクトレンズ検査料1	・がん患者リハビリテーション料
・小児食物アレルギー負荷検査	・歯科口腔リハビリテーション料2
・内服・点滴誘発試験	・精神科作業療法
・経気管支凍結生検法	・認知療法・認知行動療法1
・画像診断管理加算3	・精神科ショート・ケア「大規模なもの」
・遠隔画像診断	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・ポジトロン断層撮影	・精神科デイ・ケア「大規模なもの」
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・乳房用ポジトロン断層撮影	・医療保護入院等診療料
・CT撮影及びMRI撮影	・人工腎臓
・冠動脈CT撮影加算	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・心臓MRI撮影加算	・CAD／CAM冠
・乳房MRI撮影加算	・歯科技工加算1及び2

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・センチネルリンパ節加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・皮膚移植術(死体)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・椎間板内酵素注入療法	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・同種死体肺移植術
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・生体部分肺移植術
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る。)	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・胸腔鏡下弁形成術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・経カテーテル大動脈弁置換術
・人工中耳植込術	・胸腔鏡下弁置換術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・経皮的僧帽弁クリップ術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・ 腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・ 腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・ 同種死体腎移植術
・ 補助人工心臓	・ 生体腎移植術
・ 植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・ 膀胱水圧拡張術
・ 経皮的下肢動脈形成術	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ 腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・ 腹腔鏡下仙骨脛固定術
・ 腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 腹腔鏡下仙骨脛固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・ 腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 腹腔鏡下肝切除術	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・ 生体部分肝移植術	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・ 同種死体肝移植術	・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術
・ 腹腔鏡下脾腫瘍摘出術	・ 胎児輸血術
・ 腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・ 腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・ 同種死体脾移植術、同種死体脾腎移植術	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・ 同種死体脾島移植術	・ 輸血管理料 I
・ 生体部分小腸移植術	・ コーディネート体制充実加算
・ 同種死体小腸移植術	・ 同種クリオプレシビテート作製術
・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・ 麻酔管理料(Ⅰ)	・
・ 麻酔管理料(Ⅱ)	・
・ 放射線治療専任加算	・
・ 外来放射線治療加算	・
・ 高エネルギー放射線治療	・
・ 1回線量増加加算	・
・ 強度変調放射線治療(IMRT)	・
・ 画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・ 体外照射呼吸性移動対策加算	・
・ 定位放射線治療	・
・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・ 画像誘導密封小線源治療加算	・
・ 保険医療機関間の連携による病理診断	・
・ 保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	・
・ 保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	・
・ 病理診断管理加算2	・
・ 悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・ クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・ 歯科矯正診断料	・
・ 顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)	・
・	・
・	・
・	・
・	・



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	29回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 23 例 / 剖検率 8.3 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
APOBEC3によるゲノム変異導入と癌のクローン進化の病態解明	高折 晃史	血液内科	4,290,000	補委○	文部科学省
(HIV感染者等保健福祉相談事業) HIV感染者等保健福祉相談事業	高折 晃史	血液内科	750,000	補委○	公益財団法人エイズ予防財団 理事長
qPCR高感度化を目的とした唾液サンプルからのSARS-CoV-2濃縮精製カラムデバイスの開発	高折 晃史	血液内科	49,400,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
中分子アゴニスト創薬のロジカルデザイン～OX40アゴニスト開発を実施例として～	高折 晃史	血液内科	12,000,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 職 理事長
アルパカVHH抗体技術を用いたHIV-1感染症の抗体製剤及びCAR-T療法の開発	高折 晃史	血液内科	19,000,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 職 理事長
機能的抗体誘導HIVワクチン開発に関する研究	高折 晃史	血液内科	1,300,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 職 理事長
VHH抗体技術を用いた新規SARS-CoV-2中和抗体の開発	高折 晃史	血液内科	39,000,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 職 理事長
慢性移植片対宿主病の病態における好中球細胞外トラップの役割の解明	山下 浩平	血液内科	1,560,000	補委○	文部科学省
マウスB細胞腫瘍モデルを用いたNotchシグナル活性化の意義の解明	錦織 桃子	血液内科	1,560,000	補委○	文部科学省
(国立がん研究センターとの医師主導治験) 再発/治療抵抗性節外性NK/T細胞リンパ腫-鼻型に対するアテゾリズマブの第II相医師主導治験	錦織 桃子	血液内科	400,000	補委○	国立がん研究センター 理事長
臨床データ解析による臍帯血移植成績向上のための国際標準アルゴリズム確立	諫田 淳也	血液内科	1,560,000	補委○	文部科学省
HIV-1Vif/HDAC3複合体によるHIV-1潜伏感染転写ネットワークの制御	白川 康太郎	血液内科	1,300,000	補委○	文部科学省
リン酸化プロテオーム解析による形質細胞様樹状細胞のIFN産生メカニズムの解明	北脇 年雄	血液内科	1,430,000	補委○	文部科学省
KIRアレル多型に着目した造血幹細胞移植における免疫の最適化	進藤 岳郎	血液内科	1,430,000	補委○	文部科学省
IDH1-NPM1変異急性骨髄性白血病マウスを用いた化学療法抵抗性獲得機序の解明	阪本 貴士	血液内科	1,690,000	補委○	文部科学省
TKI製剤による免疫細胞への影響とTreg減少感受性の検証	北脇 年雄	血液内科	1,950,000	補委○	国立大学法人大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 拠点長
正常妊娠維持および不育症におけるスフィンゴ脂質代謝の役割の解明	水岸 貴代美	血液内科	1,430,000	補委○	文部科学省
栄養素感知に関わる腸管内分泌ホルモン分泌機構の統合的解析	稲垣 暢也	糖尿病・内分泌・栄養内科	7,540,000	補委○	文部科学省
シングルセルエピゲノム解析を用いた膵β細胞増殖制御機序の解明	稲垣 暢也	糖尿病・内分泌・栄養内科	3,510,000	補委○	文部科学省
((公財)糖尿病財団からの受託研究【10%】) 2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験(I-DOIT3)【10%】	稲垣 暢也	糖尿病・内分泌・栄養内科	200,000	補委○	公益財団法人日本糖尿病財団 理事長
オレンジレジストリを活用した認知症予防とケアに関する研究	稲垣 暢也	糖尿病・内分泌・栄養内科	800,000	補委○	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター

食によるヘルスケア産業創出コンソーシアム「食を通じた健康システムの確立による健康寿命の延伸への貢献」	稲垣 暢也	糖尿病・内分泌・栄養内科	17,995,315	補委○	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 理事長
日米医学協力計画を基軸にしたアジアの栄養・代謝に関する疫学・介入研究と人材育成	稲垣 暢也	糖尿病・内分泌・栄養内科	4,000,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 職 理事長
日本人の糖尿病・肥満症発症予防に対する褐色脂肪組織の役割および制御因子の解明	稲垣 暢也	糖尿病・内分泌・栄養内科	9,997,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 職 理事長
難治性副腎疾患の診療に直結するエビデンス創出	稲垣 暢也	糖尿病・内分泌・栄養内科	780,000	補委○	独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター 院長
GIP分泌を抑制する栄養素の探索と作用機序の解明	原田 範雄	糖尿病・内分泌・栄養内科	1,430,000	補委○	文部科学省
ヒトiPS細胞由来血管細胞分化誘導法の血管病態解明への応用	田浦 大輔	糖尿病・内分泌・栄養内科	1,690,000	補委○	文部科学省
次世代シーケンス技術を用いた、若年発症糖尿病の新規原因遺伝子解明	田中 大祐	糖尿病・内分泌・栄養内科	1,560,000	補委○	文部科学省
炭酸脱水酵素5 (Car8)によるGLP-1分泌制御機構の解明	山根 俊介	糖尿病・内分泌・栄養内科	1,430,000	補委○	文部科学省
小胞体内カルシウム・センサーSTIMによるインスリン分泌制御基盤の研究	小倉 雅仁	糖尿病・内分泌・栄養内科	1,560,000	補委○	文部科学省
免疫チェックポイント阻害薬による内分泌障害：臨床像から発症機序に迫る	山内 一郎	糖尿病・内分泌・栄養内科	1,430,000	補委○	文部科学省
テトラヒドロビオプテリンを用いた褐色脂肪重量の制御による肥満・糖尿病予防法の開発	藤田 義人	糖尿病・内分泌・栄養内科	1,430,000	補委○	文部科学省
TSH過剰発現マウスを用いた甲状腺機能亢進症に対する新規治療の基盤構築	山内 一郎	糖尿病・内分泌・栄養内科	2,080,000	補委○	文部科学省
膵β細胞における小胞体膜タンパクSTIMの意義の解明	臼井 亮太	糖尿病・内分泌・栄養内科	1,430,000	補委○	文部科学省
膵β細胞における炭酸脱水酵素8 (Car8)によるインスリン分泌制御機構の解明	臼井 亮太	糖尿病・内分泌・栄養内科	2,210,000	補委○	文部科学省
CNPの発現調節機構解明による新規低身長治療の探索研究	植田 洋平	糖尿病・内分泌・栄養内科	1,560,000	補委○	文部科学省
シングルセルATAC-seqと臓切除モデルを用いた増殖膵β細胞のエピゲノム解析	龍岡 久登	糖尿病・内分泌・栄養内科	2,340,000	補委○	文部科学省
慢性炎症を転写誘導する代謝基盤の解明	三河 拓己	糖尿病・内分泌・栄養内科	1,170,000	補委○	文部科学省
心不全発症経過における成人マウス心筋からの転写コアクチベータp300複合体精製	木村 剛	循環器内科	450,000	補委○	独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター 院長
2型糖尿病合併不整脈治療デバイス植え込み患者におけるエンパグリフロジン介入後の重症不整脈数変化を評価するためのプラセボ対照二重盲検比較試験	木村 剛	循環器内科	110,000	補委○	国立大学法人 新潟大学
(国立循環器病研究センターからの受託研究)生体弁置換術後心房細動患者の抗血栓療法に関するレジストリー	木村 剛	循環器内科	1,512,000	補委○	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 理事長
拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録観察研究	木村 剛	循環器内科	260,000	補委○	国立大学法人 九州大学 学長
高張り応力を伴う循環器難病に随伴する出血性合併症予知法の開発	木村 剛	循環器内科	260,000	補委○	国立大学法人 東北大学加齢医学研究所 所長
長鎖非コードRNAの循環器疾患における機能解明と疾患治療への応用	尾野 亘	循環器内科	6,630,000	補委○	文部科学省
細胞保護による新規心不全治療薬の開発	尾野 亘	循環器内科	2,990,000	補委○	文部科学省
マイクロRNAと心血管疾患に関する基礎的・臨床的研究	尾野 亘	循環器内科	440,000	補委○	独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター 院長
マイクロRNAと心血管疾患に関する基礎的・臨床的研究	尾野 亘	循環器内科	610,000	補委○	独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター 院長

新規血管石灰化マウスを用いた大動脈弁狭窄症のメカニズム解析	芦田 昇	循環器内科	1,430,000	補委○	文部科学省
心筋細胞リプログラミング・線維化抑制を機序とする慢性心不全治療薬創薬標的の検証	芦田 昇	循環器内科	1,250,001	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
損傷心筋の再生を機序とする心筋梗塞後心不全抑制薬の探索	芦田 昇	循環器内科	3,750,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
ブランク進展、破綻を予測するオンサイト冠動脈流体解析アルゴリズム開発	齋藤 成達	循環器内科	910,000	補委○	文部科学省
proBNPの糖鎖修飾制御機構の解明に基づく心疾患の新規診断法・治療法の開発	中川 靖章	循環器内科	1,300,000	補委○	文部科学省
コレステロールにより制御される長鎖非コードRNAの機能解析とその臨床応用	堀江 貴裕	循環器内科	1,560,000	補委○	文部科学省
心臓疾患のバイオマーカー開発のための心音データの共同利用システムの構築に関する研究	齋藤 成達	循環器内科	1,650,000	補委○	国立大学法人 熊本大学
ATP保持作用を有した新規化合物による心不全治療法の開発	渡邊 真	循環器内科	2,080,000	補委○	文部科学省
ブランクびらんを伴う急性冠動脈症候群における血栓形成の機序の解明	山本 絵里香	循環器内科	780,000	補委○	文部科学省
ヒトIPS細胞由来分化心筋の数理モデル構築による創薬、疾患モデル解析への応用	梶谷 泰彦	循環器内科	1,040,000	補委○	文部科学省
Gαoの新規心不全治療標的としての意義の研究	稲住 英明	循環器内科	1,430,000	補委○	文部科学省
三量体Gタンパク質を介した心不全進展の新規発症機序の解明と治療法の開発	稲住 英明	循環器内科	1,690,000	補委○	文部科学省
肺高血圧症病態におけるHOX遺伝子の関与と治療応用の探索	木村 昌弘	循環器内科	1,560,000	補委○	文部科学省
臓器間ネットワークを司る多機能ペプチダーゼによる糖代謝制御機構の解明	松田 真太郎	循環器内科	1,430,000	補委○	文部科学省
致死性家族性不整脈疾患における最新ゲノム編集技術を用いた疾患特異的iPS細胞研究	烏日揚海 伊敏	循環器内科	2,080,000	補委○	文部科学省
ヒト膵がん幹細胞動態の生体「内外」ライブイメージング	妹尾 浩	消化器内科	4,160,000	補委○	文部科学省
分化の揺らぎを克服する新規大腸がん治療戦略の構築	妹尾 浩	消化器内科	4,680,000	補委○	文部科学省
マイクロサテライト安定性大腸がんに対するがん幹細胞免疫療法の開発	妹尾 浩	消化器内科	13,000,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
患者生体試料リソースプラットフォームの構築と運用	妹尾 浩	消化器内科	4,000,100	補委○	国立研究開発法人 科学技術振興機構 分任研究契約担当者 契約部長
潰瘍性大腸炎の自己抗原および自己抗体同定と特異的診断法の樹立	宇座 徳光	消化器内科	1,430,000	補委○	文部科学省
浸潤性膵癌形成後の維持・進行におけるクロマチン制御因子の機能とその分子機構の解明	福田 晃久	消化器内科	4,160,000	補委○	文部科学省
微生物叢と宿主の相互作用に基づく膵がん発症メカニズムの解明	福田 晃久	消化器内科	22,291,724	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
クロマチンリモデリング因子と合成致死性を標的とした新規膵がん治療法の開発	福田 晃久	消化器内科	13,000,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
膵臓がん、胆道がんモデル評価系の構築(2020-A-6)	福田 晃久	消化器内科	800,000	補委○	国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長
サイトメガロウイルス感染合併炎症性腸疾患における重症化、難治化機構の解明	山本 修司	消化器内科	1,430,000	補委○	文部科学省
慢性胃炎粘膜のゲノム解析による胃癌の起源の同定	清水 孝洋	消化器内科	1,560,000	補委○	文部科学省
膵癌局所の免疫賦活を最大化するナノ粒子TLR9リガンド併用光免疫療法の開発	高橋 健	消化器内科	1,430,000	補委○	文部科学省

肝発がん等を考慮したC型肝炎治療後の病態および経過に関する研究	高井 淳	消化器内科	1,300,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
次世代シーケンス技術を用いたC型肝炎の直接作用型抗ウイルス薬による治療後病態に影響をおよぼす因子に関する研究／HCV多剤耐性変異・肝移植症例の解明	高井 淳	消化器内科	2,000,000	補委○	国立大学法人 山梨大学
クローン病腸管狭窄治療におけるHSP47の役割とその臨床応用について	本澤 有介	消化器内科	1,300,000	補委○	文部科学省
消化器発癌過程におけるRegnase-1による炎症制御メカニズムの関与	恵莊 裕嗣	消化器内科	2,210,000	補委○	文部科学省
潰瘍性大腸炎の特異的自己抗原の同定による新規体外診断薬の開発	塩川 雅広	消化器内科	34,710,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
原発性硬化性胆管炎の病因自己抗原の同定	塩川 雅広	消化器内科	9,360,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
脂肪酸の代謝産物がIBDの病態に与える影響に関する検討	岡部 誠	消化器内科	1,430,000	補委○	文部科学省
腸腫瘍におけるArid1aの機能解析	平松 由紀子	消化器内科	1,430,000	補委○	文部科学省
B型肝炎ウイルスの非活動性キャリアにおける肝発癌機序の解析	荒澤 壮一	消化器内科	1,430,000	補委○	文部科学省
潰瘍性大腸炎における新規病因自己抗体の同定	栗田 威	消化器内科	1,430,000	補委○	文部科学省
全ゲノム解析とオルガノイド培養を用いた多段階肝発癌分子メカニズムの解明	高井 淳	消化器内科	1,300,000	補委○	文部科学省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	平井 豊博	呼吸器内科	15,090,000	補委○	厚生労働省
ヒトiPS細胞を用いた呼吸器難病の病態機序の解明と新規創薬基盤の確立	平井 豊博	呼吸器内科	86,400,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
間質性肺炎定量化技術を用いた、COVID-19等、新興・再興感染症に対するクラウド型病変定量化システムの研究開発	平井 豊博	呼吸器内科	6,500,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
下気道での細菌定着と重症喘息病態との関連性の解明:縦走的・包括的検討	松本 久子	呼吸器内科	1,300,000	補委○	文部科学省
統合失調症および自閉スペクトラム症への社会認知スキルトレーニング日本版の開発	大塚 貞男	精神科神経科	1,040,000	補委○	文部科学省
フェノタイプ・エンドタイプに着目した本邦の喘息患者における3年間予後の検討	松本 久子	呼吸器内科	19,800	補委○	独立行政法人 国立病院機構 東京病院
多能性幹細胞を用いたヒト由来肺組織シミュレーターの創出	後藤 慎平	呼吸器内科	22,100,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
気道・肺胞オルガノイドの作製と呼吸器チップの開発	後藤 慎平	呼吸器内科	1,300,000	補委○	国立研究開発法人 科学技術振興機構 分任研究契約担当者 契約部長
ヒトiPS細胞を用いた線毛機能不全症候群の新規診断法の開発と精密医療への応用	後藤 慎平	呼吸器内科	9,360,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
肺上皮細胞における転写因子の加齢性機能低下とCOPDの発症様式との検討	佐藤 篤靖	呼吸器内科	1,300,000	補委○	文部科学省
ドライバー遺伝子陽性肺癌における新規治療戦略の開発	小笹 裕晃	呼吸器内科	1,300,000	補委○	文部科学省
上葉優位型肺線維症の病態解明に基づく新規バイオマーカーと治療標的の探索	谷澤 公伸	呼吸器内科	1,560,000	補委○	文部科学省
肺胞オルガノイド移植による組織再生治療に向けた安全性評価システムの確立	後藤 慎平	呼吸器内科	2,990,000	補委○	文部科学省
IgG4関連疾患モデル「ヒトIgG4ノックインマウス」の改良と各薬剤の有効性検討	吉藤 元	免疫・膠原病内科	1,170,000	補委○	文部科学省

医師主導治験実施体制の確立、二重盲検比較試験の実施	吉藤 元	免疫・膠原病内科	1,000,000	補委○	国立大学法人 長崎大学
蛋白質・HLAクラスⅡ複合体の病原性の解明	大村 浩一郎	免疫・膠原病内科	1,300,000	補委○	国立大学法人 大阪大学微生物病研究所長
免疫オミクス情報とゲノム・臨床情報の統合によるRA患者層別化モデルの構築	大村 浩一郎	免疫・膠原病内科	1,755,000	補委○	国立大学法人 大阪大学 大学院医学系研究科長
自己免疫性疾患の臓器病変局所におけるシングルセルRNAシーケンスを用いたマルチオミクス解析による病態解明基盤の構築	大村 浩一郎	免疫・膠原病内科	130,000	補委○	国立大学法人 東京大学 総長 代理人 医学部附属病院 事務部長
抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎の病態におけるCX3CL1-CX3CR1の重要性の検討	笹井 蘭	免疫・膠原病内科	1,170,000	補委○	文部科学省
全身性エリテマトーデスにおける自己反応性の獲得とS100分子の関連	北郡 宏次	免疫・膠原病内科	910,000	補委○	文部科学省
敗血症における脂肪組織の病態生理学意義の検討	趙 晃済	初期診療・救急科	2,470,000	補委○	文部科学省
敗血症に合併した低体温における骨髄由来細胞のiNOSを介した病態的意義の解明	高谷 悠大	初期診療・救急科	1,300,000	補委○	文部科学省
AARS2変異によるミトコンドリア機能異常を介した白質ジストロフィーの病態解明	陣上 直人	初期診療・救急科	1,040,000	補委○	文部科学省
急性呼吸不全患者における睡眠呼吸障害を含めた客観的かつ縦断的睡眠評価手法	南 卓馬	初期診療・救急科	1,690,000	補委○	文部科学省
αシヌクレイノパチーの分子病態解明と治療法の開発	高橋 良輔	脳神経内科	9,620,000	補委○	文部科学省
パーキンソン病発症前から発症後に連続する神経回路病態の解明とトランスレータブル指標の開発	高橋 良輔	脳神経内科	156,000,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
臓器連関の包括的理解に基づく認知症関連疾患の克服に向けて	高橋 良輔	脳神経内科	9,999,600	補委○	国立研究開発法人科学技術振興機構 分任研究契約担当者 契約部長
多系統萎縮症の革新的治療法の開発研究	高橋 良輔	脳神経内科	1,027,000	補委○	国立大学法人 東京大学 総長 代理人 医学部附属病院 事務部長
DAT-SPECT、神経学的診察、認知機能等の心理評価、MRIデータの収集、解析	高橋 良輔	脳神経内科	375,960	補委○	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 理事長
小児の侵襲性肺炎球菌感染症分離菌の遺伝子解析	長尾 美紀	脳神経内科	198,744	補委○	独立行政法人 国立病院機構 三重病院 院長
【症例タイプ】パーキンソン病発症予防のための運動症状発症前biomarkerの特定のための研究(The Japan Parkinson's Progression Markers Initiative(通称:J-PPMI))	高橋 良輔	脳神経内科	308,000	補委○	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 理事長
実用化に向けた新規作用機序に基づくハンチントン病治療薬の開発	高橋 良輔	脳神経内科	28,158,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
シナプス小胞蛋白SV2BとBACE1の新規結合に着目したアルツハイマー病創薬研究	葛谷 聡	脳神経内科	1,690,000	補委○	文部科学省
適切な医療を目指した軽度認知障害等の患者の情報登録及び連携に関する研究	葛谷 聡	脳神経内科	800,000	補委○	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 理事長 荒井 秀典
パーキンソン病関連疾患のモデル作製と治療薬開発	山門 穂高	脳神経内科	4,680,000	補委○	文部科学省
細胞種特異的リポソーム・エクソソームが切り拓く神経疾患の病態解明と治療法開発	山門 穂高	脳神経内科	2,600,000	補委○	文部科学省

パーキンソン病前駆期モデル動物を活用した臓器間ネットワークの解明とヒトへのトランスレーションによるリスク予見法の創出	山門 穂高	脳神経内科	1,300,000	補委○	国立研究開発法人科学技術振興機構 分任研究契約担当者 契約部長
脳梗塞におけるオリゴデンドロサイト前駆細胞の形質変化の解明と治療応用	眞木 崇州	脳神経内科	1,560,000	補委○	文部科学省
急性期脳梗塞に対するアドレノメデュリンの特許申請に向けた非臨床研究の実施及び特許申請	眞木 崇州	脳神経内科	700,000	補委○	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
神経グリア血管単位ーリンパ管系に着目した血管性認知症および混合型認知症における臓器間ネットワークの解明とヒトへのトランスレーションによるリスク予見法の創出	眞木 崇州	脳神経内科	1,300,000	補委○	国立研究開発法人科学技術振興機構 分任研究契約担当者 契約部長
多系統萎縮症におけるオリゴデンドロサイト前駆細胞の役割の解明と新規治療法開発	眞木 崇州	脳神経内科	8,424,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事
包括的機能マッピングによる漢字・仮名読みの脳内神経基盤の解明	下竹 昭寛	脳神経内科	1,430,000	補委○	文部科学省
パーキンソン病と多系統萎縮症におけるインフラマソームを介した神経免疫制御の探索	綾木 孝	脳神経内科	1,040,000	補委○	文部科学省
アルファシヌクレイン伝播メカニズムの解析	樽野 陽亮	脳神経内科	910,000	補委○	文部科学省
レビー小体病に対するREM睡眠制御治療法の確立	江川 斉宏	脳神経内科	1,430,000	補委○	文部科学省
成人SMA患者レジストリの整備、成人期SMAの臨床的検討、SMA予後マーカー・因子の探索	綾木 孝	脳神経内科	479,375	補委○	国立大学法人 東海国立大学機構 契約担当 財務担当 理事
アルツハイマー病リスク遺伝子SV2BによるシナプスAβの産生調節機構の解明	宮本 将和	脳神経内科	1,170,000	補委○	文部科学省
新規パーキンソン病モデルマウスを用いたドパミン神経細胞死メカニズムの解明	生野 真嗣	脳神経内科	2,340,000	補委○	文部科学省
非ヒト霊長類の嗅球へのαシヌクレイン凝集体の接種によるパーキンソン病モデル	澤村 正典	脳神経内科	910,000	補委○	文部科学省
非ヒト霊長類モデルによるパーキンソン病の前駆症状(RBD)の解析	澤村 正典	脳神経内科	2,210,000	補委○	文部科学省
GBA1変異メダカを用いた、パーキンソン病疾患修飾治療薬の探索	中西 悦郎	脳神経内科	1,950,000	補委○	文部科学省
多系統萎縮症におけるオリゴデンドログリア特異的αシヌクレイン凝集体と伝播の解明	大野 美樹	脳神経内科	2,860,000	補委○	文部科学省
血管性認知症に対する低酸素刺激ミクログリアによる細胞療法の開発	安田 謙	脳神経内科	1,430,000	補委○	文部科学省
成熟に伴う臓器の機能獲得と疾患感受性獲得の分子メカニズムの解明	柳田 素子	腎臓内科	2,080,000	補委○	文部科学省
腎構成細胞「亜集団」の細胞老化が腎臓の老化と障害応答性に与える影響の解明	柳田 素子	腎臓内科	7,540,000	補委○	文部科学省
腎臓病において組織障害と修復を制御する微小環境の解明と医学応用	柳田 素子	腎臓内科	92,414,400	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事
腎臓内微小環境の加齢性変容の分子的定義付けと可視化にもとづく老化制御メカニズムの解明	柳田 素子	腎臓内科	23,400,000	補委○	国立大学法人 東北大学 病院長
慢性腎臓病進展における心腎連関の機序の解明	横井 秀基	腎臓内科	2,210,000	補委○	文部科学省
高塩、アルドステロンによる腎障害へのNa利尿ペプチド効果に対するCTGFの意義	石井 輝	腎臓内科	2,470,000	補委○	文部科学省
近位尿細管再生を担う細胞群の探索	北井 悠一郎	腎臓内科	1,690,000	補委○	文部科学省
糖尿病性腎症におけるmicroRNAの意義	大野 祥子	腎臓内科	1,690,000	補委○	文部科学省
アルドステロンによる糸球体障害におけるポドサイトのp38MAPKの役割の解明	加藤 有希子	腎臓内科	2,470,000	補委○	文部科学省
がんクリニカルシークエンスにおけるVUS変異の生物学的・臨床的意義の解明	武藤 学	腫瘍内科	5,590,000	補委○	文部科学省
現場や地域の実情に即したがん治療と並行する緩和ケアの実装の推進に関する研究	武藤 学	腫瘍内科	2,106,000	補委○	厚生労働省

診療機関併設バイオバンクのネットワーク参画	武藤 学	腫瘍内科	22,100,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 職 理事長
希少がんに対する遺伝子プロファイリングと標的治療に関する前向きレジストリ臨床研究(MASTERKEY Project)	武藤 学	腫瘍内科	7,000,000	補委○	国立研究開発法人国立がん研究センター 理事長
難治性食道癌におけるPrecision Medicineに資する診断技術開発に関する研究	武藤 学	腫瘍内科	24,130,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 職 理事長
消化管内視鏡を用いた治療における標準治療確立のための多施設共同研究(2020-J-3)	武藤 学	腫瘍内科	5,870,000	補委○	国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長
希少がんに対する遺伝子プロファイリングと標的治療に関する前向きレジストリ臨床研究(MASTERKEY Project)	武藤 学	腫瘍内科	9,500,000	補委○	国立研究開発法人国立がん研究センター 理事長
局所切除後の垂直断端陰性かつ高リスク下部直腸粘膜下層浸潤癌(pT1癌)に対するカペシタビン併用放射線療法単群検証的試験に関する研究開発(JCOG1612)／患者登録、プロトコル治療の遂行	武藤 学	腫瘍内科	650,000	補委○	国立研究開発法人国立がん研究センター 理事長
「頭頸部表在癌全国登録調査」に基づいた頭頸部表在癌に対する診断・治療法の開発に関する研究	武藤 学	腫瘍内科	130,000	補委○	国立研究開発法人国立がん研究センター 理事長
【臨】HER2増幅固形癌に対するトラスツマブ・ペルツマブ併用療法のバスケットライアル Basket trial of trastuzumab and pertuzumab combination therapy for HER2 amplified	武藤 学	腫瘍内科	2,808,000	補委○	国立大学法人 東京医科歯科大学 学長
(国立がん研究センターからの受託研究)希少がんに対するニボルマブ単剤療法の医師主導治験	金井 雅史	腫瘍内科	400,000	補委○	国立がん研究センター 理事長
(国立がん研究センターからの受託研究)希少がんに対するニボルマブ単剤療法の医師主導治験	金井 雅史	腫瘍内科	400,000	補委○	国立がん研究センター 理事長
大腸管状腺腫の遺伝子変異プロファイルおよび生物学的多様性についての研究	山田 敦	腫瘍内科	1,690,000	補委○	文部科学省
大腸癌の抗癌剤耐性機序に関わるCDKN3を標的とした新規薬剤及び治療法開発	松原 淳一	腫瘍内科	1,300,000	補委○	文部科学省
食道がん化における初期のゲノム異常の解明-多発ヨード不染の網羅的ゲノム解析-	横山 顕礼	腫瘍内科	7,150,000	補委○	文部科学省
KRASの超生理的活性化を標的としたKRAS増幅胃癌フェロトーシス誘導療法の開発	菊池 理	腫瘍内科	1,430,000	補委○	文部科学省
放射線療法、化学療法に伴い正常食道上皮に生じるゲノム異常の解明	横山 顕礼	腫瘍内科	1,950,000	補委○	文部科学省
抗PD-1抗体の効果予測バイオマーカーの確立	野村 基雄	腫瘍内科	2,210,000	補委○	文部科学省
乳癌臨床検体を用いたホルモン治療耐性メカニズムの解明	川口 展子	腫瘍内科	2,990,000	補委○	文部科学省
弾性圧迫グローブ・ストッキングによる圧迫療法の化学療法起因性末梢神経障害予防効果を検討する探索的な多施設共同ランダム化比較試験	川口 展子	腫瘍内科	9,009,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 職 理事長
アセトアルデヒド曝露により誘発される突然変異パターンの同定	玉置 将司	腫瘍内科	130,000	補委○	文部科学省
死別が遺族に与える肯定的影響に関する質的検討	嶋田 和貴	緩和医療科	130,000	補委○	文部科学省
感覚融合法を用いた追体験没入型内視鏡外科手術教育システムの開発と有効性の評価	小濱 和貴	消化管外科	1,040,000	補委○	文部科学省
ロボット支援手術における熟練技術追体験型学習システム	小濱 和貴	消化管外科	2,600,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 職 理事長
腸内細菌を指標とした大腸がんの早期診断方法の開発／京都大学病院のサンプルを用いた大腸がん診断モデルの検証	小濱 和貴	消化管外科	1,300,000	補委○	国立大学法人 大阪大学微生物病研究所長
上部消化管癌患者に対する周術期栄養運動プログラムの開発	角田 茂	消化管外科	1,560,000	補委○	文部科学省



大腸癌微小環境におけるケモカイン・シグナルを標的とした治療戦略	河田 健二	消化管外科	1,430,000	補委○	文部科学省
腫瘍微小環境における好中球をターゲットとした新規大腸がん治療戦略の構築	板谷 喜朗	消化管外科	1,170,000	補委○	文部科学省
胃癌腹膜播種進行のメカニズム解明	久森 重夫	消化管外科	1,040,000	補委○	文部科学省
3D肛門形態・機能解析を用いた直腸癌術後の排便機能障害発生メカニズムの解明	岡田 倫明	消化管外科	2,730,000	補委○	文部科学省
大腸癌自然肝転移マウスモデルを利用した大腸癌肝転移巣微小環境特性の解明	山本 高正	消化管外科	1,430,000	補委○	文部科学省
内視鏡外科手術のデータベース構築に資する横断的基盤整備／臨床データ収集とデータセット作成	坂井 義治	消化管外科	6,337,500	補委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構理事長
【臨】StageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験 (IFM)	坂井 義治	消化管外科	10,800	補委○	公益財団法人がん集学的治療研究財団理事長
【臨】StageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験 (IFM)	坂井 義治	消化管外科	55,000	補委○	公益財団法人がん集学的治療研究財団理事長
新規概念によるNMR測定を用いた乳がん血清診断法の開発	戸井 雅和	乳腺外科	4,030,000	補委○	文部科学省
TP53ステータス遺伝子発現プロファイル (TP53 signature) による乳がんの予後および治療効果の予測性の検証試験	戸井 雅和	乳腺外科	40,000	補委○	国立大学法人東北大学大学院医学系研究科長
自然言語処理を用いたがん患者の症状モニタリングに関する研究	戸井 雅和	乳腺外科	550,000	補委○	国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 学長
乳がんの免疫チェックポイント活性化に関わる脂肪酸の同定とその分子機構の解明	川島 雅央	乳腺外科	1,170,000	補委○	文部科学省
誘導型一酸化窒素合成酵素制御による乳癌肝転移微小環境のリプログラミング	河口 浩介	乳腺外科	2,340,000	補委○	文部科学省
内外分泌連関に着目した膵島細胞増殖因子の解明とその治療的応用	増井 俊彦	肝胆膵・移植外科	1,690,000	補委○	文部科学省
生理的な胆道再建を目指した人工胆管の開発	田浦 康二郎	肝胆膵・移植外科	1,690,000	補委○	文部科学省
切除不能肝細胞癌に対するレンバチニブ使用による外科的切除可能性の検討(多施設共同臨床研究) LENS-HCC	田浦 康二郎	肝胆膵・移植外科	110,000	補委○	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター理事長
移植用臓器の体外治療を可能にする灌流保存装置開発と、メタボロミクスを用いた臓器潜在機能の客観的評価基軸の構築	秦 浩一郎	肝胆膵・移植外科	87,431,968	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 職 理事長
切除不能肝細胞癌に対するレンバチニブ使用による外科的切除可能性の検討(多施設共同臨床研究) LENS-HCC	田浦 康二郎	肝胆膵・移植外科	110,000	補委○	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター理事長
制御性T細胞を標的とした免疫応答制御技術に関する研究開発／分担研究開発課題名:肝移植におけるiTreg細胞療法を用いた慢性拒絶防止の検証	田浦 康二郎	肝胆膵・移植外科	13,000,000	補委○	国立大学法人大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 拠点長
ブタモデルを用いた化学療法誘導性肝障害の薬物による克服～大腸癌予後改善に向けて～	瀬尾 智	肝胆膵・移植外科	910,000	補委○	文部科学省
数値流体力学による門脈血流解析を通じた肝切除・肝移植後肝不全の克服	小木曾 聡	肝胆膵・移植外科	2,210,000	補委○	文部科学省
不飽和脂肪酸分解に着目した膵液瘻重症化因子解明と治療的応用	長井 和之	肝胆膵・移植外科	1,820,000	補委○	文部科学省
振動解析の手法を取り入れた新規NMR解析法による膵がん、胆管がん血清診断法の開発	伊藤 孝司	肝胆膵・移植外科	1,560,000	補委○	文部科学省
癌幹細胞の観点から見た肝癌におけるゲノム不均一性の解明	石井 隆道	肝胆膵・移植外科	1,560,000	補委○	文部科学省
心停止肝移植におけるグラフト機能改善を目指した新規臓器保存法の開発	奥村 晋也	肝胆膵・移植外科	1,040,000	補委○	文部科学省
肝移植後のbacterial translocationのメカニズム解明	小川 絵里	小児外科	1,300,000	補委○	文部科学省

新規高分子ミセル溶液による虚血再灌流障害抑制法の開発	岡本 竜弥	小児外科	520,000	補委○	文部科学省
エベロリムスが部分肝移植後の肝再生に与える影響に関する研究	園田 真理	小児外科	1,430,000	補委○	文部科学省
超低侵襲リアルタイムアダプティ(RA)放射線治療の実現／超低侵襲リアルタイムアダプティブ対応腫瘍動体予測システム開発	溝脇 尚志	放射線治療科	44,200,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
IMPT(スキャニング照射法を含む)のガイドライン作成(31-A-17)	溝脇 尚志	放射線治療科	150,000	補委○	国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長
リアルタイム体内中線量可視化画像誘導至適陽子線治療システムの研究開発	溝脇 尚志	放射線治療科	812,276	補委○	国立大学法人 大阪大学 大学院医学系研究科長
【臨】次世代Dynamic WaveArc照射法の開発と長期有効性・安全性の評価	溝脇 尚志	放射線治療科	15,210,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
難治がんに対する動体追尾放射線治療の臨床評価に関する研究	溝脇 尚志	放射線治療科	10,400,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験/JCOG1408の推進(患者登録)	松尾 幸憲	放射線治療科	507,000	補委○	国立大学法人 広島大学 学長
難治癌に対する放射線治療における腫瘍内低酸素の動態解析と高精度放射線治療の融合	吉村 通央	放射線治療科	910,000	補委○	文部科学省
放射性ヨウ素内用療法におけるヨウ素集積の定量化と吸収線量の推定法の確立	飯塚 裕介	放射線治療科	650,000	補委○	文部科学省
血清アルブミンの酸化度に基づくがんの放射線感受性予測法の開発	井上 実	放射線治療科	2,080,000	補委○	文部科学省
頭頸部癌に対する強度変調放射線治療における味覚障害予測因子の解析	中嶋 綾	放射線治療科	910,000	補委○	文部科学省
強度変調放射線治療プランのQA結果予測システムの開発	小野 智博	放射線治療科	520,000	補委○	文部科学省
難治がんの放射線治療成績向上に向けた新規画像撮像法の開発	伊良皆 拓	放射線治療科	1,560,000	補委○	文部科学省
患者体内の非剛体性変化に対するマージンレス高精度適応放射線治療システムの開発	椋本 宜学	放射線治療科	1,820,000	補委○	文部科学省
乳癌高精度放射線治療における自動計画作成システムの確立	小野 幸果	放射線治療科	1,430,000	補委○	文部科学省
ケモカイン受容体イメージングによる腫瘍のコンパニオン診断と個別化医療の探索	石守 崇好	放射線診断科	1,300,000	補委○	文部科学省
圧縮センシングの脳・頸部MRIへの応用	伏見 育崇	放射線診断科	650,000	補委○	文部科学省
腫瘍随伴マクロファージの性状鑑別を可能とする核医学診断剤の開発	志水 陽一	放射線診断科	1,170,000	補委○	文部科学省
経皮的エタノール注入療法による腫瘍免疫反応の賦活化:マウスがんモデルを用いた解析	大野 豪	放射線診断科	1,040,000	補委○	文部科学省
膠芽腫の代謝変化に着目した個別化医療に向けた核医学的画像診断手法の開発	子安 翔	放射線診断科	1,430,000	補委○	文部科学省
急性期脳梗塞および脳血管異常のリアルタイム検出	中島 諭	放射線診断科	1,040,000	補委○	文部科学省
子宮良性疾患におけるMRIによる子宮蠕動運動と不妊治療、妊娠転帰予測に関する検討	木戸 晶	放射線診断科	1,300,000	補委○	文部科学省
乳癌患者におけるFES-PETの診断能と臨床的有意性	三宅 可奈江	放射線診断科	1,430,000	補委○	文部科学省
希少疾患画像研究のための多施設症例共有ネットワーク及びプラットフォームの構築	樋本 祐紀	放射線診断科	1,430,000	補委○	文部科学省
深層学習を用いた産婦人科MRIの自動診断	倉田 靖桐	放射線診断科	2,210,000	補委○	文部科学省
臨床的・ゲノム学的アプローチの融合による強度近視関連失明の総合的病態解明	辻川 明孝	眼科	5,720,000	補委○	文部科学省
光干渉断層血管造影を用いた房水流出主経路機能評価と緑内障治療効果予測	赤木 忠道	眼科	1,430,000	補委○	文部科学省
網膜色素上皮細胞の脂質プロファイルとドルーゼン形成メカニズムの解明	池田 華子	眼科	1,430,000	補委○	文部科学省
【臨】網膜色素変性に対するBranched chain amino acidsを用いた新規神経保護治療法の開発	池田 華子	眼科	65,000,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長

補償光学適用光干渉断層計による萎縮型加齢黄斑変性の病態・治療研究	大音 壮太郎	眼科	1,560,000	補委○	文部科学省
糖尿病網膜症における自己免疫による神経障害を標的とした新規治療法の開発	村上 智昭	眼科	1,690,000	補委○	文部科学省
多角的アプローチによる加齢黄斑変性の病態解明と新規治療の検討	宮田 学	眼科	1,430,000	補委○	文部科学省
網膜神経グリアの生体イメージングに基づく難治性黄斑浮腫の原因検討	村岡 勇貴	眼科	1,170,000	補委○	文部科学省
血管親和性生体ナノ材料を用いた加齢黄斑変性の点眼治療の開発	須田 謙史	眼科	2,080,000	補委○	文部科学省
多角的アプローチによる加齢黄斑変性とパキコイド新生血管の病態解明	三宅 正裕	眼科	6,500,000	補委○	文部科学省
中心性漿液性脈絡網膜症に対するレーザー照射エネルギー減量光線力学的療法を検証する臨床研究のためのプロトコル作成研究	三宅 正裕	眼科	3,896,828	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
手術動画解析AIを用いた「熟練の技」の教育と手術支援	三宅 正裕	眼科	600,000	補委○	国立大学法人 筑波大学 分任契約担当役 研究担当副学長
疾患特異的iPS細胞を用いたドルーゼン形成メカニズムの解明	井上 由美	眼科	2,080,000	補委○	文部科学省
疾患特異的iPS細胞を用いたクリスタリン網膜症の治療薬開発	岩井 祥子	眼科	1,560,000	補委○	文部科学省
婦人科癌の包括的サポートプログラム開発を旨とした患者モニタリング法の探索	万代 昌紀	産科婦人科	1,560,000	補委○	文部科学省
円錐切除後妊娠の膣分泌物プロテオーム解析を用いた子宮頸部が担う妊娠維持機	近藤 英治	産科婦人科	2,210,000	補委○	文部科学省
リキッドバイオプシーを用いた卵巣癌の術前組織診断法と卵巣癌予測診断法の開発	山口 建	産科婦人科	780,000	補委○	文部科学省
産後うつ病の発症と自律神経機能の関連に関する妊娠期からの前方視的研究	江川 美保	産科婦人科	1,170,000	補委○	文部科学省
前期破水の治癒機構の解明と新規治療法の開発	最上 晴太	産科婦人科	1,300,000	補委○	文部科学省
早産治療を旨とした変異EDAの作成	千草 義継	産科婦人科	1,300,000	補委○	文部科学省
パルミトイル化を鍵とした、脂肪酸が卵巣癌の悪性性質を変容するメカニズムの解明	山ノ井 康二	産科婦人科	2,080,000	補委○	文部科学省
妊娠能低下予防・妊娠併症リスクの低減を旨としたプレコンセプション女性に対する包括的支援プログラムの開発	江川 美保	産科婦人科	1,500,000	補委○	国立大学法人 東京大学
胎児心電図データ収集、症例検討会	最上 晴太	産科婦人科	260,000	補委○	国立大学法人 東北大学
卵巣癌における三次リンパ組織(TLS)の人工的誘導のための基礎的検討	浮田 真沙世	産科婦人科	1,430,000	補委○	文部科学省
小児がんにおける遺伝学的高発がん感受性の機序とクローン進化の統合的解析	滝田 順子	小児科	19,370,000	補委○	文部科学省
分子プロファイリングを基盤とした小児期からAYA世代に発症する難治がんの新規治療法の開発	滝田 順子	小児科	19,600,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
乳児急性リンパ性白血病発症の病態解明と治療層別化に有用な因子の同定／乳児ALLのオミックス解析	滝田 順子	小児科	2,600,000	補委○	国立大学法人 東京医科歯科大学 学長
難治性小児固形腫瘍における生物学的特性の理解に基づいた新規克服法の開発	滝田 順子	小児科	20,800,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
進行小児固形腫瘍に対するオラパリブを用いた治療法開発	滝田 順子	小児科	390,000	補委○	国立大学法人 東京医科歯科大学 学長
コルヒチン無効あるいは不耐の家族性地中海熱(FMF)を対象としたトシリズマブの継続投与試験	八角 高裕	小児科	220,000	補委○	国立大学法人 長崎大学 学長
シーズ探索研究から発展する家族性地中海熱(FMF)に対するトシリズマブの医師主導治験／医師主導治験実施体制の確立・実施	八角 高裕	小児科	416,000	補委○	国立大学法人 長崎大学
従来のゲノム解析で診断困難な原発性免疫不全症患者の診断法の開発	八角 高裕	小児科	910,000	補委○	国立大学法人 広島大学 学長
シーズ探索研究から発展する家族性地中海熱(FMF)に対するトシリズマブの医師主導治験／医師主導治験実施体制の確立・実施	八角 高裕	小児科	1,040,000	補委○	国立大学法人 東京医科歯科大学

白血病細胞のマイクロRNA発現を利用した新規治療法開発のための探索的研究	平松 英文	小児科	1,690,000	補委○	文部科学省
地域連携と人材育成を促進する新生児遠隔診療支援システムの有用性検証	岩永 甲午郎	小児科	2,860,000	補委○	文部科学省
心筋症を誘発するHOIL-1L遺伝子異常の心筋症発症・進行機序の解明	馬場 志郎	小児科	2,210,000	補委○	文部科学省
デュシェンヌ型筋ジストロフィーの心不全発症・進行機序解明と治療法の開発	平田 拓也	小児科	1,690,000	補委○	文部科学省
遺伝性銅代謝異常症の新規原因遺伝子の解明	吉田 健司	小児科	1,300,000	補委○	文部科学省
どこからでも学べる遠隔新生児蘇生法講習シミュレータの研究開発	岩永 甲午郎	小児科	3,315,000	補委○	官署支出官 近畿総合通信局 総務部長
細胞分泌実時間イメージング法に基づく機能的細胞診システムの創生／自己炎症疾患の機能的細胞診実証評価	井澤 和司	小児科	1,040,000	補委○	国立大学法人 東京大学
難治性小児AYA世代白血病患者に対するがん免疫療法最適医療実現のための多角的オミックス解析を用いた新規バイオマーカー探索	加藤 格	小児科	9,308,000	補委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 理事長
患者特異的iPS細胞を用いた福山型先天性筋ジストロフィーの病態解析と新規治療法開発／患者特異的iPS細胞からの筋分化誘導法確立・ゲノム編集技術を用いたコントロールiPS細胞株の樹立	吉田 健司	小児科	9,360,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
慢性肉芽腫症腸炎に対する小児用サリドマイド製剤の実用化に関する研究	井澤 和司	小児科	390,000	補委○	国立研究開発法人国立成育医療研究センター 理事長
原発性免疫不全症・自己炎症性疾患・早期発症型炎症性腸疾患の臨床ゲノム情報を連結した患者レジストリの構築研究	井澤 和司	小児科	988,000	補委○	国立大学法人 東京医科歯科大学 学長
TRIM22遺伝子異常による腸炎はIL-6,IL-12産生の制御異常が関与するか	日衛嶋 栄太郎	小児科	2,080,000	補委○	文部科学省
小児最末分化型急性骨髄性白血病の病態解析および特異的治療の基盤開発	才田 聡	小児科	1,170,000	補委○	文部科学省
遺伝子診断困難な原発性免疫不全症に対する罹患細胞RNAに着目した診断法の構築	本田 吉孝	小児科	1,430,000	補委○	文部科学省
遠隔支援可能な新生児蘇生シミュレーション教育ツールの開発と有効性検証	花岡 信太郎	小児科	780,000	補委○	文部科学省
子宮内発育遅延モデルマウスにおける糖代謝機構の網羅的解析	山内 建	小児科	2,340,000	補委○	文部科学省
新生児の腸内細菌叢の確立とインスリン分泌調節機能の成熟	荒木 亮佑	小児科	1,950,000	補委○	文部科学省
致死性不整脈の病的意義不明遺伝子変異に対する、iPS細胞を用いた機能解析系の構築	吉永 大介	小児科	2,210,000	補委○	文部科学省
皮膚における多様な免疫応答の誘導機序と他臓器との免疫学的連関の解明	梶島 健治	皮膚科	37,050,000	補委○	文部科学省
多細胞間相互作用による皮膚バリアの適応・修復機序の解明	梶島 健治	皮膚科	64,543,425	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
皮膚血管肉腫に対するONO-4538の第I相多施設共同非盲検非対照試験	梶島 健治	皮膚科	500,000	補委○	国立大学法人 筑波大学
イマチニブをツールとした自己免疫性水疱症における創薬基盤研究	梶島 健治	皮膚科	58,000,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
イマチニブをツールとした自己免疫性水疱症における創薬基盤研究	梶島 健治	皮膚科	40,000,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
皮膚疾患画像ナショナルデータベースの拡充とAI活用診療支援システムの開発／皮膚画像収集から皮膚疾患画像ナショナルデータベースへの集積	梶島 健治	皮膚科	2,990,000	補委○	公益社団法人 日本皮膚科学会 理事長
肥厚性皮膚骨膜炎(PDP)患者由来iPS細胞を用いたPDP新規治療薬の開発	野村 尚史	皮膚科	1,690,000	補委○	文部科学省
自己炎症的機序を端緒とした肉芽腫形成の分子機構解明	神戸 直智	皮膚科	1,040,000	補委○	文部科学省
末梢組織におけるT細胞サーベイルランスメカニズムの解明	江川 形平	皮膚科	1,300,000	補委○	文部科学省
皮膚微小環境において極小マイクロバイオームが果たす役割の解明	中島 沙恵子	皮膚科	1,820,000	補委○	文部科学省

皮膚常在微生物による宿主皮膚炎症反応制御メカニズムの解明	中島 沙恵子	皮膚科	9,104,550	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
皮膚自然免疫における間葉系細胞のCCL2-CCR2経路を介した制御機構解析	渋谷 倫太郎	皮膚科	1,040,000	補委○	文部科学省
乳房外パジェット病の包括的ゲノム解析	石田 雄大	皮膚科	1,040,000	補委○	文部科学省
異種移植モデルの由来組織別エクソソームに着目した革新的癌診断治療シーズの開発	小川 修	泌尿器科	10,270,000	補委○	文部科学省
次世代ヒト化シンジェニックマウスによる腎癌免疫ニッチの再現と治療評価モデルの樹立(公益財団法人先端医療振興財団からの受託研究)【症例タイプ】「根治療法後に再発を来した非転移性の去勢抵抗性前立腺癌に対するエンザルタミドの臨床効果および安全性の検討」(ICASTRE-Zero)	小川 修	泌尿器科	2,470,000	補委○	文部科学省
遺伝子多型を用いた前立腺癌リスク診断方法の開発	小川 修	泌尿器科	330,000	補委○	公益財団法人 神戸医療産業都市推進機構
浸潤性膀胱癌の病態を再現可能なマウスモデルの確立とその応用	小林 恭	泌尿器科	4,810,000	補委○	文部科学省
cT1～3N0M0膀胱癌を対象としたAtezolizumab併用放射線療法に関する第II相医師主導多施設共同治験	小林 恭	泌尿器科	500,000	補委○	国立大学法人 筑波大学
cT1～3N0M0膀胱癌を対象としたAtezolizumab併用放射線療法に関する第II相医師主導多施設共同治験	小林 恭	泌尿器科	350,000	補委○	国立大学法人 筑波大学
血中遊離DNA解析を応用した前立腺癌のDNA修復遺伝子異常の生物学的特性の解明	赤松 秀輔	泌尿器科	9,490,000	補委○	文部科学省
高感度生体内トラッキング技術とiPS細胞技術を融合した前立腺がんに対する次世代型汎用性CAR-T細胞療法の開発/患者由来前立腺癌ゼノグラフトモデルを用いたCAR-再生T細胞療法の効果検証のための基盤開発	赤松 秀輔	泌尿器科	1,300,000	補委○	国立大学法人 岡山大学 学長
腎がん検体収集・検証試験結果評価	赤松 秀輔	泌尿器科	1,300,000	補委○	公益財団法人 がん研究会 理事長
去勢抵抗性前立腺癌患者由来ゼノグラフト・オルガノイド群を用いた創薬スクリーニング	後藤 崇之	泌尿器科	1,300,000	補委○	文部科学省
生体二光子励起イメージングによる膀胱癌および腫瘍微小環境の時空間的解析	佐野 剛視	泌尿器科	1,820,000	補委○	文部科学省
膀胱がん再発予防を目的としたソノポレーション法による新規抗がん剤投与法の開発	佐藤 琢磨	泌尿器科	780,000	補委○	文部科学省
前立腺肥大症の発症における慢性炎症とギャップ結合タンパクの関与の解明	河野 仁	泌尿器科	1,430,000	補委○	文部科学省
咽頭・喉頭・気管狭窄症診療ガイドライン作成を目指したエビデンス創出研究	大森 孝一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	14,079,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
long non-coding RNAの内耳発生・再生における機能	山本 典生	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,080,000	補委○	文部科学省
蝸牛感覚上皮発生メカニズムの解明-単一細胞レベルでの感覚上皮マーカーの探索	山本 典生	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	5,590,000	補委○	文部科学省
音声認識技術を用いた眼鏡型聴覚障害者支援機器の開発	山本 典生	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	5,178,178	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
蝸牛組織マクロファージの加齢性難聴における役割	岡野 高之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000	補委○	文部科学省
マクロファージ極性制御による上気道線維化病変に対する新規治療技術開発	岸本 曜	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,560,000	補委○	文部科学省
聴覚末梢系数理モデルを用いた唝声の音響学的特徴の解明	藤村 真太郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,730,000	補委○	文部科学省
蝸牛・前庭感覚上皮発生機序の解析とヒトiPS細胞を用いた難聴モデル作製への応用	大西 弘恵	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補委○	文部科学省
YAP阻害による有毛細胞転写制御機構の解明および内耳再生治療への応用	喜多 知子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,690,000	補委○	文部科学省
鳥類内耳有毛細胞再生初期過程の解明:哺乳類における有毛細胞再生効率化への応用	中川 隆之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,080,000	補委○	文部科学省
ヒトiPS細胞由来気道上皮シート移植の鼻副鼻腔への応用	北田 有史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,690,000	補委○	文部科学省

傷害声帯の修復過程における上皮間葉移行の役割	北村 守正	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000	補委○	文部科学省
(CSPORからの受託研究) 分化型甲状腺癌を対象としたレンパチニブの治療効果探索のためのコホート研究	北村 守正	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	33,000	補委○	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター理事長
軟骨下骨脆弱性の関節軟骨変性へ与える影響および骨形成薬の軟骨変性抑制効果	松田 秀一	整形外科	4,810,000	補委○	文部科学省
骨粗鬆症と人工関節周囲感染治療に対応した生体活性骨セメントの開発	後藤 公志	整形外科	1,170,000	補委○	文部科学省
悪性骨腫瘍切除後処理骨ラットモデルを用いた付加処置による処理骨単独再建の確立	坂本 昭夫	整形外科	1,430,000	補委○	文部科学省
難治性インプラント感染に対して炎症再生と抗菌の治療戦略で局所投与を行う基礎研究	黒田 隆	整形外科	1,300,000	補委○	文部科学省
優れた抗菌性を有するチタンインプラントの開発	大槻 文悟	整形外科	1,820,000	補委○	文部科学省
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	坂本 昭夫	整形外科	390,000	補委○	国立大学法人岡山大学 学長
3次元積層造形で作製し表面処理を施した次世代チタン合金インプラントの開発と応用	清水 孝彬	整形外科	1,300,000	補委○	文部科学省
人為的体内時計の調節を利用した新たな骨折治療法の開発	野口 貴志	整形外科	2,080,000	補委○	文部科学省
micro-engineeringを用いた血管ネットワーク付き人工骨の開発	河井 利之	整形外科	1,040,000	補委○	文部科学省
社会・生活における主体価値の動態解明	村井 俊哉	精神科神経科	35,490,000	補委○	文部科学省
統合失調症の結合性障害の包括的解明: 超高磁場MRIによる次世代結合性解析	村井 俊哉	精神科神経科	5,070,000	補委○	文部科学省
MRI画像を基点とした発達障害・統合失調症関連バイオマーカーの同定	村井 俊哉	精神科神経科	14,500,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
先進的MRI技術に基づく統合データベースと大規模コホートデータの連結による高齢者神経変性疾患の責任神経回路の解明	村井 俊哉	精神科神経科	74,100,000	補委○	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 理事長
脳機能補完による高齢者・障がい者の機能回復支援技術の研究開発	村井 俊哉	精神科神経科	1,500,000	補委○	国立研究開発法人 情報通信研究機構 契約担当理事
妄想の神経基盤の疾患横断的検討: 高傾斜磁場・超高磁場MRIによる次世代結合性解析	宮田 淳	精神科神経科	3,380,000	補委○	文部科学省
4つのsalienceの計算論的統合から見た妄想・幻視・幻聴のネットワーク病態	宮田 淳	精神科神経科	2,860,000	補委○	文部科学省
核磁気共鳴計測を用いた治療抵抗性統合失調症におけるクロザピン忍容性指標の探索	諏訪 太郎	精神科神経科	1,040,000	補委○	文部科学省
神経性やせ症患者における反社会的行動とその神経基盤	磯部 昌憲	精神科神経科	1,430,000	補委○	文部科学省
7T MRSI・fMRSによる統合失調症のCCTCC障害仮説の検証	吉原 雄二郎	精神科神経科	2,080,000	補委○	文部科学省
摂食障害に対する認知行動療法の有効性の神経科学的エビデンスの創出	磯部 昌憲	精神科神経科	2,600,000	補委○	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 理事長
PDE10Aイメージングを用いた多次元画像研究による統合失調症圏の層別化	久保田 学	精神科神経科	910,000	補委○	文部科学省
次世代拡散MRIおよび機械学習を用いた統合失調症新規診断基準の検討	孫 樹洛	精神科神経科	650,000	補委○	文部科学省
骨系統疾患に起因する顎変形症への新規治療法の開発(疾患特異的iPSを用いた検討)	中尾 一祐	歯科口腔外科	1,820,000	補委○	文部科学省
社会経済因子により口腔および全身の健康格差が生じるメカニズムの探索	浅井 啓太	歯科口腔外科	1,170,000	補委○	文部科学省
歯科ユニット給水系における微生物汚染の評価と細菌増殖抑制効果に関する研究	三島 清香	歯科口腔外科	650,000	補委○	文部科学省
内軟骨性骨化に着目した顎変形症の病態解明および新規治療法の開発	山中 茂樹	歯科口腔外科	1,430,000	補委○	文部科学省
希少疾患先天性無歯症治療薬の開発研究—Wntシグナル&BMPシグナルに関連する難治性疾患治療への展開—	高橋 克	歯科口腔外科	23,465,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長
骨格筋量による周術期日常生活活動低下予測と日常生活活動維持のための管理法の確立	溝田 敏幸	麻酔科	1,560,000	補委○	文部科学省

遺伝子多型による化学療法後末梢神経障害の感受性の相違	加藤 果林	麻酔科	1,040,000	補委○	文部科学省
クラスリン被覆小孔形成を標的としたオピオイドの副作用発現シグナル抑制への挑戦	宮井 善三	麻酔科	1,690,000	補委○	文部科学省
グリオーマのステムネス維持転写ネットワークを標的とした核酸類似化合物開発の挑戦	宮本 享	脳神経外科	3,120,000	補委○	文部科学省
RNF213関連閉塞性血管障害の分子機序解明と新規治療開発	宮本 享	脳神経外科	5,330,000	補委○	文部科学省
もやもや病(ウリス動脈閉塞症)における難病の医療水準の向上や患者のQOL向上に資する研究	宮本 享	脳神経外科	8,999,000	補委○	厚生労働省
循環器病に関する適切な情報提供・相談支援のための方策と体制等の効果的な展開に向けた研究	宮本 享	脳神経外科	4,260,000	補委○	厚生労働省
放射線誘発性動脈硬化促進の特異マーカーを標的とした治療法開発	吉田 和道	脳神経外科	1,560,000	補委○	文部科学省
アクチベイタブル酸化鉄ナノ粒子蛍光プローベを用いた脳動脈瘤壁の炎症巣の可視化	石井 暁	脳神経外科	910,000	補委○	文部科学省
(神戸市民病院機構との医師主導治験)VS01 (Versi Retriever) (以下「本治験機器」という。)を用いた急性虚血性脳卒中に対する血栓回収療法 of の安全性及び有効性を評価する多施設共同単一群試験	石井 暁	脳神経外科	300,000	補委○	地方独立行政法人 神戸市民病院機構 理事長
(神戸市民病院機構との医師主導治験)脳動静脈奇形に対するPHIL液体塞栓システム (PH-112) を用いた摘出前塞栓術に関する安全性及び有効性を評価する多施設共同単一群試験	石井 暁	脳神経外科	300,000	補委○	地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立医療センター中央市民病院 院長
(神戸市民病院機構との医師主導治験)硬膜動静脈瘻に対するPHIL液体塞栓システム (PH-112) を用いた塞栓術の安全性及び有効性を評価する多施設共同単一群試験	石井 暁	脳神経外科	300,000	補委○	地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立医療センター中央市民病院 院長
リプログラミング技術による非定型奇形腫様ラブドイド腫瘍のエピゲノム解析と治療開発	荒川 芳輝	脳神経外科	1,560,000	補委○	文部科学省
脳幹部神経膠腫患者を対象としたconvect ion-enhanced delivery (CED)によるニムスチン塩酸塩投与の多施設共同第II相臨床試験(医師主導治験)	荒川 芳輝	脳神経外科	1,560,000	補委○	国立大学法人 東北大学 病院長
高齢者初発膠芽腫に対するテモゾロミド併用寡分割放射線治療の最適化に関する研究	荒川 芳輝	脳神経外科	19,479,200	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
【臨】TERTを標的とした再発膠芽腫に対するエリブリンの医師主導治験	荒川 芳輝	脳神経外科	650,000	補委○	国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長
髄芽腫発生と抗腫瘍免疫におけるmiR-33の役割解明と免疫治療へ応用	峰晴 陽平	脳神経外科	1,300,000	補委○	文部科学省
金-白金合金電極を用いた脳機能ネットワークの解明	山尾 幸広	脳神経外科	1,300,000	補委○	文部科学省
大型脳動脈瘤に対するフローダイバーターを用いた新規治療プロトコルの提唱	南部 育	脳神経外科	1,560,000	補委○	文部科学省
高圧処理技術を用いた巨大色素性母斑治療～不活化機序解明と生着率向上	森本 尚樹	形成外科	3,250,000	補委○	文部科学省
神経線維腫症Ⅰ型のcutaneous neurofibromaに対する外用薬開発	森本 尚樹	形成外科	4,160,000	補委○	文部科学省
乳房再建用人工脂肪の開発～自家脂肪組織の再生を目指して	森本 尚樹	形成外科	52,000,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
先天性巨大色素性母斑を母地とした悪性黒色腫に対する予防的低侵襲治療方法の開発ー高圧処理新規医療機器の研究開発	森本 尚樹	形成外科	59,800,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
機能的真皮の基礎となるコラーゲンの幾何学構造と変形機構の解明	齊藤 晋	形成外科	1,690,000	補委○	文部科学省
診断・治療適用のための光超音波3Dイメージングによる革新的画像診断装置の開発／臨床研究(皮弁術前計画及び乳がん診断応用開発)	齊藤 晋	形成外科	70,354,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長

乾燥同種培養表皮の基礎研究 利便性の高い皮膚再生医療を目指して	坂本 道治	形成外科	910,000	補委○	文部科学省
皮膚再建に用いる乾燥同種培養表皮の開発	坂本 道治	形成外科	19,500,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事
胎児期におけるヒト顔面骨格の3次元成長発達の解明	勝部 元紀	形成外科	1,430,000	補委○	文部科学省
iPS細胞心臓再生治療に伴う腫瘍性合併症の高感度検出・腫瘍除去システムの開発	湊谷 謙司	心臓血管外科	6,630,000	補委○	文部科学省
iPS細胞由来人工心臓組織移植による心臓再生医療における免疫拒絶に関する研究	湊谷 謙司	心臓血管外科	2,600,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事
(国立循環器病研究センターからの受託研究)生体弁置換術後心房細動患者の抗血栓療法に関するレジストリー	湊谷 謙司	心臓血管外科	691,200	補委○	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 理事
マイクロRNAの効率的導入による心臓血管外科領域の治療応用に関する研究	池田 義	心臓血管外科	1,430,000	補委○	文部科学省
イメージング質量分析による心筋症病態進行関連バイオマーカー同定および治療応用研究	山崎 和裕	心臓血管外科	1,430,000	補委○	文部科学省
低体温循環停止における「人工冬眠」併用による効率的な臓器保護法の開発	川東 正英	心臓血管外科	1,430,000	補委○	文部科学省
ヒトiPS細胞由来心臓組織グラフト-ホスト間の機能的同期法の開発	金光 ひでお	心臓血管外科	5,850,000	補委○	文部科学省
局所温度制御とノンファウリング技術により人工肺の耐久性と生体適合性改善を目指す新規高機能人工肺の開発研究	升本 英利	心臓血管外科	1,820,000	補委○	国立大学法人 島根大学 学長
体外肺灌流保存中の肝細胞増殖因子による肺移植後虚血再灌流障害の軽減	中島 大輔	呼吸器外科	650,000	補委○	文部科学省
変異p53誘導性上皮間葉転換に伴う肺癌悪性化進展シグナルの解明及び新規治療法開発	毛受 暁史	呼吸器外科	5,200,000	補委○	文部科学省
機能性極細気泡を用いた革新的臓器保存液の開発	豊 洋次郎	呼吸器外科	1,560,000	補委○	文部科学省
ドナーグラフト内の白血球を標的とした肺移植における新規治療法の開発	大角 明宏	呼吸器外科	1,300,000	補委○	文部科学省
抗炎症作用を有する脂質メディエーターの肺移植領域への応用可能性	田中 里奈	呼吸器外科	1,430,000	補委○	文部科学省
自然免疫の活性化が誘因となる移植肺機能不全の抑制	田中 里奈	呼吸器外科	4,680,000	補委○	文部科学省
臓器移植を革新する免疫プロファイリングによる個別化医療の開発	田中 里奈	呼吸器外科	195,000	補委○	国立大学法人 広島大学 学長
肺移植後急性・慢性拒絶反応を抑制するIL-2複合体の臨床応用に向けた研究	山田 義人	呼吸器外科	650,000	補委○	文部科学省
末梢神経損傷を対象とした三次元神経導管移植による安全性と有効性を検討する医師主導治験	池口 良輔	リハビリテーション科	104,000,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事
ヒト卵管マスト細胞の卵管異所性妊娠発症への関与	上島 千幸	病理診断科	1,430,000	補委○	文部科学省
環境レジームに着目した効果的な病院環境整備に関する探索的研究	長尾 美紀	検査部	2,600,000	補委○	文部科学省
小児の侵襲性肺炎球菌感染症分離菌の遺伝子解析	長尾 美紀	検査部	993,720	補委○	独立行政法人 国立病院機構 三重病院 院長
Evolution of Extended-Spectrum Beta-Lactamase-Producing Enterobacteriaceae in the US and Japan Over the Past Two Decades	長尾 美紀	検査部	1,030,699	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事
尿中薬剤耐性菌の迅速遺伝子検査法の開発と検証	松村 康史	検査部	2,730,000	補委○	文部科学省
ESBL産生大腸菌による侵襲性尿路感染症の診断・治療の適正化を目指した多施設前向き研究(分担課題名:LAMP法を用いた尿検体からのESBL産生菌の迅速診断法の開発と臨床的有用性の評価)	松村 康史	検査部	1,600,000	補委○	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 理事
高周波律動(HFO)を用いたBAFMEの診断・治療のバイオマーカーの確立	人見 健文	検査部	2,080,000	補委○	文部科学省



Whole genome sequencing analysis of Streptococcus pneumoniae strains to suggest the mechanism of drug resistances and serotype switch based on	中野 哲志	検査部	1,820,000	補委○	文部科学省
造血幹細胞移植後の腸内細菌叢変化に着目した、腸管GVHD発症の新規予防法の開発	新井 康之	検査部	1,820,000	補委○	文部科学省
大腸菌で最も拡散しているβラクタマーゼの水平伝播因子の解明	野口 太郎	検査部	130,000	補委○	文部科学省
全ゲノム解析を用いた肺炎球菌の病原性解析および新規出現クローンの分子疫学解析	中野 哲志	検査部	9,750,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
乳癌抗癌剤治療における心血管関連合併症予測と早期診断の検討	加藤 恵理	検査部	1,430,000	補委○	文部科学省
治る認知症：自己免疫性辺縁系脳炎のバイオマーカー開発	本多 正幸	検査部	1,560,000	補委○	文部科学省
術前のストレスは術後SIRSの危険因子となる	辰巳 健一郎	手術部	1,300,000	補委○	文部科学省
β遮断薬はICU-AWを予防しうるか	瀬尾 英哉	手術部	274,000	補委○	文部科学省
敗血症時に亢進する血管透過性における個人差の原因となる遺伝子を同定する。	瀬尾 英哉	手術部	910,000	補委○	文部科学省
前立腺がん治療の最適化に向けた革新的なPET画像診断システムの構築	中本 裕士	放射線部	16,575,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
乳房超高速ダイナミック造影MRIを用いた新たな腫瘍血流・腫瘍血管解析法の確立	片岡 正子	放射線部	1,170,000	補委○	文部科学省
膵臓癌に対する非侵襲高精度放射線治療を目指した動態解析に関する研究	佐々木 誠	放射線部	1,690,000	補委○	文部科学省
臓器位置変動に対応した放射線治療品質管理システムの構築	鶴田 裕輔	放射線部	1,040,000	補委○	文部科学省
高磁場MRIを用いた新生児低酸素性虚血性脳症における水分子拡散と脳代謝物の可視化	大木 明子	放射線部	1,300,000	補委○	文部科学省
ギャンブル障害に対するニューロフィードバック法の開発研究ニューロフィードバック前後でのギャンブル障害の認知機能・症状	鶴身 孝介	デイ・ケア診療部	3,000,000	補委○	国立大学法人 東京医科歯科大学 学長
婦人科腫瘍における免疫制御機構のダイナミズムの解明と新規治療開発の基礎的検討	濱西 潤三	総合周産期母子医療センター	5,460,000	補委○	文部科学省
子宮頸部上皮内腫瘍(CIN)治療薬に関する研究開発	濱西 潤三	総合周産期母子医療センター	54,200,900	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
中枢神経の低酸素領域に存在する白血病細胞を標的とした新規治療法の開発	加藤 格	総合周産期母子医療センター	1,040,000	補委○	文部科学省
NLRP3、NLRC4疾患関連変異によるカスパーゼ1非依存性細胞死の機序解明	井澤 和司	総合周産期母子医療センター	2,080,000	補委○	文部科学省
チオ硫酸のICU-AWに対する予防効果の検討	甲斐 慎一	集中治療部	1,300,000	補委○	文部科学省
オピオイドへの耐性形成に関与するオピオイド受容体制御機構の解明	清水 覚司	集中治療部	1,170,000	補委○	文部科学省
血小板機能温存を重視した新たな希釈式自己血輸血法の確立	川本 修司	集中治療部	1,950,000	補委○	文部科学省
最適な移植環境を構築する新規膵島移植免疫抑制法の開発：MEK阻害剤の応用可能性	穴澤 貴行	臓器移植医療部	1,430,000	補委○	文部科学省
肝臓外科領域における食事療法の有効性および腸内環境の変動解析	内田 洋一朗	臓器移植医療部	7,150,000	補委○	文部科学省
膵島細胞移植免疫応答制御を実現する誘導性制御性T細胞療法開発	穴澤 貴行	臓器移植医療部	18,980,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
末梢神経障害予防/治療薬の開発に向けたトランスレーショナルリサーチ	中川 貴之	薬剤部	4,680,000	補委○	文部科学省
白金系抗がん剤による感覚神経線維選択的毒性および神経内金属攪乱と感覚器障害の関連	中川 貴之	薬剤部	3,120,000	補委○	文部科学省
がん治療に伴う口腔粘膜炎に対する半夏瀉心湯軟膏の有効性および安全性を検討するオープンラベルランダム化比較試験の Protokol作成	中川 貴之	薬剤部	2,600,000	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
薬物誘発性腎線維化に対する治療法の探索	中川 俊作	薬剤部	1,170,000	補委○	文部科学省
抗てんかん薬レベチラセタムによる横紋筋融解症発現素因の探究	中村 友紀	薬剤部	390,000	補委○	文部科学省

インターネットを用いた胃癌術後補助化学療法中の症状報告システムの開発	錦織 達人	医療安全管理部	780,000	補委○	文部科学省
植物共生微生物の活性を高める有機資材の開発	山本 豪志朗	医療情報企画部	98,000	補委○	国立研究開発法人 科学技術振興機構 分任研究契約担当者
医療・介護ビッグデータの有益な利活用を可能とするデータ解析法の開発研究	森 由希子	医療情報企画部	650,000	補委○	文部科学省
代用貨幣を用いた医療機関における分散的意思決定の実証研究	平木 秀輔	医療情報企画部	1,300,000	補委○	文部科学省
各種の診療諸記録を利用した効果的な診療録提示環境の構築	岡本 和也	医療情報企画部	1,430,000	補委○	文部科学省
超高齢社会医療再構築を支える老化関連メタボライト探索萌芽研究	近藤 祥司	地域ネットワーク医療部	4,290,000	補委○	文部科学省
月経関連の情動・認知機能変化の包括的理解を目指した縦断的脳画像研究	植野 司	総合臨床教育・研修センター	910,000	補委○	文部科学省
臨床研修医のアンプロフェッショナルな行動の評価を行う際の評価基準の開発	木村 武司	総合臨床教育・研修センター	1,300,000	補委○	文部科学省
レセプトデータベース(NDB)の利用を容易にするための包括的支援システムの開発	加藤 源太	診療報酬センター	7,800,000	補委○	文部科学省
NDB データから患者調査各項目及びOECD 医療の質指標を導くためのアルゴリズム開発にかかる研究	加藤 源太	診療報酬センター	4,500,000	補委○	厚生労働省
医療・介護のデータの利活用の推進のための、NDB・介護DBの連結可能性および活用可能性の評価に関する研究	加藤 源太	診療報酬センター	29,139,000	補委○	厚生労働省
生体由来3次元スキャフォールドを用いた再生肝臓による生存率改善とECM解析	福光 剣	診療報酬センター	1,170,000	補委○	文部科学省
FTDとCHK1阻害の二重制的による食道扁平上皮癌に対する新たな治療戦略の確立	大橋 真也	先制医療・生活習慣病研究センター	1,430,000	補委○	文部科学省
心血管疾患関連遺伝子CSRのヒト遺伝子変異による分子機能異常の解明	中島 康弘	先制医療・生活習慣病研究センター	1,690,000	補委○	文部科学省
CCR2特異的新規PETトレーサーを用いた動脈硬化の病態解明およびその臨床応用	馬場 理	先制医療・生活習慣病研究センター	2,210,000	補委○	文部科学省
腸管内分泌K細胞GIP合成分泌における細胞内シグナル伝達機構の解明	鈴木 和代	先制医療・生活習慣病研究センター	910,000	補委○	文部科学省
生体内におけるインクレチンGIPの骨代謝に及ぼす影響について	桑原 智子	先制医療・生活習慣病研究センター	1,170,000	補委○	文部科学省
初代ヒト肺上皮細胞を用いたモデルによる特発性間質性肺炎の新規治療法開発	松島 晶	先制医療・生活習慣病研究センター	1,040,000	補委○	文部科学省
光超音波による腫瘍低酸素領域の可視化と腫瘍及び新生血管同時イメージング法の開発	松本 純明	先制医療・生活習慣病研究センター	1,300,000	補委○	文部科学省
PET分子画像診断を用いた転移性担癌モデルでの癌攻撃免疫細胞の画像診断法の開発	野橋 智美	先制医療・生活習慣病研究センター	1,430,000	補委○	文部科学省
肺機能低下と睡眠呼吸障害の横断・縦断的解析と病態生理解明のためのメタボローム解析	陳 和夫	呼吸管理睡眠制御学講座	7,670,000	補委○	文部科学省
脳電気刺激の新たな挑戦:微小電流による記憶ニューロモデュレーション法の開発	武山 博文	呼吸管理睡眠制御学講座	780,000	補委○	文部科学省
睡眠時無呼吸重症度と糖尿病遺伝リスクを統合した糖尿病発症・増悪の予測モデルの構築	村瀬 公彦	呼吸管理睡眠制御学講座	1,690,000	補委○	文部科学省
関節リウマチにおけるRNA分解酵素Regnase-1の発現および機能解析	伊藤 宣	リウマチ性疾患先進医療学講座	1,300,000	補委○	文部科学省
関節リウマチ滑膜の上皮間葉移行の新規制御分子DIP2Cの解析と治療作用点の検討	田中 真生	リウマチ性疾患先進医療学講座	1,430,000	補委○	文部科学省
Microbiotaを起点とする全身性自己免疫疾患の病態解明	橋本 求	リウマチ性疾患先進医療学講座	1,560,000	補委○	文部科学省
低酸素下での破骨細胞分化促進機構の解明と関節リウマチの新たな骨破壊治療法の開発	村田 浩一	リウマチ性疾患先進医療学講座	4,550,000	補委○	文部科学省
高齢発症関節リウマチにおけるCD8陽性制御性T細胞の機能解析	渡部 龍	リウマチ性疾患先進医療学講座	2,080,000	補委○	文部科学省
肺動脈性肺高血圧症に対する新規治療標的としてのTRPC6, CNP経路の研究	木下 秀之	地域医療システム学講座	1,430,000	補委○	文部科学省
iPS細胞を用いた致死性遺伝性不整脈疾患の病態解明、治療法開発	牧山 武	地域医療システム学講座	1,560,000	補委○	文部科学省
摂食障害と窃盗盗犯 -心理社会的要因に関する質的・量的調査研究-	梁瀬 まや	地域医療システム学講座	910,000	補委○	文部科学省
鉄代謝異常に起因する末梢気道上皮幹細胞群の機能低下とCOPDの末梢気道病変の関連	田辺 直也	地域医療システム学講座	1,040,000	補委○	文部科学省
癌幹細胞の腫瘍抗原性調節による大腸癌免疫療法の検討	中西 祐貴	地域医療システム学講座	2,340,000	補委○	文部科学省
培養声帯粘膜におけるバリア機能の傷害と修復の評価	河合 良隆	地域医療システム学講座	1,820,000	補委○	文部科学省
抗菌性と骨形成促進作用を併せ持つ生体活性インプラントの開発	藤林 俊介	運動器機能再建学講座	1,300,000	補委○	文部科学省

機能性金属イオンの徐放により骨形成と抗菌性を制御する多孔構造を備えた近未来型積層造形チタンインプラントの創製	藤林 俊介	運動器機能再建学講座	1,560,000	補委○	国立研究開発法人科学技術振興機構 分任研究契約担当者 契約部長
軟骨細胞死から軟骨変性に至る分子機構の解明とその抑制による軟骨保護作用の検討	西谷 江平	運動器機能再建学講座	1,560,000	補委○	文部科学省
生体肺移植におけるドナー、レシピエントの末梢血テロメア長と慢性移植肺機能不全	半田 知宏	呼吸不全先進医療講座	1,430,000	補委○	文部科学省
自己免疫性肺胞蛋白症に対するSK-1401吸入製剤の多施設共同無作為化二重盲検プラセボ対照並行群間比較試験に参加した各施設の患者の予後調査結果報告書	半田 知宏	呼吸不全先進医療講座	260,000	補委○	国立大学法人新潟大学
閉塞性換気障害と動脈硬化進行に関する新たなバイオマーカーの探索	濱田 哲	呼吸不全先進医療講座	1,820,000	補委○	文部科学省
異分野先端技術融合による薬剤抵抗性を標的とした革新的複合治療戦略の開発	井上 正宏	臨床バイオリソース研究開発講座	19,500,000	補委○	国立大学法人東京大学 総長 代理人 医科学研究所事務部長
ヒトへの外挿性を向上させた培養細胞資源開発と供給体制整備	井上 正宏	臨床バイオリソース研究開発講座	7,600,000	補委○	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 契約担当役 理事長
グリアとニューロンによるヒト脳の包括的てんかんネットワークの統合的解析	池田 昭夫	てんかん・運動異常生理学講座	5,070,000	補委○	文部科学省
グリアの視点からの片頭痛の新展開:slow EEGと機能的MRIの統合的解析	池田 昭夫	てんかん・運動異常生理学講座	2,730,000	補委○	文部科学省
脳皮質・深部核ネットワークを踏まえた、脳波リズムの自発的制御によるてんかん治療	宇佐美 清英	てんかん・運動異常生理学講座	1,300,000	補委○	文部科学省
パーキンソン病の非運動症状に対する音楽療法の有効性	後藤 和也	認知症制御学講座	1,560,000	補委○	文部科学省
HER2陰性進行再発乳癌におけるPaclitaxel + Bevacizumab (PB) 療法の臨床効果と組織免疫関連シグネチャーの関連性を検討する多施設共同・後方視的トランスレーショナル研究	森田 智視	先端医療研究開発機構	3,036,000	補委○	公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構
宇宙及び地球規模環境要因のヒト健康への影響について	西村 勉	先端医療研究開発機構	1,560,000	補委○	文部科学省
心臓および全身の飢餓応答としての心不全	加藤 貴雄	先端医療研究開発機構	650,000	補委○	文部科学省
生存時間解析の新たな展開:がん免疫療法における統計的方法論の構築とその実践	魚住 龍史	先端医療研究開発機構	4,810,000	補委○	文部科学省
腎機能低下患者におけるがん治療薬の薬物動態の検討及び投与方法の確立	堀松 高博	先端医療研究開発機構	1,170,000	補委○	文部科学省
医療研究開発データの価値評価と医療系ベンチャーへの導出方策	服部 華代	先端医療研究開発機構	390,000	補委○	文部科学省
乳癌個別化治療に直結する新たな拡散強調MRI画像診断法の確立	飯間 麻美	先端医療研究開発機構	780,000	補委○	文部科学省
消費者・商品・時間を考慮したNMF技術開発と購買行動・心理関係メカニズムの把握	阿部 寛康	先端医療研究開発機構	650,000	補委○	文部科学省
ストリオソーム神経細胞選択的な遺伝子操作マウスを用いた神経変性疾患の病態機序解明	奥宮 太郎	先端医療研究開発機構	1,950,000	補委○	文部科学省
iPS細胞由来生体模倣性人工心臓組織の代謝スイッチによる成熟化メカニズムの解明	村田 梢	先端医療研究開発機構	1,430,000	補委○	文部科学省
拡散MRIを用いた革新的な腫瘍診断技術の構築	飯間 麻美	先端医療研究開発機構	5,669,819	補委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当 理事長
レセプトデータベースを用いた外傷を来す児童虐待事例に関する実態調査	岩尾 友秀	先端医療研究開発機構	910,000	補委○	文部科学省
DDSを活用したマクロファージの生体内サブタイプ調節による新規心不全治療法の開発	武田 崇秀	先端医療研究開発機構	1,430,000	補委○	文部科学省
圧縮センシングと深層学習の融合による新たなMRI画像再構成法の開発	藤本 晃司	リアルワールドデータ研究開発講座	1,300,000	補委○	文部科学省
患者報告アウトカム(patient reported outcomes:PRO)の ICT 化と社会実装推進のためのガイドライン作成に資する研究	中島 貴子	次世代医療・iPS細胞治療研究センター	19,500,000	補委○	厚生労働省
中枢神経系多様性獲得機構からみた神経変性疾患における選択的脆弱性及び進行性の解明	田辺 康人	認知症制御学講座(脳神経内科)	1,430,000	補委○	文部科学省
皮膚アレルギー疾患におけるシュワン細胞の病態関与	大塚 篤司	外胚葉性疾患創薬医学講座(皮膚科)	1,430,000	補委○	文部科学省

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Izumi K, Nishikori M, Yuan H et al.	血液内科	Establishment and characterization of a MALT lymphoma cell line carrying an API2-MALT1 translocation.	Genes, chromosomes & cancer・202009. 2020 Sep;59(9):517-524	Original Article
2	Yasuda T, Sanada M, Nishijima D et al.	血液内科	Clinical utility of target capture-based panel sequencing in hematological malignancies: A multicenter feasibility study.	Cancer science・202007. 2020 Sep;111(9):3367-3378	Original Article
3	Wada F, Kondo T, Nakamura M et al.	血液内科	Successful treatment of Hodgkin lymphoma-like EBV-associated post-transplant lymphoproliferative disorder following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation with nivolumab.	Annals of hematology・202004. 2020 Apr;99(4):887-889	Original Article
4	Ren Z, Shrestha M, Sakamoto T et al.	血液内科	Opposing effects of NPM1wt and NPM1c mutants on AKT signaling in AML.	Leukemia・202004. 2020 Apr;34(4):1172-1176	Original Article
5	Yamashita K, Oda M, Tanaka T et al.	血液内科	Changes in tonsillolith characteristics detected in a follow-up CT study.	BMC oral health・202102. 2021 Feb ;21(1):72	Original Article
6	Watanabe T, Yamashita K, Bessho K.	血液内科	Orthognathic Surgery in Hereditary Angioedema With Normal C1 Inhibitor: A Clinical Response to Concentrated C1 Inhibitor Against Angioedema Attack.	Journal of oral and maxillofacial surgery : official journal of the American Association of Oral and Maxillofacial Surgeons・202102. 2021 Feb;79(2):463-470	Original Article
7	Nagahata Y, Kondo T, Ono Y et al.	血液内科	High-dose cytarabine chemotherapy ( $\geq 4$ g/m <sup>2</sup> /day) before allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for non-core-binding-factor AML in the first complete remission.	Leukemia & lymphoma・202012. 2020 Dec;61(13):3128-3136	Original Article
8	Horisawa Y, Kondo T, Hishizawa M et al.	血液内科	A case of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for primary plasma cell leukemia after treatment with daratumumab.	Annals of hematology・202011. 2020 Nov;99(11):2699-2701	Original Article
9	Ureshino H, Shindo T, Tanaka H et al.	血液内科	HLA Polymorphisms Are Associated with Treatment-Free Remission Following Discontinuation of Tyrosine Kinase Inhibitors in Chronic Myeloid Leukemia	Molecular Cancer Therapeutics・202101. 2021 Jan;20(1):142-149	Original Article
10	Wada F, Nishikori M, Hishizawa M et al.	血液内科	Secondary failure of platelet recovery in patients treated with high-dose thiopeta and busulfan followed by autologous stem cell transplantation	International Journal of Hematology・202011. 2020 Nov;112(5):609-613	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
11	Tada S, Anazawa T, Shindo T et al.	血液内科	The MEK Inhibitor Trametinib Suppresses Major Histocompatibility Antigen-mismatched Rejection Following Pancreatic Islet Transplantation	Transplantation Direct・ 202009. 2020 Aug ; 6(9):e591	Original Article
12	Ureshino H, Shindo T, Sano H et al.	血液内科	Reconstitution of NK cells expressing KIR3DL1 is associated with reduced NK cell activity and relapse of CML after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	International Journal of Hematology・202005. 2020 May;111(5):733- 738	Original Article
13	Muranushi H, Shindo T, Hishizawa M et al.	血液内科	GVHD-free, relapse-free survival provides novel clues for optimizing allogeneic-HSCT for adult T-cell leukemia/lymphoma	Bone Marrow Transplantation・202101. 2021 Jan;56(1):155-166	Original Article
14	Hirata M, Yagi S, Shindo T et al.	血液内科	Donor-dominant one-way matching of human leukocyte antigen-A/B/DR alleles predicts graft-versus-host disease following living donor liver transplantation	Hepatology Research・ 202101. 2021 Jan; 51(1):135-148	Original Article
15	Hirabayashi S, Shirakawa K, Horisawa Y et al.	血液内科	APOBEC3B is preferentially expressed at the G2/M phase of cell cycle	Biochemical and Biophysical Research Communications・202103. 2021 Mar ;546:178-184	Original Article
16	Takei H, Fukuda H, Pan G et al.	血液内科	Alternative splicing of APOBEC3D generates functional diversity and its role as a DNA mutator	International journal of hematology・202009. 2020 Sep;112(3):395-408	Original Article
17	Nagata K, Shindo K, Matsui Y et al.	血液内科	Critical role of PP2A-B56 family protein degradation in HIV-1 Vif mediated G2 cell cycle arrest	Biochemical and biophysical research communications・202006. 2020 Jun ;527(1):257- 263	Original Article
18	Hamada R, Arai Y, Kondo T et al.	血液内科	Higher exercise tolerance early after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation is the predictive marker for higher probability of later social reintegration.	Scientific reports・ 202103. 2021 Mar ; 11(1):7190	Original Article
19	Iemura T, Arai Y, Kanda J et al.	血液内科	Impact of HLA class I allele-level mismatch on viral infection within 100 days after cord blood transplantation.	Scientific reports・ 202012. 2020 Dec ; 10(1):21150	Original Article
20	Morita-Fujita M, Arai Y, Yoshioka S et al.	血液内科	Indication and benefit of upfront hematopoietic stem cell transplantation for T-cell lymphoblastic lymphoma in the era of ALL-type induction therapies.	Scientific reports・ 202012. 2020 Dec ; 10(1):21418	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
21	Harada K, Fuji S, Seo S et al.	血液内科	Comparison of the outcomes after haploidentical and cord blood salvage transplantations for graft failure following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	Bone Marrow Transplantation・20209. 2020 Sep;55(9):1784-1795	Original Article
22	Yamasaki S, Mori J, Kanda J et al.	血液内科	Effect of allogeneic HCT from unrelated donors in AML patients with intermediate- or poor-risk cytogenetics: a retrospective study from the Japanese Society for HCT.	Annals of hematology・20209. 2020 Dec; 99(12):2927-2937	Original Article
23	Yanada M, Konuma T, Mizuno S et al.	血液内科	Predicting non-relapse mortality following allogeneic hematopoietic cell transplantation during first remission of acute myeloid leukemia.	Bone marrow transplantation・20208. 2021 Feb;56(2):387-394	Original Article
24	Miyao K, Terakura S, Kimura F et al.	血液内科	Updated Comparison of 7/8 HLA Allele-Matched Unrelated Bone Marrow Transplantation and Single-Unit Umbilical Cord Blood Transplantation as Alternative Donors in Adults with Acute Leukemia.	Biology of blood and marrow transplantation : journal of the American Society for Blood and Marrow Transplantation・20208. 2020 Nov; 26(11):2105-2114	Original Article
25	Watanabe M, Kanda J, Hishizawa M et al.	血液内科	Lymphopenia at diagnosis predicts survival of patients with immunodeficiency-associated lymphoproliferative disorders	Annals of Hematology・20207. 2020 Jul; 99(7):1565-1573	Original Article
26	Muranushi H, Kanda J, Arai Y et al.	血液内科	Drug monitoring for mycophenolic acid in graft-vs-host disease prophylaxis in cord blood transplantation.	British journal of clinical pharmacology・202005. 2020 Dec;86(12):2464-2472	Original Article
27	Kurosawa S, Shimomura Y, Tachibana T et al.	血液内科	Outcome of Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation in Patients with Myelodysplastic/Myeloproliferative Neoplasms-Unclassifiable: A Retrospective Nationwide Study of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation.	Biology of blood and marrow transplantation : journal of the American Society for Blood and Marrow Transplantation・202005. 2020 Sep; 26(9):1607-1611	Original Article
28	Watanabe M, Kanda J, Kojima H et al.	血液内科	Wide availability of HLA-matched or a few loci-mismatched donors in the graft-vs-host direction among nonsibling first-degree relatives.	HLA・202004. 2020 Jun;95(6):543-554	Original Article
29	Kobayashi Y, Haze T, Yano Y et al.	糖尿病・内分泌・栄養内科	Associations Between Changes in Plasma Renin Activity and Aldosterone Concentrations and Changes in Kidney Function After Treatment for Primary Aldosteronism.	Kidney international reports・202008. 2020 Jun ;5(8):1291-1297	Original Article
30	Araki E, Tanaka A, Inagaki N et al.	糖尿病・内分泌・栄養内科	Diagnosis, prevention, and treatment of cardiovascular diseases in people with type 2 diabetes and prediabetes: a consensus statement jointly from the Japanese Circulation Society and the Japan Diabetes Society.	Diabetology international・202101. 2020 Nov ;12(1):1-51	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
31	Yamauchi I, Taura D, Hakata T et al.	糖尿病・内分泌・栄養内科	Clinical features and thyroid dysfunction in adverse events involving the pituitary gland during PD-1 blockade therapy.	Clinical endocrinology・202102. 2021 Feb; 94(2):258-268	Original Article
32	Otani D, Murakami T, Matsubara T et al.	糖尿病・内分泌・栄養内科	Acromegaly accompanied by diabetes mellitus and polycystic kidney disease.	Endocrine journal・202101. 2021 Jan ; 68(1):103-110	Original Article
33	Nakamura T, Fujikura J, Anazawa T et al.	糖尿病・内分泌・栄養内科	Reduced glycemic variability and flexible graft function after islet transplantation: A case report.	Journal of diabetes investigation・202011. 2020 Nov;11(6):1677- 1680	Original Article
34	Hatoko T, Murakami T, Sone M et al.	糖尿病・内分泌・栄養内科	Low-dose Selective Arterial Calcium Stimulation Test for Localizing Insulinoma: A Single-center Experience of Five Consecutive Cases.	Internal medicine (Tokyo, Japan)・202010. 2020 Oct ;59(19):2397-2403	Original Article
35	Shinozaki S, Tahara T, Lefor AK et al.	糖尿病・内分泌・栄養内科	Pemafibrate decreases markers of hepatic inflammation in patients with non-alcoholic fatty liver disease.	Clinical and experimental hepatology・202009. 2020 Sep;6(3):270-274	Original Article
36	Tokumoto S, Yabe D, Tatsuoka H et al.	糖尿病・内分泌・栄養内科	Generation and Characterization of a Novel Mouse Model That Allows Spatiotemporal Quantification of Pancreatic beta-Cell Proliferation.	Diabetes・202011. 2020 Nov;69(11):2340-2351	Original Article
37	Murakami T, Fujimoto H, Fujita N et al.	糖尿病・内分泌・栄養内科	Association of glucagon-like peptide-1 receptor-targeted imaging probe with in vivo glucagon-like peptide-1 receptor agonist glucose-lowering effects.	Journal of diabetes investigation・202011. 2020 Nov;11(6):1448- 1456	Original Article
38	Fujita H, Murakami T, Tomoiike F et al.	糖尿病・内分泌・栄養内科	Ceritinib-associated hyperglycemia in the Japanese Adverse Drug Event Report Database.	Journal of diabetes investigation・202005. 2020 May;11(3):726- 730	Original Article
39	Naruse K, Abiko A, Nakayama H et al.	糖尿病・内分泌・栄養内科	The work style and living condition survey of diabetologists and the expectations for the Japan Diabetes Society: results of questionnaires about the current state and the future prospect of their carrier in 2017	Diabetology International・202010. 2020 Jun ;11(4):299- 308	Original Article
40	Yokota Y, Fushimi Y, Okada T et al.	糖尿病・内分泌・栄養内科	Evaluation of image quality of pituitary dynamic contrast-enhanced MRI using time-resolved angiography with interleaved stochastic trajectories (TWIST) and iterative reconstruction TWIST (IT-TWIST).	Journal of magnetic resonance imaging : JMIR・202005. 2020 May;51(5):1497-1506	Original Article

小計 10



番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
41	Minamino H, Katsushima M, Hashimoto M et al.	糖尿病・内分泌・栄養内科	Urinary sodium-to-potassium ratio associates with hypertension and current disease activity in patients with rheumatoid arthritis: a cross-sectional study.	Arthritis research & therapy・202103. 2021 Mar ;23(1):96	Original Article
42	Minamino H, Katsushima M, Torii M et al.	糖尿病・内分泌・栄養内科	Habitual fish intake negatively correlates with prevalence of frailty among patients with rheumatoid arthritis.	Scientific reports・202103. 2021 Mar ;11(1):5104	Original Article
43	Yamagishi M, Tamaki N, Akasaka T et al.	循環器内科	JCS 2018 Guideline on Diagnosis of Chronic Coronary Heart Diseases.	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society・202103. 2021 Mar ;85(4):402-572	Original Article
44	Takeji Y, Shiomi H, Morimoto T et al.	循環器内科	Demographics, practice patterns and long-term outcomes of patients with non-ST-segment elevation acute coronary syndrome in the past two decades: the CREDO-Kyoto Cohort-2 and Cohort-3.	BMJ open・202102. 2021 Feb ;11(2):e044329	Original Article
45	Nishimoto Y, Yamashita Y, Kim K et al.	循環器内科	Risk Factors for Major Bleeding During Anticoagulation Therapy in Cancer-Associated Venous Thromboembolism – From the COMMAND VTE Registry.	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society・202010. 2020 Oct ;84(11):2006-2014	Original Article
46	Ihdayhid AR, Norgaard BL, Achenbach S et al.	循環器内科	Ischemic Myocardial Burden Subtended by Computed Tomography-Derived Fractional Flow Reserve (APPROACHFFRCT): An Exploratory Analysis on Diagnostic Performance.	JACC. Cardiovascular imaging・202010. 2020 Oct ;13(10):2264-2267	Original Article
47	Horie K, Kuramitsu S, Shinozaki T et al.	循環器内科	Outcomes After First- Versus Second-Generation Drug-Eluting Stent Thrombosis (from the REAL-ST Registry).	The American journal of cardiology・202010. 2020 Oct ;132:52-58	Original Article
48	Zhang D, Song X, Chen Y et al.	循環器内科	Antithrombotic Therapy in Patients With Prior Stroke/Transient Ischemic Attack and Acute Coronary Syndromes.	Angiology・202007. 2020 Jul ;71(6):576-577	Original Article
49	Nishimoto Y, Yamashita Y, Morimoto T et al.	循環器内科	Predictive ability of modified Ottawa score for recurrence in patients with cancer-associated venous thromboembolism: From the COMMAND VTE Registry.	Thrombosis research・202007. 2020 Jul ;191:66-75	Original Article
50	Taniguchi T, Morimoto T, Shiomi H et al.	循環器内科	Elective Non-Cardiac Surgery in Patients With Severe Aortic Stenosis – Observations From the CURRENT AS Registry.	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society・202006. 2020 Jun ;84(7):1173-1182	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
51	Zhang D, Song X, Chen Y et al.	循環器内科	Outcome of Patients With Prior Stroke/Transient Ischemic Attack and Acute Coronary Syndromes.	Angiology・202004. 2020 Apr;71(4):324-332	Original Article
52	Yamashita Y, Yamada N, Mo M.	循環器内科	The Primary Prevention of Venous Thromboembolism in Patients with COVID-19 in Japan: Current Status and Future Perspective.	Annals of vascular diseases・202103. 2021 Mar ;14(1):1-4	Original Article
53	Hata R, Kato T, Yaku H et al.	循環器内科	Implantable Cardioverter Defibrillator Therapy in Patients with Acute Decompensated Heart Failure with Reduced Ejection Fraction: An Observation from the KCHF Registry.	Journal of cardiology・ 202103. 2021 Mar; 77(3):292-299	Original Article
54	Shiba M, Kato T, Morimoto T et al.	循環器内科	Prognostic value of reduction in left atrial size during a follow-up of heart failure: an observational study.	BMJ open・202102. 2021 Feb ;11(2):e044409	Original Article
55	Yamashita Y, Morimoto T, Kadota K et al.	循環器内科	Autoimmune disorders and venous thromboembolism: An update from the COMMAND VTE registry.	European journal of internal medicine・ 202102. 2021 Feb; 84:106-108	Original Article
56	Takase T, Iwanaga Y, Yamashita Y et al.	循環器内科	Long-term effects of non-retrieved inferior vena cava filters on recurrences of venous thromboembolism in cancer and non-cancer patients: From the COMMAND VTE registry.	European journal of internal medicine・ 202012. 2020 Dec; 82:S0953- 6205(20)30347-2	Original Article
57	Seko Y, Kato T, Morimoto T et al.	循環器内科	Association between body mass index and prognosis of patients hospitalized with heart failure.	Scientific reports・ 202010. 2020 Oct ; 10(1):16663	Original Article
58	Yamashita Y, Morimoto T, Amano H et al.	循環器内科	Validation of simplified PESI score for identification of low-risk patients with pulmonary embolism: From the COMMAND VTE Registry.	European heart journal. Acute cardiovascular care・202006. 2020 Jun; 9(4):262-270	Original Article
59	Takeji Y, Shiomi H, Morimoto T et al.	循環器内科	Changes in demographics, clinical practices and long-term outcomes of patients with ST segment-elevation myocardial infarction who underwent coronary revascularisation in the past two decades: cohort study.	BMJ open・202103. 2021 Mar ;11(3):e043683	Original Article
60	Yamamoto K, Natsuaki M, Morimoto T et al.	循環器内科	Periprocedural Stroke After Coronary Revascularization (from the CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3).	The American journal of cardiology・202103. 2021 Mar ;142:35-43	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
61	Kanenawa K, Yamaji K, Tashiro H et al.	循環器内科	Patient Selection and Clinical Outcomes in the STOPDAPT-2 Trial: An All-Comer Single-Center Registry During the Enrollment Period of the STOPDAPT-2 Randomized Controlled Trial.	Circulation. Cardiovascular interventions・202102. 2021 Feb; 14(2):e010007	Original Article
62	Watanabe H, Domei T, Morimoto T et al.	循環器内科	Details on the effect of very short dual antiplatelet therapy after drug-eluting stent implantation in patients with high bleeding risk: insight from the STOPDAPT-2 trial.	Cardiovascular intervention and therapeutics・202101. 2021 Jan;36(1):91-103	Original Article
63	Natsuaki M, Morimoto T, Watanabe H et al.	循環器内科	Clopidogrel Monotherapy vs. Aspirin Monotherapy Following Short-Term Dual Antiplatelet Therapy in Patients Receiving Everolimus-Eluting Coronary Stent Implantation.	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society・202008. 2020 Aug ;84(9):1483-1492	Original Article
64	Takeji Y, Taniguchi T, Morimoto T et al.	循環器内科	Transcatheter Aortic Valve Implantation vs. Surgical Aortic Valve Replacement for Severe Aortic Stenosis in Real-World Clinical Practice.	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society・202004. 2020 Apr ;84(5):806-814	Original Article
65	Kawaji T, Shizuta S, Aizawa T et al.	循環器内科	Impact of catheter ablation for atrial fibrillation on cardiac disorders in patients with coexisting heart failure.	ESC heart failure・ 202102. 2021 Feb; 8(1):670-679	Original Article
66	Nishimoto Y, Kato T, Morimoto T et al.	循環器内科	C-reactive protein at discharge and 1-year mortality in hospitalised patients with acute decompensated heart failure: an observational study.	BMJ open・202012. 2020 Dec ;10(12):e041068	Original Article
67	Ono K.	循環器内科	Prediction of Coronary Artery Disease by Measurement of Circulating MicroRNA-423-3p Levels.	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society・202006. 2020 Jun ;84(7):1062-1063	Original Article
68	Horie T, Nakao T, Miyasaka Y et al.	循環器内科	microRNA-33 maintains adaptive thermogenesis via enhanced sympathetic nerve activity.	Nature communications・ 202102. 2021 Feb ; 12(1):843	Original Article
69	Kuwabara Y, Tsuiji S, Nishiga M et al.	循環器内科	Lionheart LincRNA alleviates cardiac systolic dysfunction under pressure overload.	Communications biology・ 202008. 2020 Aug ; 3(1):434	Original Article
70	Ono K, Wada H, Satoh- Asahara N et al.	循環器内科	Effects of Metformin on Left Ventricular Size and Function in Hypertensive Patients with Type 2 Diabetes Mellitus: Results of a Randomized, Controlled, Multicenter, Phase IV Trial.	American journal of cardiovascular drugs : drugs, devices, and other interventions・202006. 2020 Jun;20(3):283-293	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
71	Kimura M, Horie T, Baba O et al.	循環器内科	Homeobox A4 suppresses vascular remodeling by repressing YAP/TEAD transcriptional activity.	EMBO reports・202004. 2020 Apr ;21(4):e48389	Original Article
72	Zhu Y, Cui G, Miyauchi E et al.	消化器内科	Intestinal epithelial cell-derived IL-15 determines local maintenance and maturation of intra-epithelial lymphocytes in the intestine.	International immunology・202005. 2020 May ;32(5):307- 319	Original Article
73	Utsumi T, Horimatsu T, Nishikawa Y et al.	消化器内科	Short educational video to improve the accuracy of colorectal polyp size estimation: Multicenter prospective study	Digestive Endoscopy・ 202011. 2020 Nov; 32(7):1074-1081	Original Article
74	Takeda H, Takai A, Kumagai K et al.	消化器内科	Multiregional whole-genome sequencing of hepatocellular carcinoma with nodule-in-nodule appearance reveals stepwise cancer evolution.	The Journal of pathology・ 202012. 2020 Dec; 252(4):398-410	Original Article
75	Sawada K, Takai A, Yamada T et al.	消化器内科	Hepatitis-associated Aplastic Anemia with Rapid Progression of Liver Fibrosis Due to Repeated Hepatitis.	Internal medicine (Tokyo, Japan)・202004. 2020 Apr ;59(8):1035-1040	Original Article
76	Iguchi E, Takai A, Takeda H et al.	消化器内科	DNA methyltransferase 3B plays a protective role against hepatocarcinogenesis caused by chronic inflammation via maintaining mitochondrial homeostasis.	Scientific reports・ 202012. 2020 Dec ; 10(1):21268	Original Article
77	Eso Y, Nakano S, Mishima M et al.	消化器内科	Branched-chain amino acid to tyrosine ratio is an essential pre-treatment factor for maintaining sufficient treatment intensity of lenvatinib in patients with hepatocellular carcinoma.	Journal of hepato-biliary- pancreatic sciences・ 202012. 2020 Dec; 27(12):913-921	Original Article
78	Funazo T, Tsuiji T, Ozasa H et al.	呼吸器内科	Acquired Resistance to Alectinib in ALK-Rearranged Lung Cancer due to ABCC11/MRP8 Overexpression in a Clinically Paired Resistance Model.	Molecular cancer therapeutics・202006. 2020 Jun;19(6):1320- 1327	Original Article
79	Shima H, Tanabe N, Sato S et al.	呼吸器内科	Lobar distribution of non-emphysematous gas trapping and lung hyperinflation in chronic obstructive pulmonary disease.	Respiratory investigation・ 202007. 2020 Jul; 58(4):246-254	Original Article
80	Uemasu K, Tanabe N, Tanimura K et al.	呼吸器内科	Serine Protease Imbalance in the Small Airways and Development of Centrilobular Emphysema in Chronic Obstructive Pulmonary Disease.	American journal of respiratory cell and molecular biology・ 202007. 2020 Jul; 63(1):67-78	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
81	Tanimura K, Sato S, Sato A et al.	呼吸器内科	Low serum free light chain is associated with risk of COPD exacerbation.	ERJ open research・ 202004. 2020 Jul ; 6(2):00288-2019	Original Article
82	Tanabe N, Sato S, Tanimura K et al.	呼吸器内科	Associations of CT evaluations of antigravity muscles, emphysema and airway disease with longitudinal outcomes in patients with COPD.	Thorax・202103. 2021 Mar;76(3):295-297	Original Article
83	Morimoto C, Matsumoto H, Nagasaki T et al.	呼吸器内科	Gastroesophageal reflux disease is a risk factor for sputum production in the general population: the Nagahama study.	Respiratory research・ 202101. 2021 Jan ; 22(1):6	Original Article
84	Tanabe N, Shimizu K, Terada K et al.	呼吸器内科	Central airway and peripheral lung structures in airway disease-dominant COPD.	ERJ open research・ 202101. 2021 Mar ; 7(1):00672-2020	Original Article
85	Nakanobo R, Hamaji M, Ohsumi A et al.	呼吸器内科	Paratracheal Middle Mediastinal Thymic Carcinomas.	The Annals of thoracic surgery・202007. 2020 Jul;110(1):e39-e41	Original Article
86	Yoshida H, Kim YH, Sakamori Y et al.	呼吸器内科	A Randomized Phase II Study of Maintenance Bevacizumab, Pemetrexed or Bevacizumab Plus Pemetrexed for Advanced Non-squamous Non-small Cell Lung Cancer.	Anticancer Res.・202005. 2020 May;40(5):2981- 2987	Original Article
87	Sunadome H, Matsumoto H, Tachikawa R et al.	呼吸器内科	Role of serum periostin in severe obstructive sleep apnea with albuminuria: an observational study.	Respiratory research・ 202006. 2020 Jun ; 21(1):143	Original Article
88	Sugihara T, Hasegawa H, Uchida HA et al.	免疫・膠原病内 科	Associated factors of poor treatment outcomes in patients with giant cell arteritis: clinical implication of large vessel lesions.	Arthritis research & therapy・202004. 2020 Apr ;22(1):72	Original Article
89	Korogi Y, Tanaka N, Yoshifuji H et al.	免疫・膠原病内 科	Complete occlusion of right pulmonary artery in Behçet disease	Respirology Case Reports・202006. 2020 Jun ;8(6):e00594	Original Article
90	Shirakashi M, Nakashima R, Tsuji H et al.	免疫・膠原病内 科	Efficacy of plasma exchange in anti-MDA5-positive dermatomyositis with interstitial lung disease under combined immunosuppressive treatment.	Rheumatology (Oxford, England)・202004. 2020 Nov ;59(11):3284-3292	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
91	Tsuji H, Yoshifuji H, Shindo T et al.	免疫・膠原病内 科	Primary hepatic lymphoma as other iatrogenic immunodeficiency- related lymphoproliferative disorders: a case report and review of the literature.	Modern rheumatology case reports・202101. 2021 Jan;5(1):172-177	Original Article
92	Kida D, Takahashi N, Kaneko A et al.	免疫・膠原病内 科	A retrospective analysis of the relationship between anti-cyclic citrullinated peptide antibody and the effectiveness of abatacept in rheumatoid arthritis patients.	Scientific reports・ 202011. 2020 Nov ; 10(1):19717	Original Article
93	Yamazaki K, Minatoya K, Sakamoto K et al.	免疫・膠原病内 科	Hypothermic circulatory arrest for aortic dissection with cryoglobulinemia.	Journal of cardiac surgery・202011. 2020 Nov;35(11):3169-3172	Original Article
94	Kondo- Ishikawa S, Fujii T, Ishigooka N et al.	免疫・膠原病内 科	Association of anti-NR2 and U1RNP antibodies with neurotoxic inflammatory mediators in cerebrospinal fluid from patients with neuropsychiatric systemic lupus erythematosus.	Lupus・202011. 2020 Nov;29(13):1673-1682	Original Article
95	Iwasaki T, Nakabo S, Terao C et al.	免疫・膠原病内 科	Long-term follow-up of patients with anti-cyclic citrullinated peptide antibody-positive connective tissue disease: a retrospective observational study including information on the HLA-DRB1 allele and citrullination dependency.	Arthritis research & therapy・202010. 2020 Oct ;22(1):248	Original Article
96	Nakabo S, Tsuji Y, Inagaki M et al.	免疫・膠原病内 科	Severe joint deformity and patient global assessment of disease are associated with discrepancies between sonographic and clinical remission: A cross-sectional study of rheumatoid arthritis patients.	Modern rheumatology・ 202005. 2021 Mar; 31(2):334-342	Original Article
97	Okuno Y, Yamagami H, Kataoka H et al.	初期診療・救急 科	Field Assessment of Critical Stroke by Emergency Services for Acute Delivery to a Comprehensive Stroke Center: FACE2AD.	Translational stroke research・202008. 2020 Aug;11(4):664-670	Original Article
98	Yamada H, Shirata N, Makino S et al.	初期診療・救急 科	MAGI-2 orchestrates the localization of backbone proteins in the slit diaphragm of podocytes.	Kidney international・ 202010. 2021 Feb; 99(2):382-395	Original Article
99	Okada Y, Matsuyama T, Morita S et al.	初期診療・救急 科	Machine learning-based prediction models for accidental hypothermia patients.	Journal of intensive care・ 202101. 2021 Jan ; 9(1):6	Original Article
100	Okada Y, Kiguchi T, Irisawa T et al.	初期診療・救急 科	Development and Validation of a Clinical Score to Predict Neurological Outcomes in Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest Treated With Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation.	JAMA network open・ 202011. 2020 Nov ; 3(11):e2022920	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
101	Minami T, Matsumoto T, Tabara Y et al.	初期診療・救急 科	Impact of sleep-disordered breathing on glucose metabolism among individuals with a family history of diabetes: the Nagahama study.	Journal of clinical sleep medicine : JCSM : official publication of the American Academy of Sleep Medicine・202102. 2021 Feb ;17(2):129- 140	Original Article
102	Kawamoto Y, Ayaki T, Urushitani M et al.	脳神経内科	Accumulation of HAX-1 and PARL in brainstem- and cortical-type Lewy bodies in Parkinson's disease and dementia with Lewy bodies.	Journal of the neurological sciences・ 202005. 2020 Aug ; 415:116928	Original Article
103	Yasuda K, Maki T, Kinoshita H et al.	脳神経内科	Sex-specific differences in transcriptomic profiles and cellular characteristics of oligodendrocyte precursor cells.	Stem cell research・ 202007. 2020 Jul; 46:101866	Original Article
104	Inoue T, Kobayashi K, Matsumoto R et al.	脳神経内科	Engagement of cortico-cortical and cortico-subcortical networks in a patient with epileptic spasms: An integrated neurophysiological study.	Clinical neurophysiology : official journal of the International Federation of Clinical Neurophysiology・202005. 2020 Sep;131(9):2255- 2264	Original Article
105	Hoshino T, Yamakado H, Takahashi R et al.	脳神経内科	Susceptibility to erastin-induced ferroptosis decreases during maturation in a human oligodendrocyte cell line.	FEBS open bio・202007. 2020 Sep;10(9):1758- 1764	Original Article
106	Fukuma K, Kajimoto K, Tanaka T et al.	脳神経内科	Visualizing prolonged hyperperfusion in post-stroke epilepsy using postictal subtraction SPECT.	Journal of cerebral blood flow and metabolism : official journal of the International Society of Cerebral Blood Flow and Metabolism・202101. 2021 Jan;41(1):146-156	Original Article
107	Seo JH, Maki T, Miyamoto N et al.	脳神経内科	AKAP12 Supports Blood-Brain Barrier Integrity against Ischemic Stroke.	International journal of molecular sciences・ 202011. 2020 Nov ; 21(23):9078	Original Article
108	Yano T, Tsukita K, Kanoh H et al.	脳神経内科	A microtubule-LUZP1 association around tight junction promotes epithelial cell apical constriction.	The EMBO journal・ 202101. 2021 Jan ; 40(2):e104712	Original Article
109	Egawa N, Suzuki H, Takahashi R et al.	脳神経内科	From in vitro to in vivo reprogramming for neural transdifferentiation: An approach for CNS tissue remodeling using stem cell technology.	Journal of cerebral blood flow and metabolism : official journal of the International Society of Cerebral Blood Flow and Metabolism・202009. 2020 Sep;40(9):1739-1751	Original Article
110	Sonoo M, Sakoi M, Watanabe K et al.	脳神経内科	[What is necessary to make neurology a basic specialty?: Changing medical specialty system in Japan and the mission of a basic specialty].	Rinsho shinkeigaku = Clinical neurology・ 202008. 2020 Aug ; 60(8):515-519	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
111	Togo M, Inouchi M, Matsumoto R et al.	脳神経内科	[A case of refractory generalized atonic seizure and hemifacial spasm with the possible causative pontocerebellar lesion].	Rinsho shinkeigaku = Clinical neurology・ 202005. 2020 May ; 60(5):362-366	Original Article
112	Suzuki H, Egawa N, Kondo T et al.	脳神経内科	Generation of a human induced pluripotent stem cell line derived from a Parkinson's disease patient carrying SNCA duplication.	Stem cell research・ 202005. 2020 May ; 45:101828	Original Article
113	Ozawa S, Matsubayashi M, Nanaura H et al.	腎臓内科	Proteolytic cleavage of Podocin by Matriptase exacerbates podocyte injury.	The Journal of biological chemistry・202011. 2020 Nov ;295(47):16002- 16012	Original Article
114	Yoshibayashi M, Kume S, Yasuda- Yamahara M et al.	腎臓内科	Protective role of podocyte autophagy against glomerular endothelial dysfunction in diabetes.	Biochemical and biophysical research communications・202004. 2020 Apr ;525(2):319- 325	Original Article
115	Tomita I, Kume S, Sugahara S et al.	腎臓内科	SGLT2 Inhibition Mediates Protection from Diabetic Kidney Disease by Promoting Ketone Body-Induced mTORC1 Inhibition.	Cell metabolism・202007. 2020 Sep ;32(3):404- 419.e6	Original Article
116	Kataoka S, Nishikawa Y, Funakoshi T et al.	腎臓内科	Long-term survival and renal dysfunction in a patient with recurrent colorectal cancer treated with Bevacizumab.	Clinical journal of gastroenterology・202006. 2020 Jun;13(3):316-319	Original Article
117	Miyajima Y, Ealey KN, Motomura Y et al.	腎臓内科	Effects of BMP7 produced by group 2 innate lymphoid cells on adipogenesis.	International immunology・202005. 2020 May ;32(6):407- 419	Original Article
118	Nakano D, Kitada K, Wan N et al.	腎臓内科	Lipopolysaccharide induces filtrate leakage from renal tubular lumina into the interstitial space via a proximal tubular Toll-like receptor 4-dependent pathway and limits sensitivity to fluid therapy in mice.	Kidney international・ 202005. 2020 May ; 97(5):904-912	Original Article
119	Nakagawa N, Sofue T, Kanda E et al.	腎臓内科	J-CKD-DB: a nationwide multicentre electronic health record-based chronic kidney disease database in Japan.	Scientific reports・ 202004. 2020 Apr ; 10(1):7351	Original Article
120	Takada D, Kunisawa S, Matsubara T et al.	腎臓内科	Developing and validating a multivariable prediction model for in-hospital mortality of pneumonia with advanced chronic kidney disease patients: a retrospective analysis using a nationwide database in Japan.	Clinical and experimental nephrology・202004. 2020 Aug;24(8):715-724	Original Article

小計 10



番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
121	Fujimura R, Yamamoto T, Takabatake Y et al.	腎臓内科	Autophagy protects kidney from phosphate-induced mitochondrial injury.	Biochemical and biophysical research communications・202004. 2020 Apr ;524(3):636- 642	Original Article
122	Malyszko J, Bamias A, Danesh FR et al.	腎臓内科	KDIGO Controversies Conference on onco-nephrology: kidney disease in hematological malignancies and the burden of cancer after kidney transplantation	Kidney International・ 202012. 2020 Dec ; 98(6):1407-1418	Original Article
123	Miyanaga T, Mizuguchi K, Hara S et al.	腎臓内科	Tertiary lymphoid tissue in early-stage IgG4-related tubulointerstitial nephritis incidentally detected with a tumor lesion of the ureteropelvic junction: a case report	BMC Nephrology・ 202101. 2021 Jan ; 22(1):34	Original Article
124	Ohashi S, Kikuchi O, Nakai Y et al.	腫瘍内科	Synthetic Lethality with Trifluridine/Tipiracil and Checkpoint Kinase 1 Inhibitor for Esophageal Squamous Cell Carcinoma	Molecular cancer therapeutics・202006. 2020 Jun;19(6):1363- 1372	Original Article
125	Hirohashi K, Ohashi S, Amanuma Y et al.	腫瘍内科	Protective effects of Alda-1, an ALDH2 activator, on alcohol-derived DNA damage in the esophagus of human ALDH2*2 (Glu504Lys) knock-in mice	Carcinogenesis・202004. 2020 Apr ;41(2):194- 202	Original Article
126	Sunami K, Naito Y, Aimono E et al.	腫瘍内科	The initial assessment of expert panel performance in core hospitals for cancer genomic medicine in Japan.	International journal of clinical oncology・202103. 2021 Mar;26(3):443- 449	Original Article
127	Mitani Y, Kanai M, Kou T et al.	腫瘍内科	Cancer of unknown primary with EGFR mutation successfully treated with targeted therapy directed by clinical next-generation sequencing: a case report.	BMC cancer・202012. 2020 Dec ;20(1):1177	Original Article
128	Ozawa- Umeta H, Kishimoto A, Imaizumi A et al.	腫瘍内科	Curcumin beta-D-glucuronide exhibits anti-tumor effects on oxaliplatin-resistant colon cancer with less toxicity in vivo.	Cancer science・202005. 2020 May;111(5):1785- 1793	Original Article
129	Kadota T, Ikematsu H, Sasaki T et al.	腫瘍内科	Protocol for a single-arm confirmatory trial of adjuvant chemoradiation for patients with high-risk rectal submucosal invasive cancer after local resection: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1612 (RESCUE study).	BMJ open・202007. 2020 Jul ;10(7):e034947	Original Article
130	Kato M, Tanaka K, Kida M et al.	腫瘍内科	Multicenter database registry for endoscopic retrograde cholangiopancreatography: Japan Endoscopic Database Project.	Digestive endoscopy : official journal of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society・ 202005. 2020 May; 32(4):494-502	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
131	Katada C, Yokoyama T, Yano T et al.	腫瘍内科	Association between macrocytosis and metachronous squamous cell carcinoma of the esophagus after endoscopic resection in men with early esophageal squamous cell carcinoma	Esophagus・202004. 2020 Apr;17(2):149-158	Original Article
132	Takizawa K, Ono H, Hasuike N et al.	腫瘍内科	A nonrandomized, single-arm confirmatory trial of expanded endoscopic submucosal dissection indication for undifferentiated early gastric cancer: Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1009/1010)	Gastric Cancer・202103. 2021 Mar;24(2):479- 491	Original Article
133	Yoshida N, Doyama H, Yano T et al.	腫瘍内科	Early gastric cancer detection in high-risk patients: a multicentre randomised controlled trial on the effect of second-generation narrow band imaging	Gut・202101. 2021 Jan; 70(1):67-75	Original Article
134	Kakushima N, Yoshida N, Doyama H et al.	腫瘍内科	Near-focus magnification and second-generation narrow-band imaging for early gastric cancer in a randomized trial	Journal of Gastroenterology・ 202012. 2020 Dec; 55(12):1127-1137	Original Article
135	Kondo T, Kanai M, Matsubara J et al.	腫瘍内科	BRCA2 Reversion Mutation Identified by Liquid Biopsy After Durable Response to FOLFIRINOX in BRCA2-Associated Pancreatic Cancer	Pancreas・202011. 2020 Nov/Dec;49(10):e101- e103	Original Article
136	Oda I, Shimizu Y, Yoshio T et al.	腫瘍内科	Long-term outcome of endoscopic resection for intramucosal esophageal squamous cell cancer: a secondary analysis of the Japan Esophageal Cohort study	Endoscopy・202011. 2020 Nov;52(11):967-975	Original Article
137	Amanuma Y, Horimatsu T, Ohashi S et al.	腫瘍内科	Association of local complete response with prognosis after salvage photodynamic therapy for esophageal squamous cell carcinoma	Digestive Endoscopy・ 202103. 2021 Mar; 33(3):355-363	Original Article
138	Nomura M, Nagatomo R, Doi K et al.	腫瘍内科	Association of Short-Chain Fatty Acids in the Gut Microbiome With Clinical Response to Treatment With Nivolumab or Pembrolizumab in Patients With Solid Cancer Tumors.	JAMA network open・ 202004. 2020 Apr ; 3(4):e202895	Original Article
139	Owari T, Miyake M, Nakai Y et al.	消化管外科	External validation of a genitourinary cancer-specific prognostic scoring system to predict survival for patients with bone metastasis (modified B-FOM scoring model): Comparison with other scoring models in terms of accuracy.	Journal of bone oncology・ 202102. 2020 Dec ; 26:100344	Original Article
140	Kato S, Okamura R, Adashek JJ et al.	消化管外科	Targeting G1/S phase cell-cycle genomic alterations and accompanying co-alterations with individualized CDK4/6 inhibitor-based regimens.	JCI insight・202101. 2021 Jan ;6(1):e142547	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
141	Kato S, Kim KH, Lim HJ et al.	消化管外科	Real-world data from a molecular tumor board demonstrates improved outcomes with a precision N-of-One strategy.	Nature communications・202010. 2020 Oct ; 11(1):4965	Original Article
142	Riviere P, Goodman AM, Okamura R et al.	消化管外科	High Tumor Mutational Burden Correlates with Longer Survival in Immunotherapy-Naïve Patients with Diverse Cancers.	Molecular cancer therapeutics・202010. 2020 Oct;19(10):2139-2145	Original Article
143	Rosenberg S, Okamura R, Kato S et al.	消化管外科	Survival implications of the relationship between tissue versus circulating tumor DNA TP53 mutations – a perspective from a real-world precision medicine cohort.	Molecular cancer therapeutics・202009. 2020 Dec;19(12):2612-2620	Original Article
144	Bohan SS, Sicklick JK, Kato S et al.	消化管外科	Attrition of Patients on a Precision Oncology Trial: Analysis of the I-PREDICT Experience.	The oncologist・202009. 2020 Nov; 25(11):e1803-e1806	Original Article
145	Charo LM, Eskander RN, Okamura R et al.	消化管外科	Clinical implications of plasma circulating tumor DNA in gynecologic cancer patients.	Molecular oncology・202009. 2021 Jan; 15(1):67-79	Original Article
146	Okamura R, Kurzrock R, Mallory RJ et al.	消化管外科	Comprehensive genomic landscape and precision therapeutic approach in biliary tract cancers.	International journal of cancer・202007. 2021 Feb ;148(3):702-712	Original Article
147	Sicklick JK, Kato S, Okamura R et al.	消化管外科	Precision oncology: the intention-to-treat analysis fallacy.	European journal of cancer (Oxford, England : 1990)・202007. 2020 Jul;133:25-28	Original Article
148	Goodman AM, Castro A, Pyke RM et al.	消化管外科	MHC-I genotype and tumor mutational burden predict response to immunotherapy.	Genome medicine・202005. 2020 May ; 12(1):45	Original Article
149	Sakamoto T, Hida K, Hoshino N et al.	消化管外科	Changes in the sexual function of male patients with rectal cancer over a 2-year period from diagnosis to 24-month follow-up: A prospective, multicenter, cohort study.	Journal of surgical oncology・202012. 2020 Dec;122(8):1647-1654	Original Article
150	Kawada K, Hida K, Takahashi R et al.	消化管外科	Laparoscopic abdominoperineal excision following revascularization of the iliac vessels – a video vignette.	Colorectal disease : the official journal of the Association of Coloproctology of Great Britain and Ireland・202009. 2020 Sep; 22(9):1200	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
151	Okada T, Kawada K, Sumii A et al.	消化管外科	Stereotactic Navigation for Rectal Surgery: Comparison of 3-Dimensional C-Arm-Based Registration to Paired-Point Registration.	Diseases of the colon and rectum・202005. 2020 May;63(5):693-700	Original Article
152	Okada T, Kawada K, Kobayashi T et al.	消化管外科	Utility of ICG fluorescence imaging with vessel clamp for ileocecal resection while preserving ileal conduit constructed after previous total cystectomy	Surgical Case Reports・202012. 2020 Oct ; 6(1):257	Original Article
153	Tsunoda S, Obama K, Hisamori S et al.	消化管外科	Lower Incidence of Postoperative Pulmonary Complications Following Robot-Assisted Minimally Invasive Esophagectomy for Esophageal Cancer: Propensity Score-Matched Comparison to Conventional Minimally Invasive Esophagectomy.	Annals of surgical oncology・202102. 2021 Feb;28(2):639-647	Original Article
154	Tsunoda S, Obama K, Hisamori S et al.	消化管外科	Simple technique of azygos arch division and retraction for minimally invasive esophagectomy.	Esophagus : official journal of the Japan Esophageal Society・202101. 2021 Jan; 18(1):169-172	Original Article
155	Ueda Y, Tsunoda S, Hisamori S et al.	消化管外科	Laparoscopic surgery for ventrally located epiphrenic diverticulum with esophageal achalasia.	Clinical journal of gastroenterology・202008. 2020 Aug;13(4):491-494	Original Article
156	Kiyasu Y, Kawada K, Hirai H et al.	消化管外科	Disruption of CCR1-mediated myeloid cell accumulation suppresses colorectal cancer progression in mice.	Cancer letters・202009. 2020 Sep ;487:53-62	Original Article
157	Yamamoto T, Kawada K, Kiyasu Y et al.	消化管外科	Prediction of surgical difficulty in minimally invasive surgery for rectal cancer by use of MRI pelvimetry.	BJS open・202004. 2020 Aug;4(4):666-677	Original Article
158	Itatani Y, Kawada K, Hida K et al.	消化管外科	Laparoscopic left hemicolectomy with regional lymph node navigation and intracorporeal anastomosis for splenic flexure colon cancer	International Cancer Conference Journal・202006. 2020 Jun ; 9(4):170-174	Original Article
159	Nishie M, Suzuki E, Hattori M et al.	乳腺外科	Downregulated ATP6V1B1 expression acidifies the intracellular environment of cancer cells leading to resistance to antibody-dependent cellular cytotoxicity.	Cancer immunology, immunotherapy : CII・202009. 2021 Mar; 70(3):817-830	Original Article
160	Tanaka S, Ishii T, Sato F et al.	乳腺外科	Eribulin mesylate-induced c-Fos upregulation enhances cell survival in breast cancer cell lines	Biochemical and Biophysical Research Communications・202005. 2020 May ;526(1):154-157	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
161	Sato A, Masui T, Yogo A et al.	肝胆膵・移植外科	Time-frequency analysis of serum with proton nuclear magnetic resonance for diagnosis of pancreatic cancer.	Scientific reports・ 202012. 2020 Dec ; 10(1):21941	Original Article
162	Sharshar M, Yagi S, Iida T et al.	肝胆膵・移植外科	Liver transplantation in patients with portal vein thrombosis: A strategic road map throughout management.	Surgery・202012. 2020 Dec;168(6):1160-1168	Original Article
163	Miyachi Y, Yagi S, Hirata M et al.	肝胆膵・移植外科	Causes of liver steatosis influence the severity of ischemia reperfusion injury and survival after liver transplantation in rats.	Liver transplantation : official publication of the American Association for the Study of Liver Diseases and the International Liver Transplantation Society・ 202006. 2020 Nov; 26(11):1504-1515	Original Article
164	Kimura Y, Taura K, Hai Nam N et al.	肝胆膵・移植外科	Utility of Mac-2 Binding Protein Glycosylation Isomer to Evaluate Graft Status After Liver Transplantation.	Liver transplantation : official publication of the American Association for the Study of Liver Diseases and the International Liver Transplantation Society・ 202102. 2021 Feb; 27(3):403-415	Original Article
165	Miyachi Y, Kaido T, Hirata M et al.	肝胆膵・移植外科	The combination of a male donor's high muscle mass and quality is an independent protective factor for graft loss after living donor liver transplantation.	American journal of transplantation : official journal of the American Society of Transplantation and the American Society of Transplant Surgeons・ 202012. 2020 Dec; 20(12):3401-3412	Original Article
166	Ogiso S, Seo S, Ishii T et al.	肝胆膵・移植外科	Middle Hepatic Vein Branch-Guided Approach for Laparoscopic Resection of Liver Segment 8 Is Simple, Reliable, and Reproducible.	Annals of surgical oncology・202012. 2020 Dec;27(13):5195	Original Article
167	Kamo N, Kaido T, Miyachi Y et al.	肝胆膵・移植外科	Preoperative abnormal body composition is closely related to bacteremia after living donor liver transplantation.	Nutrition (Burbank, Los Angeles County, Calif.)・ 202009. 2020 Sep; 77:110798	Original Article
168	Sharshar M, Kaido T, Shirai H et al.	肝胆膵・移植外科	Impact of the preoperative bone mineral density on the outcomes after resection of pancreatic cancer.	Surgery today・202007. 2020 Jul;50(7):757-766	Original Article
169	Yamashiki N, Haga H, Ueda Y et al.	肝胆膵・移植外科	Use of Nakanuma staging and cytokeratin 7 staining for diagnosing recurrent primary biliary cholangitis after living-donor liver transplantation.	Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology・202004. 2020 Apr;50(4):478- 487	Original Article
170	Ma HY, Yamamoto G, Xu J et al.	肝胆膵・移植外科	IL-17 signaling in steatotic hepatocytes and macrophages promotes hepatocellular carcinoma in alcohol-related liver disease.	Journal of hepatology・ 202005. 2020 May; 72(5):946-959	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
171	Liu X, Xu J, Rosenthal S et al.	肝胆膵・移植外科	Identification of Lineage-Specific Transcription Factors That Prevent Activation of Hepatic Stellate Cells and Promote Fibrosis Resolution.	Gastroenterology・202005. 2020 May; 158(6):1728-1744.e14	Original Article
172	Fukuyama K, Asagiri M, Sugimoto M et al.	肝胆膵・移植外科	Gene expression profiles of liver cancer cell lines reveal two hepatocyte-like and fibroblast-like clusters.	PloS one・202102. 2021 Feb ;16(2):e0245939	Original Article
173	Yamamoto G, Taura K.	肝胆膵・移植外科	Response to: Is ALPlat criterion justified for predicting posthepatectomy liver failure?	Surgery・202012. 2020 Dec;168(6):1180-1181	Original Article
174	Nagai K, Kiguchi G, Yogo A et al.	肝胆膵・移植外科	Left-posterior approach for artery-first en bloc resection in laparoscopic distal pancreatectomy for left-sided pancreatic cancer.	Langenbeck's archives of surgery・202012. 2020 Dec;405(8):1251-1258	Original Article
175	Ichikawa S, Isoda H, Shimizu T et al.	肝胆膵・移植外科	Distinguishing intrahepatic mass-forming biliary carcinomas from hepatocellular carcinoma by computed tomography and magnetic resonance imaging using the Bayesian method: a bi-center study.	European radiology・202011. 2020 Nov; 30(11):5992-6002	Original Article
176	Uno S, Kataoka TR, Okajima H et al.	肝胆膵・移植外科	Perihilar cholangiocarcinoma in an explanted liver after Kasai operation for biliary atresia: A case report and literature review.	Pathology international・202011. 2020 Nov; 70(11):888-892	Original Article
177	Terui K, Hirahara N, Tachimori H et al.	小児外科	Development and validation of risk models for mortality and morbidity in 12 major pediatric surgical procedures: A study from the National Clinical Database-Pediatric of Japan.	Journal of pediatric surgery・202004. 2020 Oct;55(10):2064-2070	Original Article
178	Takehara M, Kumagai M, Nishizawa J.	心臓血管外科	[Mitral Valve Plasty in a Patient with Multiple Metal Allergy;Report of a Case].	Kyobu geka. The Japanese journal of thoracic surgery・202010. 2020 Oct;73(11):947-949	Original Article
179	Nagasawa A, Masumoto H, Yanagi S et al.	心臓血管外科	Basic fibroblast growth factor attenuates left-ventricular remodeling following surgical ventricular restoration in a rat ischemic cardiomyopathy model.	General thoracic and cardiovascular surgery・202004. 2020 Apr; 68(4):311-318	Original Article
180	Murata K, Ikegawa M, Minatoya K et al.	心臓血管外科	Strategies for immune regulation in iPS cell-based cardiac regenerative medicine	Inflammation and Regeneration・202012. 2020 Sep ;40:36	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
181	Abulaiti M, Yalikun Y, Murata K et al.	心臓血管外科	Establishment of a heart-on-a-chip microdevice based on human iPS cells for the evaluation of human heart tissue function	Scientific Reports・ 202012. 2020 Nov ; 10(1):19201	Original Article
182	Nishio H, Minatoya K, Masumoto H.	心臓血管外科	A Rabbit Venous Interposition Model Mimicking Revascularization Surgery using Vein Grafts to Assess Intimal Hyperplasia under Arterial Blood Pressure	Journal of Visualized Experiments・202005. 2020 May ;-159	Original Article
183	Osada H, Ho WJ, Yamashita H et al.	心臓血管外科	Novel device prototyping for endoscopic cell sheet transplantation using a three-dimensional printed simulator.	Regenerative therapy・ 202012. 2020 Nov ; 15:258-264	Original Article
184	Takahagi A, Sato M, Chen- Yoshikawa TF et al.	呼吸器外科	LPS-induced Airway-centered Inflammation Leading to BOS-like Airway Remodeling Distinct From RAS-like Fibrosis in Rat Lung Transplantation.	Transplantation・202006. 2020 Jun;104(6):1150- 1158	Original Article
185	Okabe R, Chen- Yoshikawa TF, Yoshizawa A et al.	呼吸器外科	Orthotopic foetal lung tissue direct injection into lung showed a preventive effect against paraquat-induced acute lung injury in mice.	European journal of cardio-thoracic surgery : official journal of the European Association for Cardio-thoracic Surgery・ 202004. 2020 Sep ; 58(3):638-645	Original Article
186	Oshima Y, Sato S, Chen- Yoshikawa TF et al.	呼吸器外科	Quantity and quality of antigavity muscles in patients undergoing living-donor lobar lung transplantation: 1-year longitudinal analysis using chest computed tomography images.	ERJ open research・ 202004. 2020 Jul ; 6(2):00205-2019	Original Article
187	Kayawake H, Chen- Yoshikawa TF, Saito M et al.	呼吸器外科	Protective Effects of a Hydrogen-Rich Preservation Solution in a Canine Lung Transplantation Model.	The Annals of thoracic surgery・202101. 2021 Jan;111(1):246-252	Original Article
188	Saito M, Chen- Yoshikawa TF, Takahashi M et al.	呼吸器外科	Protective effects of a hydrogen-rich solution during cold ischemia in rat lung transplantation.	The Journal of thoracic and cardiovascular surgery・202005. 2020 May;159(5):2110-2118	Original Article
189	Isowa M, Tanaka S, Nakanobo R et al.	呼吸器外科	Refractory pneumothorax and hemothorax associated with metastatic scalp angiosarcoma.	Surgical case reports・ 202010. 2020 Oct ; 6(1):272	Original Article
190	Tanaka S, Gauthier JM, Terada Y et al.	呼吸器外科	Bacterial products in donor airways prevent the induction of lung transplant tolerance	American Journal of Transplantation・202101. 2021 Jan;21(1):353-361	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
191	Ueda Y, Sato T, Nakamura R et al.	呼吸器外科	Evaluation of regenerated tracheal cilia function on a collagen-conjugated scaffold in a canine model.	Interactive cardiovascular and thoracic surgery・202011. 2020 Nov ; 31(5):644-649	Original Article
192	Sato T, Iwasaki A, Yutaka Y et al.	呼吸器外科	Is left-side DaVinci™ procedure challenging? Initial experiences of a single institute.	General thoracic and cardiovascular surgery・202011. 2020 Nov; 68(11):1285-1289	Original Article
193	Murakami K, Yutaka Y, Nakajima N et al.	呼吸器外科	Ciliated muconodular papillary tumor with a growing cavity shadow that mimicked colorectal metastasis to the lung: a case report.	Surgical case reports・202009. 2020 Sep ; 6(1):231	Original Article
194	Mineura K, Hamaji M, Yoshizawa A et al.	呼吸器外科	Diagnostic yield of endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration to assess tumor-programmed cell death ligand-1 expression in mediastinal lymph nodes metastasized from non-small cell lung cancer.	Surgery today・202009. 2020 Sep;50(9):1049-1055	Original Article
195	Tokuno J, Oga T, Chen-Yoshikawa TF et al.	呼吸器外科	Sleep quality and its association with health-related quality of life of patients on lung transplantation waitlist in Japan.	Sleep & breathing = Schlaf & Atmung・202005. 2021 Mar;25(1):219-225	Original Article
196	Muranishi Y, Sato T, Ueda Y et al.	呼吸器外科	A novel suction-based lung-stabilizing device in single-port video-assisted thoracoscopic surgical procedures.	General thoracic and cardiovascular surgery・202005. 2020 May; 68(5):503-507	Original Article
197	Yamanashi K, Menju T, Hamaji M et al.	呼吸器外科	Prognostic factors related to postoperative survival in the newly classified clinical T4 lung cancer.	European journal of cardio-thoracic surgery : official journal of the European Association for Cardio-thoracic Surgery・202004. 2020 Apr ; 57(4):754-761	Original Article
198	Takahashi K, Menju T, Nishikawa S et al.	呼吸器外科	Tranilast Inhibits TGF-beta 1-induced Epithelial-mesenchymal Transition and Invasion/Metastasis via the Suppression of Smad4 in Human Lung Cancer Cell Lines.	Anticancer research・202006. 2020 Jun; 40(6):3287-3296	Original Article
199	Kanamori M, Takami H, Yamaguchi S et al.	脳神経外科	So-called bifocal tumors with diabetes insipidus and negative tumor markers: are they all germinoma?	Neuro-oncology・202102. 2021 Feb ;23(2):295-303	Original Article
200	Narita Y, Nagane M, Mishima K et al.	脳神経外科	Phase I/II study of tirabrutinib, a second-generation Bruton's tyrosine kinase inhibitor, in relapsed/refractory primary central nervous system lymphoma.	Neuro-oncology・202101. 2021 Jan ;23(1):122-133	Original Article

小計 10



番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
201	Tanji M, Kataoka H, Kikuchi M et al.	脳神経外科	Impact of Intraoperative 3-Tesla MRI on Endonasal Endoscopic Pituitary Adenoma Resection and a Proposed New Scoring System for Predicting the Utility of Intraoperative MRI.	Neurologia medico- chirurgica・202011. 2020 Nov ;60(11):553-562	Original Article
202	Natsume A, Aoki K, Ohka F et al.	脳神経外科	Genetic analysis in patients with newly diagnosed glioblastomas treated with interferon-beta plus temozolomide in comparison with temozolomide alone.	Journal of neuro- oncology・202005. 2020 May;148(1):17-27	Original Article
203	Hiratsuka T, Arakawa Y, Yajima Y et al.	脳神経外科	Hierarchical Cluster and Region of Interest Analyses Based on Mass Spectrometry Imaging of Human Brain Tumours.	Scientific reports・ 202004. 2020 Apr ; 10(1):5757	Original Article
204	Shiraki A, Goto W, Fukagawa H et al.	脳神経外科	Effects of low-dose remifentanyl infusion on analgesic or antiemetic requirement during brain function mapping: A retrospective cohort study.	Acta anaesthesiologica Scandinavica・202007. 2020 Jul;64(6):735-741	Original Article
205	Tsutsui T, Yamamoto Y, Yoshida K et al.	脳神経外科	A Rare Case of Schwannoma Arising from the Dura Mater of the Petrosal Surface in the Posterior Cranial Fossa.	World neurosurgery・ 202006. 2020 Sep; 141:188-191	Original Article
206	Shibata S, Yamamoto Y, Kunieda T et al.	脳神経外科	Intraoperative Electrophysiologic Mapping of Medial Frontal Motor Areas and Functional Outcomes.	World neurosurgery・ 202006. 2020 Jun; 138:e389-e404	Original Article
207	Terada Y, Yamamoto M, Motoie R et al.	脳神経外科	Hydrocephalus Resulting from Late-Onset Aqueductal Membranous Occlusion: A Case Report and Review of the Literature.	World neurosurgery・ 202005. 2020 May; 137:345-349	Original Article
208	Miyakoshi A, Funaki T, Fushimi Y et al.	脳神経外科	Cortical Distribution of Fragile Periventricular Anastomatic Collateral Vessels in Moyamoya Disease: An Exploratory Cross-Sectional Study of Japanese Patients with Moyamoya Disease.	AJNR. American journal of neuroradiology・ 202012. 2020 Dec; 41(12):2243-2249	Original Article
209	Hosoda Y, Miyake M, Yamashiro K et al.	眼科	Deep phenotype unsupervised machine learning revealed the significance of pachychoroid features in etiology and visual prognosis of age-related macular degeneration.	Scientific reports・ 202010. 2020 Oct ; 10(1):18423	Original Article
210	Tagawa M, Ooto S, Yamashiro K et al.	眼科	Characteristics of pachychoroid neovascularopathy.	Scientific reports・ 202010. 2020 Oct ; 10(1):16248	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
211	Morisawa S, Hamasaki I, Shibata K et al.	眼科	Risk factors for excessive postoperative exo-drift after unilateral lateral rectus muscle recession and medial rectus muscle resection for intermittent exotropia.	BMC ophthalmology・ 202006. 2020 Jun ; 20(1):216	Original Article
212	Shibata K, Hamasaki I, Toshima S et al.	眼科	Formulas to Estimate Appropriate Surgical Amounts of Unilateral Recession-Resection in Intermittent Exotropia with Distance-Near Disparity.	Acta medica Okayama・ 202006. 2020 Jun ; 74(3):229-236	Original Article
213	Sawai Y, Miyata M, Uji A et al.	眼科	Usefulness of Denoising Process to Depict Myopic Choroidal Neovascularisation Using a Single Optical Coherence Tomography Angiography Image.	Scientific reports・ 202004. 2020 Apr ; 10(1):6172	Original Article
214	Yamashiro K, Hosoda Y, Miyake M et al.	眼科	Characteristics of Pachychoroid Diseases and Age-Related Macular Degeneration: Multimodal Imaging and Genetic Backgrounds.	Journal of clinical medicine・202006. 2020 Jun ;9(7):2034	Original Article
215	Rim TH, Kawasaki R, Tham YC et al.	眼科	Prevalence and Pattern of Geographic Atrophy in Asia: the Asian Eye Epidemiology Consortium.	Ophthalmology・202004. 2020 Oct ; 127(10):1371-1381	Original Article
216	Nagasato D, Muraoka Y, Osaka R et al.	眼科	Factors associated with extremely poor visual outcomes in patients with central retinal vein occlusion	Scientific Reports・ 202011. 2020 Nov ; 10(1):19667	Original Article
217	Nakahara M, Oishi A, Miyata M et al.	眼科	Clinical Characteristics, Differential Diagnosis and Genetic Analysis of Concentric Retinitis Pigmentosa.	Life (Basel, Switzerland)・ 202103. 2021 Mar ; 11(3):260	Original Article
218	Suda K, Akagi T, Ikeda HO et al.	眼科	Atopic dermatitis as a risk factor for severe visual field loss in youth-a retrospective cohort study of glaucoma under steroid treatment.	Graefe's archive for clinical and experimental ophthalmology = Albrecht von Graefes Archiv fur klinische und experimentelle Ophthalmologie・202101. 2021 Jan ;259(1):129-136	Original Article
219	Okamoto Y, Akagi T, Suda K et al.	眼科	Longitudinal changes in superficial microvasculature in glaucomatous retinal nerve fiber layer defects after disc hemorrhage.	Scientific reports・ 202012. 2020 Dec ; 10(1):22058	Original Article
220	Akagi T, Okamoto Y, Kameda T et al.	眼科	Short-Term Effects of Different Types of Anti-Glaucoma Eyedrop on the Sclero-Conjunctival Vasculature Assessed Using Anterior Segment OCTA in Normal Human Eyes: A Pilot Study.	Journal of clinical medicine・202012. 2020 Dec ;9(12):4016	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
221	Hasegawa T, Ikeda HO, Iwai S et al.	眼科	Hop flower extracts mitigate retinal ganglion cell degeneration in a glaucoma mouse model.	Scientific reports・ 202012. 2020 Dec ; 10(1):21653	Original Article
222	Numa S, Oishi A, Higasa K et al.	眼科	EYS is a major gene involved in retinitis pigmentosa in Japan: genetic landscapes revealed by stepwise genetic screening.	Scientific reports・ 202011. 2020 Nov ; 10(1):20770	Original Article
223	Kadomoto S, Uji A, Muraoka Y et al.	眼科	Ultra-widefield confocal imaging of multiple evanescent white dot syndrome	American Journal of Ophthalmology Case Reports・202008. 2020 Aug ;19:100861	Original Article
224	Oishi A, Noda K, Birtel J et al.	眼科	Effect of smoking on macular function and retinal structure in retinitis pigmentosa	Brain Communications・ 202007. 2020 Jul ; 2(2):fcaa117	Original Article
225	Morino MU, Akagi T, Miyata M et al.	眼科	Removal of a Baerveldt Glaucoma Implant and Fibrous Adhesion for Refractory Mechanical Strabismus	Case Reports in Ophthalmology・202006. 2020 Jun ;11(2):249- 255	Original Article
226	Kikuchi M, Yamashita D, Hara S et al.	耳鼻咽喉科・頭 頸部外科	Clinical significance of tumor-associated immune cells in patients with oral squamous cell carcinoma.	Head & neck・202010. 2021 Feb;43(2):534- 543	Original Article
227	Mizuno K, Takeuchi M, Kikuchi M et al.	耳鼻咽喉科・頭 頸部外科	Outcomes in patients diagnosed with tongue cancer before and after the age of 45 years.	Oral oncology・202009. 2020 Nov;110:105010	Original Article
228	Tanaka C, Kikuchi M, Matsunaga M et al.	耳鼻咽喉科・頭 頸部外科	Endoscopic Endonasal Surgery of a Large Vidian Nerve Schwannoma With Preparation for Avoiding Major Vascular Injury	Cureus・202103. 2021 Mar ;13(3):e14230	Original Article
229	Shinohara S, Harada H, Kikuchi M et al.	耳鼻咽喉科・頭 頸部外科	Neck Dissection for Cervical Lymph Node Metastases from Remote Primary Malignancies	Medicina・202007. 2020 Jul ;56(7):343	Original Article
230	Fujiwara T, Yoshizawa A, Mizuta M et al.	耳鼻咽喉科・頭 頸部外科	Is surgical resection without radioactive iodine treatment a safe alternative treatment for T1-2N1bM0 papillary thyroid carcinoma?	Auris, nasus, larynx・ 202007. 2021 Feb; 48(1):148-153	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
231	Kuwata F, Kikuchi M, Ishikawa M et al.	耳鼻咽喉科・頭 頸部外科	Long-term olfactory function outcomes after pituitary surgery by endoscopic endonasal transsphenoidal approach	Auris Nasus Larynx・ 202004. 2020 Apr; 47(2):227-232	Original Article
232	Miyoshi T, Zhang Q, Miyake T et al.	耳鼻咽喉科・頭 頸部外科	Semi-automated single-molecule microscopy screening of fast- dissociating specific antibodies directly from hybridoma cultures	Cell Reports・202102. 2021 Feb ;34(5):108708	Original Article
233	Yamamoto R, Ohnishi H, Omori K et al.	耳鼻咽喉科・頭 頸部外科	In silico analysis of inner ear development using public whole embryonic body single-cell RNA-sequencing data	Developmental Biology・ 202101. 2021 Jan ; 469:160-171	Original Article
234	Saito M, Nishitani K, Ikeda HO et al.	整形外科	Author Correction: A VCP modulator, KUS121, as a promising therapeutic agent for post-traumatic osteoarthritis.	Scientific reports・ 202103. 2021 Mar ; 11(1):7442	Original Article
235	Kuriyama S, Watanabe M, Sekiguchi K et al.	整形外科	Differences in impact on adjacent compartments in medial unicompartmental knee arthroplasty versus high tibial osteotomy with identical valgus alignment.	The Knee・202103. 2021 Mar;29:241-250	Original Article
236	Kuriyama S, Watanabe M, Nakamura S et al.	整形外科	Large medial proximal tibial angles cause excessively medial tibiofemoral contact forces and abnormal knee kinematics following open-wedge high tibial osteotomy.	Clinical biomechanics (Bristol, Avon)・202012. 2020 Dec;80:105190	Original Article
237	Watanabe M, Kuriyama S, Nakamura S et al.	整形外科	Abnormal knee kinematics caused by mechanical alignment in symmetric bicruciate-retaining total knee arthroplasty are alleviated by kinematic alignment.	The Knee・202010. 2020 Oct;27(5):1385-1395	Original Article
238	Umatani N, Arai R, Kuriyama S et al.	整形外科	Anatomic limitations of biceps tenodesis using an interference screw for Asian people: a cadaveric study.	JSES international・ 202009. 2020 May ; 4(3):422-426	Original Article
239	Sekiguchi K, Nakamura S, Nakamura K et al.	整形外科	Varus alignment after total knee arthroplasty results in greater axial rotation during deep knee bend activity.	Clinical biomechanics (Bristol, Avon)・202007. 2020 Jul;77:105051	Original Article
240	Nishitani K, Kuriyama S, Nakamura S et al.	整形外科	Excessive flexed position of the femoral component was associated with poor new Knee Society Score after total knee arthroplasty with the Bi-Surface knee prosthesis.	The bone & joint journal・ 202006. 2020 Jun;102- B(6_Supple_A):36-42	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
241	Kuriyama S, Watanabe M, Nakamura S et al.	整形外科	Classical target coronal alignment in high tibial osteotomy demonstrates validity in terms of knee kinematics and kinetics in a computer model.	Knee surgery, sports traumatology, arthroscopy : official journal of the ESSKA・202005. 2020 May; 28(5):1568-1578	Original Article
242	Kawata T, Goto K, Imamura M et al.	整形外科	Titania-Containing Bone Cement Shows Excellent Osteoconductivity in a Synovial Fluid Environment and Bone-Bonding Strength in Osteoporosis.	Materials (Basel, Switzerland)・202102. 2021 Feb ;14(5):1110	Original Article
243	Kuroda Y, Nankaku M, Okuzu Y et al.	整形外科	Percutaneous autologous impaction bone graft for advanced femoral head osteonecrosis: a retrospective observational study of unsatisfactory short-term outcomes.	Journal of orthopaedic surgery and research・202102. 2021 Feb ; 16(1):141	Original Article
244	Kawai T, Goto K, Kuroda Y et al.	整形外科	Total Hip Arthroplasty Combined With Subtrochanteric Transverse Shortening Osteotomy: Factors Associated With Delayed Union at the Osteotomy Site.	Journal of the American Academy of Orthopaedic Surgeons. Global research & reviews・202008. 2020 Aug;4(8):e20.56	Original Article
245	Kawai T, Goto K, Kuroda Y et al.	整形外科	Lower Activity and Function Scores Are Associated with a Higher Risk of Preoperative Deep Venous Thrombosis in Patients Undergoing Total Hip Arthroplasty.	Journal of clinical medicine・202004. 2020 Apr ;9(5):1257	Original Article
246	Takaoka Y, Goto K, Kuroda Y et al.	整形外科	The Long-Term Results of Total Hip Arthroplasty With a Cemented beta-Titanium Stem.	The Journal of arthroplasty・202004. 2020 Aug;35(8):2167-2172	Original Article
247	Katsube M, Yamada S, Utsunomiya N et al.	形成外科	A 3D analysis of growth trajectory and integration during early human prenatal facial growth.	Scientific reports・202103. 2021 Mar ; 11(1):6867	Original Article
248	Hihara M, Kakudo N, Morimoto N et al.	形成外科	Improved viability of murine skin flaps using a gelatin hydrogel sheet impregnated with bFGF.	Journal of artificial organs : the official journal of the Japanese Society for Artificial Organs・202007. 2020 Dec;23(4):348-357	Original Article
249	Chong PF, Yoshida T, Yuasa S et al.	小児科	Acute Flaccid Myelitis With Neuroradiological Finding of Brachial Plexus Swelling	Pediatric Neurology・202004. 2020 Aug; 109:85-88	Original Article
250	Daifu T, Mikami M, Hiramatsu H et al.	小児科	Suppression of malignant rhabdoid tumors through Chb-M <sup>+</sup> -mediated RUNX1 inhibition.	Pediatric blood & cancer・202102. 2021 Feb; 68(2):e28789	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
251	Hamabata T, Umeda K, Kouzuki K et al.	小児科	Author Correction: Pluripotent stem cell model of Shwachman–Diamond syndrome reveals apoptotic predisposition of hemoangiogenic progenitors.	Scientific reports・ 202101. 2021 Jan ; 11(1):2107	Original Article
252	Yabe M, Morio T, Tabuchi K et al.	小児科	Long-term outcome in patients with Fanconi anemia who received hematopoietic stem cell transplantation: a retrospective nationwide analysis.	International journal of hematology・202101. 2021 Jan;113(1):134–144	Original Article
253	Kimura S, Sekiguchi M, Watanabe K et al.	小児科	Association of high-risk neuroblastoma classification based on expression profiles with differentiation and metabolism.	PloS one・202101. 2021 Jan ;16(1):e0245526	Original Article
254	Laukkanen S, Oksa L, Nikkilä A et al.	小児科	SIX6 is a TAL1-regulated transcription factor in T-ALL and associated with inferior outcome.	Leukemia & lymphoma・ 202012. 2020 Dec ; 61(13):3089–3100	Original Article
255	Yamamoto A, Iwanaga K, Matsukura T et al.	小児科	Response of preterm infants with transient hypothyroxinaemia of prematurity to the thyrotropin-releasing hormone stimulation test is characterized by a delayed decrease in thyroid-stimulating hormone after the peak.	Clinical endocrinology・ 202011. 2020 Nov ; 93(5):605–612	Original Article
256	Soejima T, Sato I, Takita J et al.	小児科	Impacts of physical late effects on presenteeism in childhood cancer survivors.	Pediatrics international : official journal of the Japan Pediatric Society・ 202011. 2020 Nov ; 62(11):1241–1249	Original Article
257	Iramina H, Nakamura M, Mizowaki T.	放射線治療科	Direct measurement and correction of both megavoltage and kilovoltage scattered x-rays for orthogonal kilovoltage imaging subsystems with dual flat panel detectors.	Journal of applied clinical medical physics・202007. 2020 Sep;21(9):143– 154	Original Article
258	Hirashima H, Ono T, Nakamura M et al.	放射線治療科	Improvement of prediction and classification performance for gamma passing rate by using plan complexity and dosimetrics features.	Radiotherapy and oncology : journal of the European Society for Therapeutic Radiology and Oncology・202007. 2020 Dec;153:250–257	Original Article
259	Kawamura M, Yoshimura M, Nakamura M et al.	放射線治療科	Radiotherapy planning techniques to reduce lung irradiation in head and neck cancer patients with mediastinal involvement.	Radiological physics and technology・202006. 2020 Jun;13(2):128–135	Original Article
260	Nishimura Y, Ishikura S, Shibata T et al.	放射線治療科	A phase II study of adaptive two-step intensity-modulated radiation therapy (IMRT) with chemotherapy for loco-regionally advanced nasopharyngeal cancer (JCOG1015)	International Journal of Clinical Oncology・ 202007. 2020 Jul ; 25(7):1250–1259	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
261	Yamanashi K, Hamaji M, Matsuo Y et al.	放射線治療科	Updated long-term outcomes of salvage surgery after stereotactic body radiotherapy for early-stage non-small-cell lung cancer.	Interactive cardiovascular and thoracic surgery・202012. 2020 Dec ; 31(6):892-894	Original Article
262	Hiraoka M, Mizowaki T, Matsuo Y et al.	放射線治療科	The gimbaled-head radiotherapy system: Rise and downfall of a dedicated system for dynamic tumor tracking with real-time monitoring and dynamic WaveArc.	Radiotherapy and oncology : journal of the European Society for Therapeutic Radiology and Oncology・202012. 2020 Dec;153:311-318	Original Article
263	Iramina H, Kitamura A, Nakamura M et al.	放射線治療科	Image quality evaluation of intra-irradiation cone-beam computed tomography acquired during one- and two-arc prostate volumetric-modulated arc therapy delivery: A phantom study.	Journal of applied clinical medical physics・202012. 2020 Dec;21(12):231-239	Original Article
264	Okabayashi S, Matsuo Y, Kishi N et al.	放射線治療科	Dynamic tumor-tracking stereotactic body radiation therapy for a solitary tumor in a transplanted organ: two case reports.	International cancer conference journal・202010. 2020 Jun ; 9(4):221-226	Original Article
265	Iizuka Y, Katagiri T, Ogura K et al.	放射線治療科	Comparison of thyroid hormone withdrawal and recombinant human thyroid-stimulating hormone administration for adjuvant therapy in patients with intermediate- to high-risk differentiated thyroid cancer.	Annals of nuclear medicine・202010. 2020 Oct;34(10):736-741	Original Article
266	Murakami Y, Noda SE, Hatayama Y et al.	放射線治療科	What motivated medical students and residents to become radiation oncologists in Japan?-Questionnaire report by the radiotherapy promotion committee of JASTRO.	Journal of radiation research・202009. 2020 Sep ;61(5):727-732	Original Article
267	Matsumoto H, Shiraishi K, Azuma H et al.	放射線治療科	Clinical Practice Guidelines for Bladder Cancer 2019 update by the Japanese Urological Association: Summary of the revision.	International journal of urology : official journal of the Japanese Urological Association・202009. 2020 Sep; 27(9):702-709	Original Article
268	Ashida R, Nakamura M, Yoshimura M et al.	放射線治療科	Impact of interfractional anatomical variation and setup correction methods on interfractional dose variation in IMPT and VMAT plans for pancreatic cancer patients: A planning study.	Journal of applied clinical medical physics・202007. 2020 Jul;21(7):49-59	Original Article
269	Matsumoto H, Shiraishi K, Azuma H et al.	放射線治療科	Clinical Practice Guidelines for Bladder Cancer 2019 edition by the Japanese Urological Association: Revision working position paper.	International journal of urology : official journal of the Japanese Urological Association・202005. 2020 May; 27(5):362-368	Original Article
270	Sato GE, Aizawa R, Nakamura K et al.	放射線治療科	Long-term clinical outcomes of salvage pelvic radiation therapy for oligo-recurrent pelvic lymph nodes after definitive external-beam radiation therapy for non-metastatic prostate cancer.	Journal of radiation research・202007. 2020 Jul ;61(4):622-628	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
271	Nakamura M, Nakao M, Mukumoto N et al.	放射線治療科	Statistical shape model-based planning organ-at-risk volume: application to pancreatic cancer patients.	Physics in medicine and biology・202101. 2021 Jan ;66(1):014001	Original Article
272	Iramina H, Nakamura M, Miyabe Y et al.	放射線治療科	Quantification and correction of the scattered X-rays from a megavoltage photon beam to a linac-mounted kilovoltage imaging subsystem.	BJR open・202012. 2020 Dec ;2(1):20190048	Original Article
273	Hernandez V, Hansen CR, Widesott L et al.	放射線治療科	What is plan quality in radiotherapy? The importance of evaluating dose metrics, complexity, and robustness of treatment plans.	Radiotherapy and oncology : journal of the European Society for Therapeutic Radiology and Oncology・202012. 2020 Dec;153:26-33	Original Article
274	Yajima R, Kido A, Kurata Y et al.	放射線診断科	Diffusion-weighted imaging of uterine adenomyosis: Correlation with clinical backgrounds and comparison with malignant uterine tumors.	The journal of obstetrics and gynaecology research・202103. 2021 Mar;47(3):949-960	Original Article
275	Onishi Y, Yoshioka T, Arai Y et al.	放射線診断科	Randomized Controlled Study to Compare Uncovered Stent Versus Covered Stent as Percutaneous Endoprosthesis for Malignant Biliary Obstruction (JIVROSG-0207).	American journal of clinical oncology・202011. 2020 Nov;43(11):784-787	Original Article
276	Onishi Y, Sone M, Arai Y et al.	放射線診断科	Transvaginal Stent as an Effective Drainage Route for Refractory Infection of a Pelvic Tumor.	Journal of vascular and interventional radiology : JVIR・202011. 2020 Nov;31(11):1886-1887	Original Article
277	Kubo Y, Ito K, Sone M et al.	放射線診断科	Diagnostic Value of Model-Based Iterative Reconstruction Combined with a Metal Artifact Reduction Algorithm during CT of the Oral Cavity.	AJNR. American journal of neuroradiology・202011. 2020 Nov;41(11):2132-2138	Original Article
278	Onishi Y, Kusumoto M, Goto Y et al.	放射線診断科	Epithelioid hemangioendothelioma of the lung: CT findings and clinical course of 35 cases.	Japanese journal of clinical oncology・202007. 2020 Sep ;50(10):1195-1200	Original Article
279	Umakoshi N, Arai Y, Inaba Y et al.	放射線診断科	Transhepatic Placement of Metallic Biliary Stent for Internal Drainage of Persistent Liver Abscesses.	Journal of vascular and interventional radiology : JVIR・202006. 2020 Jun;31(6):1000-1004	Original Article
280	Onishi Y, Kusumoto M, Motoi N et al.	放射線診断科	Ciliated Muconodular Papillary Tumor of the Lung: Thin-Section CT Findings of 16 Cases.	AJR. American journal of roentgenology・202004. 2020 Apr;214(4):761-765	Original Article

小計 10



番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
281	Himoto Y, Sakata A, Kirita M et al.	放射線診断科	Diagnostic performance of chest CT to differentiate COVID-19 pneumonia in non-high-epidemic area in Japan.	Japanese journal of radiology・202005. 2020 May;38(5):400-406	Original Article
282	Fushimi Y, Nakajima S.	放射線診断科	Editorial for “Quantitative Susceptibility Mapping for Characterization of Intraplaque Hemorrhage and Calcification in Carotid Atherosclerotic Disease”	Journal of Magnetic Resonance Imaging・ 202008. 2020 Aug; 52(2):542-543	Original Article
283	Katsuo K, Kaku Y, Yamamura K et al.	皮膚科	Atypical blue nevus of the labium minus confirmed by whole-exome sequencing.	Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology : JEADV・202007. 2021 Jan;35(1):e59-e61	Original Article
284	Katsuo K, Kaku Y, Tahara J et al.	皮膚科	Venous leg ulcers associated with abdominal aortic aneurysm.	International journal of dermatology・202007. 2020 Jul;59(7):e252- e253	Original Article
285	Dainichi T, Nakajima S, Iwata M et al.	皮膚科	Net Effects of NETs: New Concepts.	The Journal of investigative dermatology・202005. 2020 May;140(5):939- 941	Original Article
286	Nakajima S, Kabata H, Kabashima K et al.	皮膚科	Anti-TSLP antibodies: Targeting a master regulator of type 2 immune responses.	Allergology international : official journal of the Japanese Society of Allergology・202004. 2020 Apr;69(2):197-203	Original Article
287	Arakawa A, Kambe N, Nishikomori R et al.	皮膚科	NOD2 Mutation-Associated Case with Blau Syndrome Triggered by BCG Vaccination.	Children (Basel, Switzerland)・202102. 2021 Feb ;8(2):117	Original Article
288	Takada S, Saito MK, Kambe N.	皮膚科	Blau Syndrome: NOD2-related systemic autoinflammatory granulomatosis.	Giornale italiano di dermatologia e venereologia : organo ufficiale, Societa italiana di dermatologia e sifilografia・202010. 2020 Oct;155(5):537-541	Original Article
289	Matsuda T, Kambe N, Ueki Y et al.	皮膚科	Clinical characteristics and treatment of 50 cases of Blau syndrome in Japan confirmed by genetic analysis of the NOD2 mutation.	Annals of the rheumatic diseases・202007. 2020 Nov;79(11):1492-1499	Original Article
290	Takezawa K, Kambe N, Ueki Y et al.	皮膚科	Mastocytosis with sudden recurrence of rash after a 13-year interval.	The Journal of dermatology・202004. 2020 Jul;47(7):e271- e272	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
291	Fujii K, Yoshihara Y, Matsumoto Y et al.	精神科神経科	Cognition and interpersonal coordination of patients with schizophrenia who have sports habits	PLOS ONE・202011. 2020 Nov ; 15(11):e0241863	Original Article
292	Yamamoto Y, Takahata K, Kubota M et al.	精神科神経科	Differential associations of dopamine synthesis capacity with the dopamine transporter and D2 receptor availability as assessed by PET in the living human brain	NeuroImage・202011. 2021 Feb ;226:117543	Original Article
293	Kubota M, Moriguchi S, Takahata K et al.	精神科神経科	Treatment effects on neurometabolite levels in schizophrenia: A systematic review and meta-analysis of proton magnetic resonance spectroscopy studies	Schizophrenia Research・ 202006. 2020 Aug; 222:122-132	Original Article
294	Tagai K, Ono M, Kubota M et al.	精神科神経科	High-Contrast In Vivo Imaging of Tau Pathologies in Alzheimer's and Non-Alzheimer's Disease Tauopathies	Neuron・202010. 2021 Jan ;109(1):42-58.e8	Original Article
295	Yamasaki S, Aso T, Miyata J et al.	精神科神経科	Early and late effects of electroconvulsive therapy associated with different temporal lobe structures.	Translational psychiatry・ 202010. 2020 Oct ; 10(1):344	Original Article
296	Ichihashi K, Hori H, Hasegawa N et al.	精神科神経科	Prescription patterns in patients with schizophrenia in Japan: First-quality indicator data from the survey of "Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in psychiatric treatment (EGUIDE)" project	Neuropsychopharmacology Reports・202006. 2020 Sep;40(3):281-286	Original Article
297	Hamasaki Y, Nakayama T, Hikida T et al.	精神科神経科	Combined pattern of childhood psycho-behavioral characteristics in patients with schizophrenia: a retrospective study in Japan.	BMC psychiatry・202101. 2021 Jan ;21(1):57	Original Article
298	Kobayashi K, Oishi N, Yoshimura S et al.	精神科神経科	Relationship between media multitasking and functional connectivity in the dorsal attention network.	Scientific reports・ 202010. 2020 Oct ; 10(1):17992	Original Article
299	Miyagi T, Oishi N, Kobayashi K et al.	精神科神経科	Psychological resilience is correlated with dynamic changes in functional connectivity within the default mode network during a cognitive task.	Scientific reports・ 202010. 2020 Oct ; 10(1):17760	Original Article
300	Kato T, Yoshihara Y, Watanabe D et al.	精神科神経科	Neurocognitive impairment and gray matter volume reduction in HIV-infected patients.	Journal of neurovirology・ 202008. 2020 Aug; 26(4):590-601	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
301	Iijima Y, Okumura Y, Yamasaki S et al.	精神科神経科	Assessing the hierarchy of personal values among adolescents: A comparison of rating scale and paired comparison methods.	Journal of adolescence・ 202004. 2020 Apr; 80:53-59	Original Article
302	Otsuka S, Murai T.	精神科神経科	Cognitive underpinnings of multidimensional Japanese literacy and its impact on higher-level language skills.	Scientific reports・ 202101. 2021 Jan ; 11(1):2190	Original Article
303	Kawakami S, Uono S, Otsuka S et al.	精神科神経科	Atypical Multisensory Integration and the Temporal Binding Window in Autism Spectrum Disorder.	Journal of autism and developmental disorders・ 202011. 2020 Nov; 50(11):3944-3956	Original Article
304	Kawakami S, Uono S, Otsuka S et al.	精神科神経科	Everything has Its Time: Narrow Temporal Windows are Associated with High Levels of Autistic Traits Via Weaknesses in Multisensory Integration.	Journal of autism and developmental disorders・ 202005. 2020 May; 50(5):1561-1571	Original Article
305	Kimachi M, Onishi A, Tajika A et al.	精神科神経科	Systematic differences in effect estimates between observational studies and randomized control trials in meta-analyses in nephrology.	Scientific reports・ 202103. 2021 Mar ; 11(1):6088	Original Article
306	Kato M, Hori H, Inoue T et al.	精神科神経科	Discontinuation of antidepressants after remission with antidepressant medication in major depressive disorder: a systematic review and meta-analysis.	Molecular psychiatry・ 202101. 2021 Jan; 26(1):118-133	Original Article
307	Dores AR, Carvalho IP, Burkauskas J et al.	精神科神経科	Exercise and Use of Enhancement Drugs at the Time of the COVID-19 Pandemic: A Multicultural Study on Coping Strategies During Self-Isolation and Related Risks.	Frontiers in psychiatry・ 202103. 2021 Mar ; 12:648501	Original Article
308	Sunadome H, Sato S, Matsumoto H et al.	リハビリテーション科	Similar distribution of peripheral blood eosinophil counts in European and East Asian populations from investigations of large-scale general population studies: the Nagahama Study.	The European respiratory journal・202101. 2021 Jan ;57(1):2004101	Original Article
309	Ando M, Ikeguchi R, Aoyama T et al.	リハビリテーション科	Long-Term Outcome of Sciatic Nerve Regeneration Using Bio3D Conduit Fabricated from Human Fibroblasts in a Rat Sciatic Nerve Model	Cell transplantation・ 202101. 2021 Jan-Dec; 30:9636897211021357	Original Article
310	Murao M, Nankaku M, Hamada R et al.	リハビリテーション科	Hip Abductor Strength and Lower Limb Load on Nonoperating Predict Functional Mobility in Women Patients with Total Hip Arthroplasty	American Journal of Physical Medicine and Rehabilitation・202101. 2021 Jan ;100(1):72-76	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
311	Mitsuzawa S, Zhao C, Ikeguchi R et al.	リハビリテーション科	Pro-angiogenic scaffold-free Bio three-dimensional conduit developed from human induced pluripotent stem cell-derived mesenchymal stem cells promotes peripheral nerve regeneration	Scientific Reports・202012. 2020 Jul ; 10(1):12034	Original Article
312	Nankaku M, Tanaka H, Ikeguchi R et al.	リハビリテーション科	Effects of walking distance over robot-assisted training on walking ability in chronic stroke patients	Journal of Clinical Neuroscience・202011. 2020 Nov;81:279-283	Original Article
313	Yamawaki R, Nankaku M, Kusano Y et al.	リハビリテーション科	Evaluation of Cognitive Function in Relation to Progression of Parkinson Disease	American Journal of Physical Medicine and Rehabilitation・202007. 2020 Jul;99(7):626-629	Original Article
314	Hamada R, Kondo T, Murao M et al.	リハビリテーション科	Effect of the severity of acute graft-versus-host disease on physical function after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	Supportive Care in Cancer・202007. 2020 Jul;28(7):3189-3196	Original Article
315	Ogawa K, Fujimoto M, Takai T et al.	病理診断科	Acquired agminated melanocytic nevus in the acral area is a potential mimicker of acral lentiginous melanoma: A three-case series report and published work review.	The Journal of dermatology・202007. 2020 Jul;47(7):770-773	Original Article
316	Yamashita Y, Hori Y, Kosako H et al.	病理診断科	Brentuximab vedotin for refractory anaplastic lymphoma kinase-negative anaplastic large cell lymphoma in leukemic phase with RUNX3 overexpression.	Hematology reports・202005. 2020 May ; 12(1):8368	Original Article
317	Donizy P, Wu CL, Mull J et al.	病理診断科	Up-Regulation of PARP1 Expression Significantly Correlated with Poor Survival in Mucosal Melanomas.	Cells・202005. 2020 May ;9(5):1135	Original Article
318	Katsuragawa H, Yamada Y, Ishida Y et al.	病理診断科	A case of Langerhans cell sarcoma on the scalp: Whole-exome sequencing reveals a role of ultraviolet in the pathogenesis	Pathology International・202008. 2020 Nov; 70(11):881-887	Original Article
319	Yamada Y, Weis CA, Thelen J et al.	臓器移植医療部	Thymoma Associated Myasthenia Gravis (TAMG): Differential Expression of Functional Pathways in Relation to MG Status in Different Thymoma Histotypes	Frontiers in Immunology・202004. 2020 Apr ; 0.9194444444444444	Original Article
320	Marx A, Belharazem D, Lee DH et al.	臓器移植医療部	Molecular pathology of thymomas: implications for diagnosis and therapy	Virchows Archiv・202103. 2021 Jan;478(1):101-110	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
321	Marx A, Yamada Y, Simon-Keller K et al.	臓器移植医療 部	Thymus and autoimmunity	Seminars in Immunopathology・ 202102. 2021 Feb; 43(1):45-64	Original Article
322	Kusakabe J, Hata K, Tamaki I et al.	臓器移植医療 部	Complement 5 Inhibition Ameliorates Hepatic Ischemia/reperfusion Injury in Mice, Dominantly via the C5a-mediated Cascade.	Transplantation・202010. 2020 Oct; 104(10):2065-2077	Original Article
323	Nakajima D, Kawashima Y, Shibata H et al.	総合周産期母 子医療センター	Simple and Sensitive Analysis for Dried Blood Spot Proteins by Sodium Carbonate Precipitation for Clinical Proteomics.	Journal of proteome research・202007. 2020 Jul ;19(7):2821-2827	Original Article
324	Tanaka K, Kato I, Tanaka M et al.	総合周産期母 子医療センター	Direct Delivery of piggyBac CD19 CAR T Cells Has Potent Anti- tumor Activity against ALL Cells in CNS in a Xenograft Mouse Model.	Molecular therapy oncolytics・202009. 2020 May ;18:37-46	Original Article
325	Okamoto A, Kondo E, Nakamura T et al.	総合周産期母 子医療センター	Phase 2 single-arm study on the efficacy and safety of niraparib in Japanese patients with heavily pretreated, homologous recombination-deficient ovarian cancer	Journal of Gynecologic Oncology・202012. 2021 Mar;32(2):e16	Original Article
326	Matsuoka H, Murakami R, Abiko K et al.	総合周産期母 子医療センター	UGT1A1 polymorphism has a prognostic effect in patients with stage IB or II uterine cervical cancer and one or no metastatic pelvic nodes receiving irinotecan chemotherapy: a retrospective study	BMC Cancer・202008. 2020 Aug ;20(1):729	Original Article
327	Kanahashi T, Matsumura Y, Yamamoto M et al.	検査部	Comparison of the Xpert Carba-R and NG-Test CARBA5 for the detection of carbapenemases in an IMP-type carbapenemase endemic region in Japan.	Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy・202103. 2021 Mar;27(3):503- 506	Original Article
328	Jo T, Nishikori M, Kogure Y et al.	検査部	LUBAC accelerates B-cell lymphomagenesis by conferring resistance to genotoxic stress on B cells	Blood・202008. 2020 Aug ;136(6):684-697	Original Article
329	Matsui H, Arai Y, Imoto H et al.	検査部	Risk factors and appropriate therapeutic strategies for thrombotic microangiopathy after allogeneic HSCT.	Blood advances・202007. 2020 Jul ;4(13):3169- 3179	Original Article
330	Akahoshi Y, Nishiwaki S, Arai Y et al.	検査部	Reduced-intensity conditioning is a reasonable alternative for Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia among elderly patients who have achieved negative minimal residual disease: a report from the Adult Acute Lymphoblastic Leukemia W	Bone marrow transplantation・202007. 2020 Jul;55(7):1317- 1325	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
331	Yanada M, Takami A, Yamasaki S et al.	検査部	Allogeneic hematopoietic cell transplantation for adults with acute myeloid leukemia conducted in Japan during the past quarter century.	Annals of hematology・202006. 2020 Jun; 99(6):1351-1360	Original Article
332	Minaga K, Watanabe T, Arai Y et al.	検査部	Activation of interferon regulatory factor 7 in plasmacytoid dendritic cells promotes experimental autoimmune pancreatitis.	Journal of gastroenterology・202005. 2020 May;55(5):565-576	Original Article
333	Uda S, Takeda C, Mizota T.	手術部	Effect of droperidol addition to fentanyl-based intravenous patient-controlled analgesia on postoperative nausea and vomiting: a single-center retrospective cohort study.	JA clinical reports・202011. 2020 Nov ; 6(1):90	Original Article
334	Takeda C, Takeuchi M, Mizota T et al.	手術部	The association between arterial pulse waveform analysis device and in-hospital mortality in high-risk non-cardiac surgeries.	Acta anaesthesiologica Scandinavica・202008. 2020 Aug;64(7):928-935	Original Article
335	Hamaji M, Koyasu S, Omasa M et al.	放射線部	Are volume-dependent parameters in positron emission tomography predictive of postoperative recurrence after resection in patients with thymic carcinoma?	Surgery today・202102. 2021 Feb;51(2):322-326	Original Article
336	Koyasu S, Otani T, Minamiguchi S et al.	放射線部	Hyperestrogenism on 18F-FDG PET/CT in a Patient With Estrogen-Producing Ovarian Clear Cell Carcinoma.	Clinical nuclear medicine・202007. 2020 Jul;45(7):e320-e322	Original Article
337	Kato A, Nakamoto Y, Ishimori T et al.	放射線部	Diagnostic performance of 68Ga-DOTATOC PET/CT in tumor-induced osteomalacia.	Annals of nuclear medicine・202102. 2021 Mar;35(3):397-405	Original Article
338	Iikuni S, Okada Y, Shimizu Y et al.	放射線部	Modulation of the Pharmacokinetics of a Radioligand Targeting Carbonic Anhydrase-IX with Albumin-Binding Moieties.	Molecular pharmaceutics・202101. 2021 Mar ; 18(3):966-975	Original Article
339	Shimizu Y, Nakai Y, Iikuni S et al.	放射線部	Synthesis and evaluation of gallium-68-labeled nitroimidazole-based imaging probes for PET diagnosis of tumor hypoxia.	Annals of nuclear medicine・202101. 2021 Mar;35(3):360-369	Original Article
340	Nakashima K, Iikuni S, Okada Y et al.	放射線部	Synthesis and evaluation of 68Ga-labeled imidazothiadiazole sulfonamide derivatives for PET imaging of carbonic anhydrase-IX.	Nuclear medicine and biology・202011. 2021 Feb;93:46-53	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
341	Yamasaki K, Zhao S, Nishimura M et al.	放射線部	Effects of feeding condition on the myocardial and hepatic accumulation of radioiodine-labeled BMIPP in mice.	Annals of nuclear medicine・202010. 2021 Jan;35(1):59-64	Original Article
342	Iikuni S, Kitano A, Watanabe H et al.	放射線部	Synthesis and evaluation of novel technetium-99m-hydroxamamide complex based on imidazothiadiazole sulfonamide targeting carbonic anhydrase-IX for tumor imaging.	Bioorganic & medicinal chemistry letters・202010. 2020 Nov ; 30(22):127596	Original Article
343	Watanabe H, Sakai S, Iikuni S et al.	放射線部	Synthesis and Biological Evaluation of Radioiodinated 3-Phenylcoumarin Derivatives Targeting Myelin in Multiple Sclerosis.	Bioorganic & medicinal chemistry letters・202009. 2020 Dec ; 30(24):127562	Original Article
344	Iikuni S, Okada Y, Shimizu Y et al.	放射線部	Synthesis and evaluation of indium-111-labeled imidazothiadiazole sulfonamide derivative for single photon emission computed tomography imaging targeting carbonic anhydrase-IX	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters・ 202007. 2020 Jul ; 30(14):127255	Original Article
345	Watanabe H, Kawano K, Shimizu Y et al.	放射線部	Development of Novel PET Imaging Probes for Detection of Amylin Aggregates in the Pancreas	Molecular Pharmaceutics・202004. 2020 Apr ;17(4):1293- 1299	Original Article
346	Kaide S, Watanabe H, Shimizu Y et al.	放射線部	Identification and Evaluation of Bisquinoline Scaffold as a New Candidate for alpha-Synuclein-PET Imaging.	ACS chemical neuroscience・202012. 2020 Dec ;11(24):4254- 4261	Original Article
347	Nakamura M, Murakami R, Abiko K et al.	病理部	Corrigendum to "Low-Grade Endometrial Stromal Sarcoma with a Nodule-in-Nodule Appearance in Preoperative Magnetic Resonance Images".	Case reports in obstetrics and gynecology・202102. 2021 Feb ; 2021:7919157	Original Article
348	Rokutan- Kurata M, Minamiguchi S, Kataoka TR et al.	病理部	Uterine cervical squamous cell carcinoma without p16 (CDKN2A) expression: Heterogeneous causes of an unusual immunophenotype.	Pathology international・ 202007. 2020 Jul; 70(7):413-421	Original Article
349	Tokunaga K, Arizono S, Shimizu H et al.	病理部	Optimizing b-values for accurate depiction of pancreatic cancer with tumor-associated pancreatitis on computed diffusion-weighted imaging.	Clinical imaging・202005. 2020 May;61:20-26	Original Article
350	Murata Y, Kawamoto S, Fukuda K.	集中治療部	Rocuronium Has a Suppressive Effect on Platelet Function via the P2Y12 Receptor Pathway In Vitro That Is Not Reversed by Sugammadex	International Journal of Molecular Sciences・ 202009. 2020 Sep ; 21(17):6399	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
351	Min J, Han TS, Sohn Y et al.	内視鏡部	microRNA-30a arbitrates intestinal-type early gastric carcinogenesis by directly targeting ITGA2.	Gastric cancer : official journal of the International Gastric Cancer Association and the Japanese Gastric Cancer Association・202007. 2020 Jul; 23(4):600-613	Original Article
352	Kamei J, Aizawa N, Nakagawa T et al.	薬剤部	Lacking transient receptor potential melastatin 2 attenuates lipopolysaccharide-induced bladder inflammation and its associated hypersensitivity in mice	International Journal of Urology・202101. 2021 Jan;28(1):107-114	Original Article
353	Ikuta K, Nakagawa S, Momo K et al.	薬剤部	Association of proton pump inhibitors and concomitant drugs with risk of acute kidney injury: A nested case-control study	BMJ Open・202102. 2021 Feb ;11(2):e041543	Original Article
354	Ozaki Y, Imamaki H, Ikeda A et al.	薬剤部	Correction to: Successful management of hyperammonemia with hemodialysis on day 2 during 5-fluorouracil treatment in a patient with gastric cancer: a case report with 5-fluorouracil metabolite analyses (Cancer Chemotherapy and Pharmacology, (2020), 86, 5,	Cancer Chemotherapy and Pharmacology・202101. 2021 Jan; 87(1):145	Original Article
355	Jin C, Yonezawa A, Yoshimatsu H et al.	薬剤部	Effect of riboflavin deficiency on development of the cerebral cortex in Slc52a3 knockout mice	Scientific Reports・202012. 2020 Oct ; 10(1):18443	Original Article
356	Ozaki Y, Imamaki H, Ikeda A et al.	薬剤部	Successful management of hyperammonemia with hemodialysis on day 2 during 5-fluorouracil treatment in a patient with gastric cancer: a case report with 5-fluorouracil metabolite analyses	Cancer Chemotherapy and Pharmacology・202011. 2020 Nov; 86(5):693-699	Original Article
357	Sakai M, Ohtera S, Iwao T et al.	医療情報企画部	Decreased administration of life-sustaining treatment just before death among older inpatients in Japan: A time-trend analysis from 2012 through 2014 based on a nationally representative sample	International Journal of Environmental Research and Public Health・202103. 2021 Mar ; 18(6):3135	Original Article
358	Santos LHO, Okamoto K, Otsuki R et al.	医療情報企画部	Promoting physical activity in Japanese older adults using a social pervasive game: Randomized controlled trial	JMIR Serious Games・202101. 2021 Jan ; 9(1):e16458	Original Article
359	Helou S, Abou-Khalil V, Yamamoto G et al.	医療情報企画部	Visualizing the cascade effect of redesigning features in an EMR system	Studies in Health Technology and Informatics・202006. 2020 Jun ;270:718-722	Original Article
360	Hiragi S, Sugiyama O, Hatanaka J et al.	医療情報企画部	Preliminary evaluation of market mechanism-based bed allocation system	Studies in Health Technology and Informatics・202006. 2020 Jun ;270:1363-1364	Original Article

小計 10



番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
361	Okamoto K, Yamamoto T, Hiragi S et al.	医療情報企画 部	Detecting severe incidents from electronic medical records using machine learning methods	Studies in Health Technology and Informatics・202006. 2020 Jun ;270:1247-1248	Original Article
362	Akiyama R, Yamamoto G, Amano T et al.	医療情報企画 部	Robust Reflectance Estimation for Projection-Based Appearance Control in a Dynamic Light Environment	IEEE Trans. Vis. Comput. Graph.・202103. 2021 Mar;27(3):2041- 2055	Original Article
363	Takahashi K, Ishibashi E, Kubo T et al.	医療情報企画 部	A phase 2 basket trial of combination therapy with trastuzumab and pertuzumab in patients with solid cancers harboring human epidermal growth factor receptor 2 amplification (JUPITER trial).	Medicine・202008. 2020 Aug ;99(32):e21457	Original Article
364	Takahashi T, Otsubo T, Kunisawa S et al.	医療情報企画 部	Factors associated with high-dose antipsychotic prescriptions in outpatients with schizophrenia: An analysis of claims data from a Japanese prefecture.	Neuropsychopharmacolog y reports・202005. 2020 Sep;40(3):224-231	Original Article
365	Kameda M, Teruya T, Yanagida M et al.	地域ネットワー ク医療部	Reply to Pan et al.: Whole blood metabolome analysis combined with comprehensive frailty assessment	Proceedings of the National Academy of Sciences・202101. 2021 Jan ;118(1):e2016640118	Original Article
366	Kameda M, Shibata R, Kondoh H.	地域ネットワー ク医療部	Efficient and rapid assessment of multiple aspects of frailty using the Kyoto Frailty Scale, developed from the Edmonton Frail Scale	Journal of Physical Therapy Science・202103. 2021 Mar;33(3):267- 273	Original Article
367	Toriyama K, Kuwahara M, Kondoh H et al.	地域ネットワー ク医療部	T cell-specific deletion of Pgam1 reveals a critical role for glycolysis in T cell responses	Communications Biology・ 202012. 2020 Jul ; 3(1):394	Original Article
368	Alvarez- Meythaler JG, Garcia- Mayea Y, Mir C et al.	地域ネットワー ク医療部	Autophagy Takes Center Stage as a Possible Cancer Hallmark	Frontiers in Oncology・ 202010. 2020 Oct ; 10:586069	Original Article
369	Kondoh H, Teruya T, Yanagida M.	地域ネットワー ク医療部	Metabolomics of human fasting: new insights about old questions	Open Biology・202009. 2020 Sep;10(9):200176	Original Article
370	Mikawa T, Shibata E, Shimada M et al.	地域ネットワー ク医療部	Phosphoglycerate mutase cooperates with Chk1 kinase to regulate glycolysis.	iScience・202007. 2020 Jul ;23(7):101306	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
371	Kondoh H, Kameda M, Yanagida M.	地域ネットワーク 医療部	Whole Blood Metabolomics in Aging Research	International Journal of Molecular Sciences・ 202012. 2020 Dec ; 22(1):175	Original Article
372	Hsieh CT, Yamazaki H, Wang J et al.	総合臨床教育・ 研修センター	Quality of Life and Disability-free Survival in the Elderly: The Locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study.	Journal of aging and health・202103. 2021 Mar;33(3-4):197-204	Original Article
373	Yamazaki H, Wang J, Tauchi S et al.	総合臨床教育・ 研修センター	Inverse Association Between Fatty Liver at Baseline Ultrasonography and Remission of Type 2 Diabetes Over a 2-Year Follow-up Period.	Clinical gastroenterology and hepatology : the official clinical practice journal of the American Gastroenterological Association・202103. 2021 Mar;19(3):556- 564.e5	Original Article
374	Kurita N, Kamitani T, Wada O et al.	総合臨床教育・ 研修センター	Disentangling Associations Between Serum Muscle Biomarkers and Sarcopenia in the Presence of Pain and Inflammation Among Patients With Osteoarthritis: The SPSS-OK Study.	Journal of clinical rheumatology : practical reports on rheumatic & musculoskeletal diseases・ 202103. 2021 Mar ; 27(2):56-63	Original Article
375	Uemura K, Kamitani T, Yamada M et al.	総合臨床教育・ 研修センター	Longitudinal Effects of Active Learning Education on Lifestyle Behavior and Physical Function in Older Adults.	Journal of the American Medical Directors Association・202102. 2021 Feb;22(2):459- 463	Original Article
376	Yoshioka T, Kamitani T, Omae K et al.	総合臨床教育・ 研修センター	Urgency urinary incontinence, loss of independence, and increased mortality in older adults: A cohort study.	PloS one・202101. 2021 Jan ;16(1):e0245724	Original Article
377	Yamamoto S, Matsuzawa R, Kamitani T et al.	総合臨床教育・ 研修センター	Efficacy of Exercise Therapy Initiated in the Early Phase After Kidney Transplantation: A Pilot Study.	Journal of renal nutrition : the official journal of the Council on Renal Nutrition of the National Kidney Foundation・ 202011. 2020 Nov; 30(6):518-525	Original Article
378	Nagai K, Tamaki K, Kusunoki H et al.	総合臨床教育・ 研修センター	Physical frailty predicts the development of social frailty: a prospective cohort study.	BMC geriatrics・202010. 2020 Oct ;20(1):403	Original Article
379	Yamazaki H, Tauchi S, Wang J et al.	総合臨床教育・ 研修センター	Longitudinal association of fatty pancreas with the incidence of type-2 diabetes in lean individuals: a 6-year computed tomography- based cohort study.	Journal of gastroenterology・202007. 2020 Jul;55(7):712-721	Original Article
380	Wada O, Kurita N, Kamitani T et al.	総合臨床教育・ 研修センター	Implications of evaluating leg muscle mass and fat mass separately for quadriceps strength in knee osteoarthritis: the SPSS-OK study.	Clinical rheumatology・ 202005. 2020 May; 39(5):1655-1661	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
381	Hashimoto D, Poudel S, Hirano S et al.	総合臨床教育・ 研修センター	Is there disparity between regions and facilities in surgical resident training in Japan? Insights from a national survey	Surgery Today・202006. 2020 Dec;50(12):1585- 1593	Original Article
382	Owari T, Sasaki T, Fujii K et al.	倫理支援部	Role of Nuclear Claudin-4 in Renal Cell Carcinoma.	International journal of molecular sciences・ 202011. 2020 Nov ; 21(21):8340	Original Article
383	Miyagawa Y, Nukaga S, Mori T et al.	倫理支援部	Evaluation of cancer-derived myocardial impairments using a mouse model.	Oncotarget・202010. 2020 Oct ;11(41):3712- 3722	Original Article
384	Nukaga S, Mori T, Miyagawa Y et al.	倫理支援部	Combined administration of lauric acid and glucose improved cancer-derived cardiac atrophy in a mouse cachexia model.	Cancer science・202009. 2020 Dec; 111(12):4605-4615	Original Article
385	Fujiwara- Tani R, Sasaki T, Fujii K et al.	倫理支援部	Diabetes mellitus is associated with liver metastasis of colorectal cancer through production of biglycan-rich cancer stroma.	Oncotarget・202008. 2020 Aug ;11(31):2982- 2994	Original Article
386	Fujiwara- Tani R, Fujii K, Mori S et al.	倫理支援部	Role of Clostridium perfringens Enterotoxin on YAP Activation in Colonic Sessile Serrated Adenoma/ Polyps with Dysplasia.	International journal of molecular sciences・ 202005. 2020 May ; 21(11):3840	Original Article
387	Luo Y, Kishi S, Sasaki T et al.	倫理支援部	Targeting claudin-4 enhances chemosensitivity in breast cancer.	Cancer science・202005. 2020 May;111(5):1840- 1850	Original Article
388	Niwamoto T, Handa T, Matsui S et al.	先端医療研究 開発機構	Phenotyping of IgG4-related diseases based on affected organ pattern: A multicenter cohort study using cluster analysis	Modern Rheumatology・ 202101. 2021 Jan; 31(1):235-240	Original Article
389	Ishigooka N, Fujii T, Abe H et al.	先端医療研究 開発機構	Predicting factors for disappearance of anti-mutated citrullinated vimentin antibodies in sera of patients with rheumatoid arthritis	Modern Rheumatology・ 202005. 2020 May; 30(3):450-457	Original Article
390	Yamamoto E, Kato T, Yaku H et al.	先端医療研究 開発機構	Sex differences in patients with acute decompensated heart failure in Japan: observation from the KCHF registry.	ESC heart failure・ 202007. 2020 Oct; 7(5):2485-2493	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
391	Nakane E, Kato T, Tanaka N et al.	先端医療研究 開発機構	Association of the induction of a self-care management system with 1-year outcomes in patients hospitalized for heart failure	Journal of cardiology・ 202101. 2021 Jan; 77(1):48-56	Original Article
392	Kato T, Uemura Y, Naya M et al.	先端医療研究 開発機構	Association of coronary revascularisation after physician-referred non-invasive diagnostic imaging tests with outcomes in patients with suspected coronary artery disease: a post hoc subgroup analysis	BMJ open・202009. 2020 Sep ;10(9):e035111	Original Article
393	Taniguchi T, Morimoto T, Takeji Y et al.	先端医療研究 開発機構	Contemporary issues in severe aortic stenosis: review of current and future strategies from the Contemporary Outcomes after Surgery and Medical Treatment in Patients with Severe Aortic Stenosis registry.	Heart・202006. 2020 Jun;106(11):802-809	Original Article
394	Kitai T, Miyakoshi C, Morimoto T et al.	先端医療研究 開発機構	Mode of Death Among Japanese Adults With Heart Failure With Preserved, Midrange, and Reduced Ejection Fraction.	JAMA Netw Open・ 202005. 2020 May ; 3(5):e204296	Original Article
395	Yoshikawa Y, Tamaki Y, Morimoto T et al.	先端医療研究 開発機構	Impact of left ventricular ejection fraction on the effect of renin- angiotensin system blockers after an episode of acute heart failure: From the KCHF Registry	PloS one・202009. 2020 Sep ;15(9):e0239100	Original Article
396	Egami S, Kawazoe H, Hashimoto H et al.	先端医療研究 開発機構	Peripheral blood biomarkers predict immune-related adverse events in non-small cell lung cancer patients treated with pembrolizumab: a multicenter retrospective study	Journal of Cancer・ 202102. 2021 Feb ; 12(7):2105-2112	Original Article
397	Kawazoe H, Mori N, Ido S et al.	先端医療研究 開発機構	Liquid formulation of gemcitabine increases venous pain in patients with cancer: A retrospective study	Clinical Therapeutics・ 202004. 2020 Apr; 42(4):712-719	Original Article
398	Akiyama Y, Ishiguro T, Uozumi R et al.	先端医療研究 開発機構	Specific pathogens as predictors of poor long-term prognosis after hospital discharge for community-acquired pneumonia	Respiratory Medicine・ 202101. 2021 Jan; 176:106279	Original Article
399	Funada S, Watanabe N, Goto T et al.	先端医療研究 開発機構	Cognitive behavioral therapy for overactive bladder in women: study protocol for a randomized controlled trial	BMC Urology・202008. 2020 Aug ;20(1):129	Original Article
400	Funada S, Watanabe N, Goto T et al.	先端医療研究 開発機構	Clinical feasibility and acceptability of adding cognitive behavioral therapy to pharmacotherapy for drug-resistant overactive bladder in women: A single-arm pilot study	LUTS: Lower Urinary Tract Symptoms・202101. 2021 Jan;13(1):69-78	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
401	Hotta T, Ueno K, Hataji Y et al.	先端医療研究 開発機構	Transitive inference in cleaner wrasses (Labroides dimidiatus)	PLOS ONE・202008. 2020 Aug ; 15(8):e0237817	Original Article
402	Nishikawa K, Murotani K, Fujitani K et al.	先端医療研究 開発機構	Differences in disease status between patients with progression after first-line chemotherapy versus early relapse after adjuvant chemotherapy who undergo second-line chemotherapy for gastric cancer: Exploratory analysis of the randomized phase III TRICS	European Journal of Cancer・202006. 2020 Jun;132:159-167	Original Article
403	Yamashita T, Masuda N, Saji S et al.	先端医療研究 開発機構	Trastuzumab, pertuzumab, and eribulin mesylate versus trastuzumab, pertuzumab, and a taxane as a first-line or second-line treatment for HER2-positive, locally advanced or metastatic breast cancer: study protocol for a randomized controlled, non-inferiori	Trials・202005. 2020 May ;21(1):391	Original Article
404	Honda M, Kataoka M, Kawaguchi K et al.	先端医療研究 開発機構	Subcategory classifications of Breast Imaging and Data System (BI-RADS) category 4 lesions on MRI.	Japanese journal of radiology・202009. 2021 Jan;39(1):56-65	Original Article
405	Ohashi A, Kataoka M, Iima M et al.	先端医療研究 開発機構	A multiparametric approach to diagnosing breast lesions using diffusion-weighted imaging and ultrafast dynamic contrast-enhanced MRI.	Magnetic resonance imaging・202009. 2020 Sep;71:154-160	Original Article
406	Kishimoto AO, Kataoka M, Iima M et al.	先端医療研究 開発機構	The comparison of high-resolution diffusion weighted imaging (DWI) with high-resolution contrast-enhanced MRI in the evaluation of breast cancers.	Magnetic resonance imaging・202009. 2020 Sep;71:161-169	Original Article
407	Honda M, Kataoka M, Iima M et al.	先端医療研究 開発機構	Background parenchymal enhancement and its effect on lesion detectability in ultrafast dynamic contrast-enhanced MRI.	European journal of radiology・202008. 2020 Aug;129:108984	Original Article
408	Kashiwada T, Shinozaki K, Ueno S et al.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	Safety and efficacy of S-1 plus oxaliplatin 130 mg/m2 combination therapy in patients with previously untreated HER2-negative unresectable, advanced, or recurrent gastric/gastroesophageal junction cancer: a phase II trial (KSCC1501A).	International journal of clinical oncology・202102. 2021 Feb;26(2):345- 354	Original Article
409	Fukahori M, Kato K, Taniguchi H et al.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	Relationship between cervical esophageal squamous cell carcinoma and human papilloma virus infection and gene mutations.	Molecular and clinical oncology・202102. 2021 Feb;14(2):41	Original Article
410	Ohuchi M, Yagishita S, Taguchi K et al.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	Use of an alternative signature peptide during development of a LC-MS/MS assay of plasma nivolumab levels applicable for multiple species.	Journal of chromatography. B, Analytical technologies in the biomedical and life sciences・202101. 2021 Jan ;1162:122489	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
411	Shigeto K, Kawaguchi T, Koya S et al.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	Profiles Combining Muscle Atrophy and Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio Are Associated with Prognosis of Patients with Stage IV Gastric Cancer.	Nutrients・202006. 2020 Jun ;12(6):1884	Original Article
412	Maruki Y, Morizane C, Arai Y et al.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	Molecular detection and clinicopathological characteristics of advanced/recurrent biliary tract carcinomas harboring the FGFR2 rearrangements: a prospective observational study (PRELUDE Study).	Journal of gastroenterology・202103. 2021 Mar;56(3):250- 260	Original Article
413	Fujitani K, Shitara K, Takashima A et al.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	Effect of early tumor response on the health-related quality of life among patients on second-line chemotherapy for advanced gastric cancer in the ABSOLUTE trial.	Gastric cancer : official journal of the International Gastric Cancer Association and the Japanese Gastric Cancer Association・ 202103. 2021 Mar; 24(2):467-476	Original Article
414	Maruki Y, Morizane C, Arai Y et al.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	Correction to: Molecular detection and clinicopathological characteristics of advanced/recurrent biliary tract carcinomas harboring the FGFR2 rearrangements: a prospective observational study (PRELUDE Study).	Journal of gastroenterology・202103. 2021 Mar;56(3):297	Original Article
415	Fujitani K, Shitara K, Takashima A et al.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	Correction to: Effect of early tumor response on the health-related quality of life among patients on second-line chemotherapy for advanced gastric cancer in the ABSOLUTE trial.	Gastric cancer : official journal of the International Gastric Cancer Association and the Japanese Gastric Cancer Association・ 202103. 2021 Mar; 24(2):477-478	Original Article
416	Nakajima TE, Kadowaki S, Minashi K et al.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	Multicenter Phase I/II Study of Nivolumab Combined with Paclitaxel Plus Ramucirumab as Second-line Treatment in Patients with Advanced Gastric Cancer.	Clinical cancer research : an official journal of the American Association for Cancer Research・ 202102. 2021 Feb ; 27(4):1029-1036	Original Article
417	Katada C, Sugawara M, Hara H et al.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	A management of neutropenia using granulocyte colony stimulating factor support for chemotherapy consisted of docetaxel, cisplatin and 5-fluorouracil in patients with oesophageal squamous cell carcinoma.	Japanese journal of clinical oncology・202102. 2021 Feb ;51(2):199- 204	Original Article
418	Yamamoto M, Yoshida M, Furuse J et al.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	Clinical practice guidelines for the management of liver metastases from extrahepatic primary cancers 2021.	Journal of hepato-biliary- pancreatic sciences・ 202101. 2021 Jan; 28(1):1-25	Original Article
419	Minatogawa H, Izawa N, Kawaguchi T et al.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	Study protocol for SPARED trial: randomised non-inferiority phase III trial comparing dexamethasone on day 1 with dexamethasone on days 1-4, combined with neurokinin-1 receptor antagonist, palonosetron and olanzapine (5 mg) in patients receiving cisplatin	BMJ open・202012. 2020 Dec ;10(12):e041737	Original Article
420	Nakamura Y, Taniguchi H, Ikeda M et al.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	Clinical utility of circulating tumor DNA sequencing in advanced gastrointestinal cancer: SCRUM-Japan GI-SCREEN and GOZILA studies.	Nature medicine・202012. 2020 Dec ;26(12):1859- 1864	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
421	Miyazawa H, Nakajima T, Horimizu M et al.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	Impact of Local Drug Delivery of Minocycline on the Subgingival Microbiota during Supportive Periodontal Therapy: A Randomized Controlled Pilot Study.	Dentistry journal・202010. 2020 Oct ;8(4):123	Original Article
422	Masuishi T, Nakajima TE, Yamazaki K et al.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	WJOG10517G: a multicenter Phase II study of mFOLFOX6 in gastric cancer patients with severe peritoneal metastases.	Future oncology (London, England)・202007. 2020 Jul;16(20):1417-1424	Original Article
423	Arai H, Nakajima TE.	次世代医療・iP S細胞治療研究 センター	Recent Developments of Systemic Chemotherapy for Gastric Cancer.	Cancers・202004. 2020 Apr ;12(5):1100	Original Article
424	Morita T, Kodama Y, Shiokawa M et al.	先制医療・生活 習慣病研究セ ンター	CXCR4 in Tumor Epithelial Cells Mediates Desmoplastic Reaction in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma.	Cancer research・202010. 2020 Oct ;80(19):4058- 4070	Original Article
425	Marui S, Uza N, Yamazaki H et al.	先制医療・生活 習慣病研究セ ンター	Utility of laser-cut covered self-expandable metal stents for unresectable malignant distal biliary obstruction: a single-center experience.	Endoscopy・202008. 2020 Aug;52(8):664-668	Original Article
426	Ogawa S, Fukuda A, Matsumoto Y et al.	先制医療・生活 習慣病研究セ ンター	SETDB1 Inhibits p53-Mediated Apoptosis and Is Required for Formation of Pancreatic Ductal Adenocarcinomas in Mice.	Gastroenterology・ 202008. 2020 Aug ; 159(2):682-696.e13	Original Article
427	Kondo K, Suzuki K, Washio M et al.	先制医療・生活 習慣病研究セ ンター	Association between coffee and green tea intake and pneumonia among the Japanese elderly: a case-control study.	Scientific reports・ 202103. 2021 Mar ; 11(1):5570	Original Article
428	Matsumoto S, Araki M, Isaka Y et al.	先制医療・生活 習慣病研究セ ンター	E487K-Induced Disorder in Functionally Relevant Dynamics of Mitochondrial Aldehyde Dehydrogenase 2	Biophysical Journal・ 202007. 2020 Aug ; 119(3):628-637	Original Article
429	Baba O, Huang LH, Elvington A et al.	先制医療・生活 習慣病研究セ ンター	CXCR4-Binding Positron Emission Tomography Tracers Link Monocyte Recruitment and Endothelial Injury in Murine Atherosclerosis.	Arteriosclerosis, thrombosis, and vascular biology・202102. 2021 Feb;41(2):822-836	Original Article
430	Xiao Z, Mayer AT, Nobashi TW et al.	先制医療・生活 習慣病研究セ ンター	ICOS Is an Indicator of T-cell-Mediated Response to Cancer Immunotherapy.	Cancer research・202007. 2020 Jul ;80(14):3023- 3032	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
431	Nakamoto R, Zaba LC, Rosenberg J et al.	先制医療・生活 習慣病研究セ ンター	Prognostic value of volumetric PET parameters at early response evaluation in melanoma patients treated with immunotherapy.	European journal of nuclear medicine and molecular imaging・ 202004. 2020 Nov; 47(12):2787-2795	Original Article
432	Nabeshima Y, Kataoka TR, Ueshima C et al.	クリニカルバイ オリソースセン ター	Neonatal Fc receptor induces intravenous immunoglobulin growth suppression in Langerhans cell histiocytosis.	Pathology international・ 202103. 2021 Mar; 71(3):191-198	Original Article
433	Polprasert C, Takeuchi Y, Makishima H et al.	クリニカルバイ オリソースセン ター	Frequent mutations in HLA and related genes in extranodal NK/T cell lymphomas.	Leukemia & lymphoma・ 202101. 2021 Jan; 62(1):95-103	Original Article
434	Inagaki- Kawata Y, Yoshida K, Kawaguchi- Sakita N et al.	クリニカルバイ オリソースセン ター	Genetic and clinical landscape of breast cancers with germline BRCA1/2 variants.	Communications biology・ 202010. 2020 Oct ; 3(1):578	Original Article
435	Murata K, Ito H, Hashimoto M et al.	リウマチ性疾患 先進医療学講 座(寄附)	Fluctuation in anti-cyclic citrullinated protein antibody level predicts relapse from remission in rheumatoid arthritis: KURAMA cohort	Arthritis Research and Therapy・202012. 2020 Nov ;22(1):268	Original Article
436	Jinno S, Onishi A, Dubreuil M et al.	リウマチ性疾患 先進医療学講 座(寄附)	Comparison of the efficacy and safety of biologic agents between elderly-onset and young-onset RA patients: the ANSWER cohort study	Rheumatology International・202012. 2020 Dec;40(12):1987- 1995	Original Article
437	Kawahara R, Nakabo S, Shimizu M et al.	リウマチ性疾患 先進医療学講 座(寄附)	Feasibility of patient-oriented ultrasound joint selection: Cross- sectional observational study on rheumatoid arthritis	Modern Rheumatology・ 202011. 2020 Nov; 30(6):975-981	Original Article
438	Masamoto K, Fujibayashi S, Otsuki B et al.	リウマチ性疾患 先進医療学講 座(寄附)	Cervical spinal computed tomography utilizing model-based iterative reconstruction reduces radiation to an equivalent of three cervical X-rays	European Spine Journal・ 202011. 2020 Nov; 29(11):2804-2813	Original Article
439	Shimizu T, Fujibayashi S, Otsuki B et al.	リウマチ性疾患 先進医療学講 座(寄附)	Indirect Decompression Through Oblique Lateral Interbody Fusion for Revision Surgery After Lumbar Decompression	World Neurosurgery・ 202009. 2020 Sep; 141:e389-e399	Original Article
440	Otsuki B, Fujibayashi S, Takemoto M et al.	リウマチ性疾患 先進医療学講 座(寄附)	Analysis of the Factors Affecting Lumbar Segmental Lordosis after Lateral Lumbar Interbody Fusion	Spine・202007. 2020 Jul ;45(14):E839-E846	Original Article

小計 10



番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
441	Ebina K, Hirano T, Maeda Y et al.	リウマチ性疾患 先進医療学講 座(寄附)	Drug retention of 7 biologics and tofacitinib in biologics-naïve and biologics-switched patients with rheumatoid arthritis: The ANSWER cohort study	Arthritis Research and Therapy・202006. 2020 Jun ;22(1):142	Original Article
442	Kataoka Y, Taito S, Yamamoto- Kataoka S et al.	地域医療システ ム学講座(寄 附)	Background styles in systematic review articles are not related to the publication in high-impact-factor journals: A meta-epidemiological study.	Medicine・202012. 2020 Dec ;99(51):e23801	Original Article
443	Kato S, Kuwatani M, Hayashi T et al.	地域医療システ ム学講座(寄 附)	Inutility of endoscopic sphincterotomy to prevent pancreatitis after biliary metal stent placement in the patients without pancreatic duct obstruction.	Scandinavian journal of gastroenterology・202004. 2020 Apr;55(4):503- 508	Original Article
444	Kasashima H, Duran A, Martinez- Ordóñez A et al.	地域医療システ ム学講座(寄 附)	Stromal SOX2 Upregulation Promotes Tumorigenesis through the Generation of a SFRP1/2-Expressing Cancer-Associated Fibroblast Population.	Developmental cell・ 202101. 2021 Jan ; 56(1):95-110.e10	Original Article
445	Kudo Y, Sugimoto M, Arias E et al.	地域医療システ ム学講座(寄 附)	PKC lambda/iota Loss Induces Autophagy, Oxidative Phosphorylation, and NRF2 to Promote Liver Cancer Progression.	Cancer cell・202008. 2020 Aug ;38(2):247- 262.e11	Original Article
446	Tanabe N, Vasilescu DM, Hague CJ et al.	地域医療システ ム学講座(寄 附)	Pathological Comparisons of Paraseptal and Centrilobular Emphysema in Chronic Obstructive Pulmonary Disease.	American journal of respiratory and critical care medicine・202009. 2020 Sep ;202(6):803- 811	Original Article
447	Tanabe N, McDonough JE, Vasilescu DM et al.	地域医療システ ム学講座(寄 附)	Pathology of idiopathic pulmonary fibrosis assessed by a combination of micro-computed tomography, histology, and immunohistochemistry.	The American journal of pathology・202009. 2020 Dec;190(12):2427-2435	Original Article
448	Hamao N, Ito I, Konishi S et al.	地域医療システ ム学講座(寄 附)	Comparison of ceftriaxone plus macrolide and ampicillin/sulbactam plus macrolide in treatment for patients with community-acquired pneumonia without risk factors for aspiration: an open-label, quasi-randomized, controlled trial.	BMC pulmonary medicine・202006. 2020 Jun ;20(1):160	Original Article
449	Verleden SE, Tanabe N, McDonough JE et al.	地域医療システ ム学講座(寄 附)	Small airways pathology in idiopathic pulmonary fibrosis: a retrospective cohort study.	The Lancet. Respiratory medicine・202006. 2020 Jun;8(6):573-584	Original Article
450	Yajima N, Tsujiimoto Y, Fukuma S et al.	地域医療システ ム学講座(寄 附)	The development of quality indicators for systemic lupus erythematosus using electronic health data: A modified RAND appropriateness method.	Modern rheumatology・ 202005. 2020 May; 30(3):525-531	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
451	Ohno S, Ozawa J, Fukuyama M et al.	地域医療システム学講座(寄附)	An NGS-based genotyping in LQTS; minor genes are no longer minor.	Journal of human genetics・202007. 2020 Dec;65(12):1083-1091	Original Article
452	Sonoda K, Ohno S, Shimizu Y et al.	地域医療システム学講座(寄附)	SCN5A mutation identified in a patient with short-coupled variant of torsades de pointes.	Pacing and clinical electrophysiology : PACE・202005. 2020 May;43(5):456-461	Original Article
453	Lahrouchi N, Tadros R, Crotti L et al.	地域医療システム学講座(寄附)	Transethnic Genome-Wide Association Study Provides Insights in the Genetic Architecture and Heritability of Long QT Syndrome	Circulation・202007. 2020 Jul ;142(4):324-338	Original Article
454	Tomizawa T, Ishikawa M, Bello-Irizarry SN et al.	運動器機能再建学講座(寄附)	Biofilm Producing Staphylococcus epidermidis (RP62A Strain) Inhibits Osseous Integration Without Osteolysis and Histopathology in a Murine Septic Implant Model	JOURNAL OF ORTHOPAEDIC RESEARCH・202004. 2020 Apr;38(4):852-860	Original Article
455	Ueda Y, Hirota K, Yamauchi I et al.	代謝制御学講座(寄附)	Is C-type natriuretic peptide regulated by a feedback loop? A study on systemic and local autoregulatory effect.	PloS one・202010. 2020 Oct ;15(10):e0240023	Original Article
456	Tsujimoto H, Kasahara T, Sueta SI et al.	代謝制御学講座(寄附)	A Modular Differentiation System Maps Multiple Human Kidney Lineages from Pluripotent Stem Cells.	Cell reports・202004. 2020 Apr ;31(1):107476	Original Article
457	Kitatani R, Koganemaru S, Maeda A et al.	てんかん・運動異常生理学講座(産学共同)	Gait-combined transcranial alternating current stimulation modulates cortical control of muscle activities during gait.	The European journal of neuroscience・202012. 2020 Dec;52(12):4791-4802	Original Article
458	Tsuchiya H, Endoh F, Akiyama T et al.	てんかん・運動異常生理学講座(産学共同)	Longitudinal correspondence of epilepsy and scalp EEG fast (40-200 Hz) oscillations in pediatric patients with tuberous sclerosis complex.	Brain & development・202010. 2020 Oct;42(9):663-674	Original Article
459	Koganemaru S, Mikami Y, Matsuhashi M et al.	てんかん・運動異常生理学講座(産学共同)	Cerebellar transcranial alternating current stimulation modulates human gait rhythm.	Neuroscience research・202007. 2020 Jul;156:265-270	Original Article
460	Ikeda A, Takeyama H, Bernard C et al.	てんかん・運動異常生理学講座(産学共同)	Active direct current (DC) shifts and "Red slow": two new concepts for seizure mechanisms and identification of the epileptogenic zone.	Neuroscience research・202007. 2020 Jul;156:95-101	Original Article

小計 10

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
461	Namiki T, Tsuda I, Tadokoro S et al.	てんかん・運動 異常生理学講 座(産学共同)	Mathematical structures for epilepsy: High-frequency oscillation and interictal epileptic slow (red slow).	Neuroscience research・ 202007. 2020 Jul; 156:178-187	Original Article

合計 461

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 手順書の主な内容<ul style="list-style-type: none"><li>・ 会議録の作成</li><li>・ 手順書、委員名簿、及び会議録概要等の公表</li><li>・ 人を対象とする医学系研究に関する教育研修</li><li>・ 医の倫理委員会委員及び事務局員への教育研修</li><li>・ 人を対象とする医学系研究の年次報告及び中止・終了報告</li><li>・ 人を対象とする医学系研究に関する研究者、研究責任者及び研究機関の長の責務</li><li>・ 人を対象とする医学系研究に関する試料・情報の保管及び他の機関等の試料・情報の利用</li><li>・ 迅速審査に関する手順</li><li>・ 多施設共同研究についての事務手続き及び審査の方針</li><li>・ 人を対象とする医学系研究における重篤な有害事象・安全性情報の報告</li><li>・ 専門小委員会の運用にかかる手順書</li><li>・ 医学系研究に関する不適合に関する報告</li><li>・ 中央倫理審査委員会としての一括審査</li><li>・ 外部機関の倫理委員会への審査依頼</li></ul></li></ul>	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの原則、利益相反審査に係る審議体制・手続き等</li></ul>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年13回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年4回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容<ul style="list-style-type: none"><li>1. 臨床研究等倫理講習会を年1回開催した。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2020年度前期 第1回 臨床研究等倫理講習会</li><li>「臨床研究におけるインフォームド・コンセント」</li><li>「臨床研究実施の際の注意点」</li><li>「不適正事案から学ぶー研究を適正に実施するためにー」</li><li>「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針の概要」</li><li>※コロナウイルス感染拡大を考慮し、本前期分を通年閲覧可能とした。</li></ul></li><li>2. 倫理審査委員教育研修会を年3回開催した。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第1回 倫理委員会委員研修会</li><li>「治験以外にもある保険外併用療養制度ー患者申出療養・先進医療等についてー」</li><li>・ 第2回 倫理委員会委員研修会</li><li>「臨床試験における品質マネジメントシステム」</li><li>・ 第3回 倫理委員会委員研修会</li><li>「インフォームド・コンセントの留意点」</li></ul></li></ul></li></ul>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

京大病院では、単に自立して診療ができるだけでなく、将来的にその領域でリーダーシップがとれるような実力のある専門医の養成をめざしている。

こうした専門医になるためには、固定化した医療環境で、漫然と日常診療をこなすだけでは不十分であり、系統的なプログラムにもとづき、優れた指導医のもとで、さまざまな医療環境を経験することが必要となる。

京大病院は、レベルの高い魅力的な第一線の医療機関が関連病院としてリンクしていることで有名であり、活発に人事交流することが実力のある臨床医を育成する原動力になっている。プログラムは、こうしたアクティビティの高い病院での修練が包括されたものとなっている。その中で大学においては若い医師たちが真摯で刺激的なディスカッションを重ねながら、挑戦的で先進的な課題に取り組む環境が形成されており、京大病院の実績と力に結びついている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	254人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
北脇 年雄	血液内科	助教	26年	
尾野 亘	循環器内科	准教授	31年	
宇座 徳光	消化器内科	講師	23年	
平井 豊博	呼吸器内科	教授	33年	
森信 暁雄	免疫・膠原病内科	教授	33年	
横井 秀基	腎臓内科	講師	27年	
小倉 雅仁	糖尿病・内分泌・栄養内科	助教	21年	
葛谷 聡	脳神経内科	准教授	25年	
小濱 和貴	消化管外科	教授	26年	
戸井 雅和	乳腺外科	教授	39年	
高田 正泰	乳腺外科	准教授	20年	
田浦 康二郎	肝胆膵・移植外科	准教授	27年	
増井 俊彦	小児外科	准教授	27年	

後藤 公志	整形外科	准教授	27年	
宮本 享	脳神経外科	教授	40年	
湊谷 謙司	心臓血管外科	教授	35年	
森本 尚樹	形成外科	教授	28年	
伊達 洋至	呼吸器外科	教授	37年	
上田 奈央子	眼科	特定病院助教	21年	
堀江 昭史	産科婦人科	講師	22年	
滝田 順子	小児科	教授	30年	
椛島 健治	皮膚科	教授	25年	
小林 恭	泌尿器科	准教授	23年	
大森 孝一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	37年	
磯部 昌憲	精神科神経科	助教	16年	
川本 修司	麻酔科	助教	17年	
吉村 通央	放射線治療科	講師	24年	
中本 裕士	放射線診断科	助教	30年	
松村 康史	検査部・感染制御部	准教授	19年	
羽賀 博典	病理診断科	教授	30年	
大鶴 繁	救急科	教授	24年	
金井 雅史	腫瘍内科	准教授	27年	
別所 和久	歯科口腔外科	教授	38年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

## 4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
1. 研修の主な内容	薬剤師を対象に、調剤業務や病棟薬剤師業務についての高度な知識・技術を修得するための講義研修および症例検討会、臨床上の課題を発見・解決する能力を養うためのセミナーを実施した。
研修の期間・実施回数	2020/4/1～2021/3/31 計24回
研修の参加人数	各15～30名
2. 研修の主な内容	「看護部IVナース認定プログラム」に基づき、下記対象者に下記講義と演習・試験を実施した。 ①レベルⅡ（新規入職看護師対象）に薬剤・安全管理・感染管理・CVポート・PICCの管理・テープ固定時の皮膚障害予防、末梢血管確保・CVポート穿刺演習 ②レベルⅢ（レベルⅡを指導する者対象；インストラクター）に輸液管理・生物学的製剤・UKカテーテル・輸血管理・アナフィラキシー・造影剤・IVインストラクター講習 ③レベルⅣ（レベルⅢ認定者対象）抗がん薬の基礎知識、抗がん薬投与における末梢静脈穿刺
研修の期間・実施回数	1,868時間35分、527回（在宅研修・動画講義を含む）
研修の参加人数	のべ786名
3. 研修の主な内容	下記の対象者研修を実施した。 4/1採用者研修・中途採用者研修・勤務復帰者研修、新人看護師・卒後2年看護師・卒後3年看護師・卒後4年看護師研修・クリニカルコーチ研修等を行った。
研修の期間・実施回数	598時間10分、342回（オンラインライブ研修・動画講義を含む）
研修の参加人数	のべ2,786名
4. 研修の主な内容	看護師を対象に「透析看護認定研修」として、「腎不全の病態と血液浄化療法」「血液浄化療法の記録」「血液浄化用訪中の看護」「血液浄化療法について」「血液浄化療法の実際」についての講義・演習・試験を実施した。
研修の期間・実施回数	65時間20分、36回（動画講義を含む）
研修の参加人数	のべ68名



<p>5. 研修の主な内容</p>          <p>研修の期間・実施回数</p> <p>研修の参加人数</p>	<p>検査部の新規採用職員を対象に、以下の研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務手続き</li> <li>・業務に必要な基本行動および労働安全衛生</li> <li>・接遇・医療安全・感染対策</li> <li>・医薬品・医療機器の安全使用</li> <li>・情報セキュリティ</li> <li>・診療放射線の安全使用</li> <li>・患者の暴言・暴力</li> <li>・喫煙</li> <li>・検査部の業務について</li> </ul> <p>年1回</p> <p>3名</p>
<p>6. 研修の主な内容</p>   <p>研修の期間・実施回数</p> <p>研修の参加人数</p>	<p>検査部の職員を対象に、検査関連の学術的な内容・安全管理・学会の後演会を実施した。（※ 後演会は、学会発表後にそれについての報告を聞く会）</p> <p>年1回</p> <p>50名</p>
<p>7. 研修の主な内容</p>          <p>研修の期間・実施回数</p> <p>研修の参加人数</p>	<p>検査部の職員を対象に、以下のISO対象必須トレーニングを実施した。</p> <p>ISO対象必須トレーニングA</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品質マネジメントシステム</li> <li>・感染予防</li> <li>・安全衛生</li> <li>・倫理</li> <li>・災害対策</li> </ul> <p>ISO対象必須トレーニングB</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化学物質</li> <li>・廃棄物管理</li> <li>・患者守秘義務</li> </ul> <p>A, B：各年1回</p> <p>全員（当日不参加はWeb配信で受講）</p>
<p>8. 研修の主な内容</p>          <p>研修の期間・実施回数</p>  <p>研修の参加人数</p>	<p>診療放射線技師を対象に、以下の研修会を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①コロナ対応に関する情報共有（CT）</li> <li>②コロナ対応に関する情報共有（XA）</li> <li>③Let's create a new era together！</li> <li>④ISO-9001 医療の質マニュアルを紐解く</li> <li>⑤ISOからヒントを得た業務改善と学術活動</li> <li>⑥外を知ること</li> <li>⑦救急CTの基礎と応用－交代勤務の質は上げられるのか？－</li> <li>⑧放射線施設の導入から申請まで</li> <li>⑨情報セキュリティ_2020</li> <li>⑩医療画像のDeep Learningについて</li> </ol> <p>各30分、10回</p> <p>(2020/6/11, 6/25, 7/2, 7/9, 8/20, 8/27, 11/12, 11/19, 11/26, 12/24)</p> <p>①47名 ②39名 ③44名 ④36名 ⑤35名 ⑥37名 ⑦37名 ⑧34名 ⑨29名 ⑩27名</p>

9. 研修の主な内容	診療放射線技師を対象に、国立がん研究センター中央病院人事交流成果報告を実施した。
研修の期間・実施回数	1回（2021/1/22）
研修の参加人数	28名
10. 研修の主な内容	診療放射線技師を対象に、PET-MR勉強会（GEHC）を実施した。
研修の期間・実施回数	1回（2020/8/13）
研修の参加人数	37名
11. 研修の主な内容	診療放射線技師を対象に、以下の他大学等との学術交流会を実施した。 ①京大・東大・がんセンター放射線先端学術交流会「各施設での新型コロナ感染対策・各施設での新型コロナ渦における就業体制・職場管理」 ②京大・京府立医大・滋賀医大診療放射線技師学術交流会「施設紹介・各施設でのCovid-19対応」
研修の期間・実施回数	①2020/9/25 ②2020/11/6
研修の参加人数	①38名 ②32名
12. 研修の主な内容	看護師・臨床工学技士を対象に、人工呼吸器・血液浄化・除細動器・人工心肺装置及び補助循環装置・閉鎖式保育器・新規医療機器の安全な使用方法について実施した。
研修の期間・実施回数	計82回（2020/4/1～2021/3/31）及びe-ラーニング
研修の参加人数	2,329名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）	
1. 研修の主な内容	看護師を対象に、管理者研修、実習指導者研修を実施した。
研修の期間・実施回数	11時間35分、6回（オンラインライブ研修を含む）
研修の参加人数	のべ54名
2. 研修の主な内容	診療放射線技師を対象に、以下の管理業務に関する研修を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・総務管理</li> <li>・医療安全管理</li> <li>・感染対策管理</li> <li>・情報管理</li> <li>・学術法規・災害管理</li> <li>・治験・臨床研究管理</li> <li>・人材育成管理</li> </ul>
研修の期間・実施回数	2回（2020/4/1, 2）
研修の参加人数	各8名
3. 研修の主な内容	診療放射線技師を対象に、診療グループにおける管理業務に関する研修を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①京大病院の内用療法（内照射治療）</li> <li>②放射線治療 患者固定具とセットアップ2</li> <li>③呼吸器 核医学検査の基礎</li> <li>④膵臓癌の放射線治療</li> <li>⑤導入予定MR新装置の紹介とMR禁忌の体内外付属物について</li> <li>⑥Innovation Bone Mineral Density, Basics of Osteoporosis</li> <li>⑦アノテーションについて</li> <li>⑧Surface Guided Radiation Therapy</li> <li>⑨画像誘導放射線治療における極低線量CBCTに関する基礎的検討</li> <li>⑩小児心臓CT</li> </ul>
研修の期間・実施回数	10回 (2020/7/16, 7/30, 9/10, 9/17, 10/1, 10/8, 10/22, 12/03, 12/10, 12/17)
研修の参加人数	①41名 ②40名 ③37名 ④33名 ⑤29名 ⑥29名 ⑦28名 ⑧29名 ⑨32名 ⑩32名
4. 研修の主な内容	医療器材部職員を対象に、医療機器の安全使用に関する研修会を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本医療安全学会主催 看護安全技術研修会2020</li> <li>・日本医療安全学会主催 医療安全教育セミナー（技術編）2020</li> </ul>
研修の期間・実施回数	各1回（2020/8/6, 2020/11/13）
研修の参加人数	各1名

<p><b>5. 研修の主な内容</b></p> <p>①脳波：ペーストの塗布について</p> <p>②脳波計：EEG1260説明会</p> <p>③脳波計：EEG1274説明会</p> <p>④超音波装置：新3機種説明会</p> <p>⑤検査室における注意事項</p> <p>⑥患者急変時の緊急対応訓練</p> <p>⑦検査注意事項</p> <p>⑧AED説明会</p> <p>⑨コールドルーム脱出訓練</p> <p>⑩精度管理報告</p> <p><b>研修の期間・実施回数</b></p> <p><b>研修の参加人数</b></p>	<p>検査部の職員を対象に、以下の研修を実施した。</p> <p>①脳波：ペーストの塗布について</p> <p>②脳波計：EEG1260説明会</p> <p>③脳波計：EEG1274説明会</p> <p>④超音波装置：新3機種説明会</p> <p>⑤検査室における注意事項</p> <p>⑥患者急変時の緊急対応訓練</p> <p>⑦検査注意事項</p> <p>⑧AED説明会</p> <p>⑨コールドルーム脱出訓練</p> <p>⑩精度管理報告</p> <p>①1回 ②1回 ③1回 ④1回 ⑤1回 ⑥1回 ⑦1回 ⑧1回 ⑨3回 ⑩1回</p> <p>①23名 ②19名 ③19名 ④13名 ⑤22名 ⑥22名 ⑦22名 ⑧22名 ⑨25名</p> <p>⑩8名</p>
<p><b>③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の主な内容</li> <li>・研修の期間・実施回数</li> <li>・研修の参加人数</li> </ul>	

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
管理責任者氏名	病院長 宮本 享		
管理担当者氏名	薬剤部長	寺田 智祐	総務課長 一條 敬一
	医務課長	西井 美歩	医療安全管理室長 松村 由美
	医療サービス課長	山本 誠	医療情報企画部長 黒田 知宏
	感染制御部長	長尾 美紀	医療器材部長 万代 昌紀

			保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カルテは電子カルテと紙カルテの2種類を管理及び保管している。</li> <li>・2005年に電子カルテを導入しており、それ以前の紙カルテについては20年の保存期間を設けて病歴管理室にて保管している。</li> <li>また、紙媒体で生成される各種検査資料及び同意書等については、原則、電子印章付きのシキヤで取り込み、電子データを原本として電子カルテに保存している。</li> <li>・画像フィルムは、2013年4月に全てのモダリティのフィルムレス化を実施しており、それ以降原則、現物保管はしていない。</li> <li>・カルテを病院外に持ち出すことは個人情報保護のため認めていない。</li> </ul>
		各科診療日誌	医療情報企画部・医務課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医療情報企画部・医務課	
		看護記録	医療情報企画部・医務課	
		検査所見記録	医療情報企画部・医務課	
		エックス線写真	医療情報企画部・医務課	
		紹介状	医療情報企画部・医務課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報企画部・医務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画像フィルムは、2013年4月に全てのモダリティのフィルムレス化を実施しており、それ以降原則、現物保管はしていない。</li> <li>・カルテを病院外に持ち出すことは個人情報保護のため認めていない。</li> </ul>
		従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医務課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医務課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医務課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務課・薬剤部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンの電子ファイルおよび紙媒体で管理。</li> </ul>
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室・医療サービス課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室・医療サービス課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室・医療サービス課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室・医療サービス課	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	パソコンの電子ファイルおよび紙媒体で管理。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部・医療サービス課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部・医療サービス課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部・医療サービス課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療器材部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療器材部・医療サービス課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療器材部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療器材部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	パソコンの電子ファイルおよび紙媒体で管理。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	
		医療安全管理部門の設置状況	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
		監査委員会の設置状況	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	
		職員研修の実施状況	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	
		管理者が有する権限に関する状況	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	事務部長 久保 公四郎		
閲覧担当者氏名	総務課長 一條 敬一		
閲覧の求めに応じる場所	総務課内		
閲覧の手続の概要			
1. 閲覧申込	総務課		
2. 承認者	事務部長		
3. 閲覧方法	指定した日時総務課内		
4. 返却方法	当日総務課へ返却		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本理念</li> <li>2. 組織と体制</li> <li>3. 医療事故収集とサーベイランス</li> <li>4. 重大事故発生時の報告体制</li> <li>5. 安全管理に係る研修の実施</li> <li>6. マニュアル・対応指針等の作成</li> <li>7. 診療情報等の共有と開示</li> <li>8. 患者及び家族からの相談等への対応</li> <li>9. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（ 有・無 ）</li> <li>・ 開催状況：年11回</li> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本院における医療事故の防止及び医療の安全性確保に関すること。</li> <li>2. 本院において重大な問題その他、委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における、速やかな原因究明のための調査及び分析に関すること。</li> <li>3. 2. の分析の結果を活用した、医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施、並びに職員等への周知に関すること。</li> <li>4. 3. の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。</li> <li>5. 医療に係る安全管理のため、職員等の医療の安全に関する意識、他の職員等と相互に連携して業務を行うことについての認識、業務を安全に行うための技能の向上等を目的として、医療に係る安全管理のための基本的な事項及び具体的な方策についての職員等研修に関すること。</li> <li>6. 医療に関する安全管理指針の策定及び変更に関すること。</li> <li>7. その他医療安全管理に関すること。</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全に関するe-learning part1                   <ol style="list-style-type: none"> <li>①患者安全とは</li> <li>②患者安全におけるヒューマンファクターズの重要性</li> <li>③患者安全のためのシステム思考</li> <li>④患者安全のためのチームワーク</li> </ol> </li> <li>2. 医療安全に関するe-learning part2                   <ol style="list-style-type: none"> <li>①エラーに学び、害を防止する</li> <li>②リスクの理解とリスクマネジメント</li> <li>③品質改善の手法を用いた医療の改善</li> <li>④患者や介護者との協働</li> </ol> </li> </ol> </li> </ul>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( ☒ ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  1. 各種安全管理マニュアル・指針等の整備と運用状況のモニター、改訂作業
  2. 安全に関する部門連携・委員会活動
    - ・ 医療安全管理委員会の定期開催
    - ・ リスクマネージャー会議の定期開催
    - ・ 医療安全、医薬品安全管理、医療機器安全管理、医療放射線安全管理に関する小委員会の定期開催
    - ・ 多職種間（部門横断的）インシデント検討会の定期開催
    - ・ 各種WG開催
    - ・ 高難度医療・未承認医薬品等管理室との連携
  3. 職員への安全教育
    - ・ e-learning、院内事例報告会
    - ・ 医療安全ニュース、周知依頼事項の配信
    - ・ リスクマネージャーメールマガジンの発行

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>感染対策に関する基本方針</li> <li>感染対策組織の概要</li> <li>関連委員会及び会議の開催</li> <li>感染制御部（ICT）の業務内容、教育、サーベイランス等</li> <li>感染アウトブレイク（集団発生）時の対応</li> </ul> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年74回
<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>院内感染対策委員会 1回/月（必要に応じて随時開催）</li> <li>感染対策業務会議 1回/年（必要に応じて随時開催）</li> <li>リンクナース会議 7回/年（感染対策業務会議含む）</li> <li>ICT・ASTカンファレンス 1回/週（必要に応じて随時開催）</li> </ol> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年11回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> <li>院内動画配信 <ul style="list-style-type: none"> <li>手指衛生</li> <li>休務が必要な感染症</li> <li>ブツブツ感染症</li> <li>手指衛生・薬剤耐性菌の動向と抗菌薬</li> <li>経路別予防策</li> <li>抗菌薬の適正使用</li> </ul> </li> <li>Web講習会 <ul style="list-style-type: none"> <li>2020年8月 6日『COVID-19の院内感染対策』</li> <li>2020年8月17日『COVID-19 PCR検査の適応と検査法の変更について』</li> <li>2020年9月 1日『新型コロナウイルス感染症の感染対策 ver. 2』</li> <li>2020年9月24日『新型コロナウイルス感染対策～隔離対策の継続期間と休務期間の改訂』</li> <li>2020年9月30日『新型コロナウイルス感染対策～隔離対策の継続期間と休務期間の改訂』</li> </ul> </li> </ol> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</li> <li>その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>感染対策サーベイランスの実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤耐性菌サーベイランス</li> <li>カテーテル関連尿路感染（CAUTI）サーベイランス</li> <li>中心静脈カテーテル関連血流感染（CLABSI）サーベイランス</li> <li>カテーテル由来血流感染（CRBSI）サーベイランス</li> <li>手術部位感染サーベイランス</li> </ul> </li> </ol> </li> </ul>	

- ・抗菌薬サーベイランス
- 2. 職業感染防止及び血液体液曝露後の対策
  - ・入職時の抗体価検査（B型肝炎、麻疹、水痘、ムンプス、風疹）
  - ・ワクチン接種（B型肝炎、インフルエンザ、麻疹、水痘、風疹、ムンプス）
  - ・針刺し防止マニュアル作成・周知、針刺し防止器材の積極的な導入
  - ・職業感染曝露後の対応
    - －針刺し、血液・体液曝露（ワクチン、グロブリン等）
    - －結核（IGRA：インターフェロン- $\gamma$ 遊離試験、予防投薬）
    - －小児ウイルス性疾患（抗体確認、緊急ワクチン接種、休務規定）
  - ・結核感染高リスク部署の職員への結核定期検診
  - ・透析スタッフへの肝炎検査
- 3. 新型コロナウイルス対策
  - ・週に2回、病院長を中心に執行部・感染制御部によるCOVID-19対策会議を開催
  - 基本的な病院の方針を同会議で決定
  - 実際の運用内容を各担当者が決定し、院内全体に周知
  - （例：COVID-19患者の応需、休務方針、COVID-19スクリーニング体制など）

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年49回
<p>・ 研修の主な内容：            医薬品での事故防止に係る本院職員の意識向上と安全管理、及び薬剤師としての資質向上のため次の通り研修会等を開催した。</p> <p><u>全職種を対象</u>            ◆（医薬品安全使用のための研修会）            日時：2020年8月～2021年3月 e-learning            受講人数：2,113名            演題：『医薬品の安全使用について』            講師：薬剤部リスクマネージャー 深津祥央</p> <p><u>病棟スタッフを対象</u>            ◆（医薬品安全使用のための研修会）            医薬品の使用上の注意点等について、病棟毎のニーズに合わせて、看護師・医師を主な対象とした研修会を開催している。病棟担当薬剤師が講師を務めている。年22回</p> <p><u>薬剤師を対象</u>            ◆（医薬品安全使用のための研修会：採用医薬品説明会・部員会）            新規採用医薬品の説明会を原則毎月開催し、新規採用医薬品の説明と位置づけ及び添付文書改訂情報、安全性情報、医薬品の取扱い等についての説明と情報の共有化を図っている。年10回            また、毎月開催する部員会において、警鐘すべきインシデント事例の情報を共有し、再発防止策の検討と注意喚起を行い、業務改善に努めている。年12回</p> <p><u>新採用者を対象</u>            ◆（研修医・医師オリエンテーション講義） 2020年4月1日 197名            ◆（看護部新規採用者オリエンテーション講義） 2020年4～5月 170名（動画視聴）            ◆（薬剤部新入職員講義） 2020年4月1日 9名            ◆（看護部静脈注射輸液管理認定プログラム講義） 2020年4～5月 167名（動画視聴）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有・無）            ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：            1. 医薬品の採用に関すること            2. 医薬品の購入に関すること            3. 薬剤部における医薬品の管理に関すること            4. 病棟・各部門への医薬品の供給に関すること            5. 外来患者への医薬品使用に関すること            6. 病棟・外来・中央診療施設における医薬品の管理に関すること            7. 入院患者への医薬品使用に関すること            8. 医薬品の適正使用に関すること            9. 医薬品の安全使用に係る情報に関すること            10. 他施設（医療機関・薬局等）との連携に関すること            以上の業務内容について、手順書に基づく業務の実施状況を調査した。</p>	

○医薬品安全管理補助者の指名を受けた薬剤師が、「医薬品安全使用の業務手順書遵守確認票」により確認し、不十分な点は改善指導をした。

- ・ 外来・中央診療棟 各部署半期に1回を目安に実施
- ・ 病棟 2021年1月4日～8日実施
- ・ 薬剤部 2021年1月4日～8日実施

○いずれも最終的に医薬品安全管理責任者が確認をした。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)

- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :

別紙1「未承認等の医薬品の具体的な使用事例」

- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

- 1) 医師からの採用依頼があった新規医薬品に関して、採用開始6ヶ月及び1年後に、採用を申し出た医師に対して「新規採用医薬品副作用予備調査票」を送付・回収することにより、院内で発生した副作用情報を収集している。
- 2) 副薬剤部長1名が薬剤部リスクマネージャーを兼任し、毎週開催される医療安全小委員会にて院内の情報を収集、業務改善を協議すると共に、医薬品関連のインシデントレポートをもとに薬剤部内に警鐘事例を周知している。また副薬剤部長間でインシデント情報を共有し、薬剤業務改善の方策を立てることで医薬品安全使用の質的改善を推進している。
- 3) 処方・注射オーダーリングシステムに対し、インシデントレポートで提議された報告を基に薬剤誤投与防止機能について運用を含めて修正し、医師の業務負担を軽減し、医療事故を未然に防止すると共に、必要なデータベースを構築し、維持・管理している。
- 4) 全職員を対象に、緊急安全性情報や医薬品・医療機器等安全性情報などの注意喚起情報、医薬品の採用・削除などの医薬品情報をアナウンスメールで発信している。アナウンスメールしたものの中からピックアップして、リスクマネージャー会議で周知依頼するとともに、周知状況を確認している。
- 5) オーダーリングシステムによる警告（相互作用、過量投与、アレルギー既往歴、妊婦禁忌、等を含む）を通過した処方せんは、調剤時に薬剤師が電子カルテ記載内容を確認し、処方内容に疑義がある場合は医師に照会している。適応外使用や禁忌の使用については「適応外・禁忌・未承認薬データベース」に入力している。
- 6) 入院患者の持参薬の内容確認を薬剤師が行い、患者と面談して服薬状況等を情報収集するとともに、個々の患者に合わせたより適正な使用となるよう、医師に服薬計画を提案している。
- 7) 病棟薬剤師が電子カルテ上で指示受けや処方内容評価をする際、用法・用量等のチェックに加えて、未承認薬や適応外使用に該当しないか、禁忌に該当しないかを把握し、該当する場合は医師に必要性を確認している。収集した情報は「適応外・禁忌・未承認薬データベース」に入力している。医薬品安全管理補助者がデータベースの内容を確認してまとめ、医薬品安全管理責任者に報告している。
- 8) 医師との連携により、院外処方せん交付患者に対して初回投与時の抗がん剤の服薬指導を行い、副作用等の説明及びその対処を指導して、医薬品安全使用を推進している。
- 9) 地域保険薬局との連携の一環として、患者の検査値の一部を院外処方せんに記載している。保険薬局で処方監査時に検査値を参照することで、適正で安全な薬物療法推進につながる。
- 10) 保険薬局にて患者から聴き取った情報のうち、即時性は低いものの「処方医師への提供が望ましい」と判断された内容を服薬情報提供書(トレーシングレポート)で受け付けている。薬剤部にて集約したのち、医師へ情報提供を行い、情報の共有化を図っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年117回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 放射線関連機器について</p> <p>○高度管理医療機器の研修として、以下の研修を実施した。</p> <p>診療用高エネルギー放射線発生装置と診療用放射線照射装置に関し以下の研修を実施した。</p> <p>1) 令和2年12月10日～令和3年1月31日に関連する医療従事者を対象に第1回 診療用高エネルギー放射線発生装置のwebを用いた研修を実施した。 (参加者 43名(内研修対象者 43名+外部 0名), 欠席 12名)</p> <p>2) 令和2年12月10日～令和3年1月31日に関連する医療従事者を対象に第1回 診療用放射線照射装置のwebを用いた研修を実施した。 (参加者 43名(内研修対象者 43名+外部 0名), 欠席 12名)</p> <p>3) 令和3年3月1日～21日に関連する医療従事者を対象に第2回 診療用高エネルギー放射線発生装置のwebを用いた研修を実施した。 (参加者 36名(内研修対象者 36名+外部 0名), 欠席 16名)</p> <p>4) 令和3年3月1日～21日に関連する医療従事者を対象に第2回 診療用放射線照射装置のwebを用いた研修を実施した。 (参加者 36名(内研修対象者 36名+外部 0名), 欠席 16名)</p> <p>* 欠席者に対しては資料確認により補講を実施した。</p> <p>* 当初対面での実施を検討していたため、コロナの状況を勘案し外部の方(研修対象外)の参加は見送った。</p> <p>○新規・更新装置導入時の研修として、以下の研修を実施した。</p> <p>1) 磁気共鳴断層撮影・半導体PET一体型装置：SIGNA PET/MR(安全操作説明・緊急時対応)新規導入時研修。令和2年4月20日 出席 18名(うち研修対象者 16名, 欠席者 8名)</p> <p>2) X線透視装置：SONIAL Vision G4(安全操作説明・緊急時対応)新規導入時研修。令和2年10月9日 出席24名(うち研修対象者 26名, 欠席者 2名)</p> <p>3) 乳房専用PET装置：Elmammo Avant Class(安全操作説明・緊急時対応)新規導入時研修。令和2年11月24日 出席7名(うち研修対象者 12名, 欠席 5名)</p> <p>4) MR用造影剤自動注入器(インジェクター)：ソニックショット7(安全操作説明・緊急時対応)新規導入時研修。令和2年12月21日 出席12名(うち研修対象者 12名, 欠席 0名)</p> <p>5) 磁気共鳴画像診断装置：SOMATOM Sola(安全操作説明・緊急時対応)新規導入時研修。令和3年1月25, 26日 出席38名(うち研修対象者 36名, 欠席 16名)</p> <p>6) 骨密度測定装置：Hologic Horizon(安全操作説明・緊急時対応)新規導入時研修。令和3年1月29日 出席5名(うち研修対象者 5名, 欠席 0名)</p> <p>7) 磁気共鳴画像診断装置：SOMATOM Veda(安全操作説明・緊急時対応)新規導入時研修。令和3年3月22, 23日 出席9名(うち研修対象者 9名, 欠席 0名)</p> <p>8) 据置型デジタル式汎用X線透視診断装置：Versi Flex VISTA(安全操作説明・緊急時対応)新規導入時研修。令和3年3月30日～4月2日 出席52名(うち研修対象者 41名, 欠席 0名)</p> <p>* 欠席者に対しては資料確認により補講を実施した。</p>	

2. ME 関連機器について

- 1) 2020年度中に医師・看護師・臨床工学技士を対象として人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・人工心肺装置及び補助循環装置等・閉鎖式保育器の安全な使用方法についての研修を計29回実施した。除細動器及び人工呼吸器に関してはe-ラーニングでの研修を実施している。  
その他医療機器・新規医療機器についての研修を計75回実施した。
- 2) 2020年4月に新人看護師、研修医を対象として、輸液・シリンジポンプ・人工呼吸器の使用方法について研修を実施した。

③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況

- ・ 医療機器に係る計画の策定 ( 有・無 )
- ・ 機器ごとの保守点検の主な内容：
  1. 放射線関連機器について
    - ・ 放射線機器等については年度点検実施計画を作成し、各部門担当者を決めて以下の内容について定期的な点検を実施している。
      - 機器の動作状況、設定状況、制御状況、画質の確認・検査・清掃・試験・調整・記録及び医療機器安全管理責任者が確認、押印している。
      - 日々の始業終業点検について、各部門において担当者を決めて点検表にて確認、記録及び医療機器安全管理責任者が確認、押印している。
      - 高度な技術を要する修理、オーバーホールはメーカーに依頼している。
  2. ME 関連機器について
    - ・ 医療機器の点検周期に沿って、院内点検とメーカー点検を実施している。
      - 臨床工学技士の点検においては、実施可能なバッテリー交換・各種センサー・フィルター等の定期交換を実施している。
      - 高度な技術を要する修理、オーバーホールはメーカーに依頼している。

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)：
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  1. 放射線関連機器について
    - ・ 血管造影、CT・透視、MR、RI、放射線治療系の各部門において、多職種（医師、看護師、技師）での品質管理（QA）委員会を、月例開催または2～3ヶ月に1回開催している。
    - ・ 一般撮影+血管造影+CT・透視グループ、MR+RIグループ、放射線治療の3つのグループにおいて、診療放射線技師の定例会議を月例で開催している。
  2. ME 関連機器について
    - ・ 医療機器に関する安全情報は医療安全管理室と協力して医療従事者に周知する体制をとっている。
    - ・ 医療機器の安全使用を目的として、中央管理機種の一掃を推し進めている。
    - ・ 臨床工学技士が随時医療機器の安全な使用状況確認のための巡回を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 責任者の資格（医師→歯科医師）</li> <li>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</li> </ul> <p>常勤医師の副病院長（医療安全担当）を医療安全管理責任者として配置している。また、医療安全管理責任者は医療安全管理委員会の委員長であり、医療安全管理委員会のもとに医薬品安全管理小委員会（委員長：医薬品安全管理責任者）、医療機器安全管理小委員会（委員長：医療機器安全管理責任者）、医療放射線安全管理小委員会（委員長：医療放射線安全管理責任者）、臨床研究安全管理小委員会（委員長：臨床研究安全管理責任者）を統括している体制となっている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（11名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）原則として月1回、電子カルテのアプリケーション「医薬品使用状況」、薬剤管理指導支援システムの薬歴検索機能、薬剤物流システムの薬剤オーダー集計機能などを用い、医薬品の投薬及び注射の状況の把握を行っている。</li> <li>（2）医薬品医療機器情報配信サービス等を利用して、医薬品・医療機器の安全性に関する特に重要な情報を入手している。医薬品製造販売業者、卸売販売業者からの情報収集は、医薬品情報室で一元的に行っている。要対応と判断した事例は、随時、医薬品安全管理責任者に報告している。</li> <li>（3）院内で発生した医薬品の副作用、インシデント等の情報は、病棟薬剤師が随時収集・評価を行っている。また、医薬品の新規採用後6ヶ月、1年を経過した時点で、採用依頼を提出した医師に副作用調査票の提出を委嘱し、医薬品情報管理室で集約している。インシデント報告の情報は薬剤部リスクマネージャーを通して入手している。要対応と判断した事例は、随時、医薬品安全管理責任者に報告している。</li> <li>（4）疑義照会、質疑応答記録、処方内容評価を元にした「適応外・禁忌・未承認薬データベース」より、未承認等の医薬品の使用状況を把握し集計するとともに、月1回、医薬品安全管理責任者に報告している。</li> <li>（5）全職員を対象に、緊急安全性情報や医薬品・医療機器等安全性情報などの注意喚起情報、医薬品添付文書の改訂情報（禁忌の追加・解除など）、インシデント報告から安全使用上周知が必要と思われる医薬品情報などをアナウンスメールで発信している。これらをまとめた「適正な医薬品使用のための情報」を全リスクマネージャー宛に周知依頼し、各部署からの周知完了日等の報告をもって、実施状況を確認している。</li> <li>（6）薬剤使用時の注意点や薬剤に関する情報（インシデント報告を元にした対応を含む）を適宜「DI ニュース」等で提供している。病棟薬剤師は資料を担当診療科・病棟にて周知し記録を残している。アナウンスメールでも同時に配信している。</li> <li>（7）病棟薬剤師は、医薬品の使用上の注意点等について、病棟毎のニーズに合わせて、看護師・医師を対象とした説明会を行い、実施の記録を残している。</li> </ol>	

・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

- (1) オーダリングシステムによる警告（相互作用、過量投与、アレルギー既往歴、妊婦禁忌を含む）を通過した処方せんは、調剤時に薬剤師が電子カルテ記載内容を確認し、処方内容に疑義がある場合は医師に照会している。禁忌や適応外の処方を変更せず使用する場合は、患者への説明とカルテ記載を依頼し、リスクに応じて、医薬品安全管理小委員会あるいは高難度医療・未承認医薬品等室への申請が必要なことを伝えている。収集した情報は「適応外・禁忌・未承認薬データベース」に入力している。
- (2) 病棟薬剤師が電子カルテ上で指示受けや処方内容評価をする際、用法・用量等のチェックに加えて、未承認薬や適応外使用に該当しないか、禁忌に該当しないかを把握し、該当する場合は医師に必要性を確認している。禁忌や適応外の処方を変更せず使用する場合は、患者への説明とカルテ記載を依頼し、リスクに応じて、医薬品安全管理小委員会あるいは高難度医療・未承認医薬品等管理室への申請が必要なことを伝えている。収集した情報は「適応外・禁忌・未承認薬データベース」に入力している。
- (3) 「適応外・禁忌・未承認薬データベース」に入力された情報は、病棟業務リーダー（医薬品安全管理補助者）が並行して確認し妥当性を評価している。さらに一覧表形式にまとめて医薬品安全管理責任者に報告し、指示事項があれば、病棟薬剤師を通じて医師にフィードバックしている。
- (4) 薬剤師が把握した未承認等の医薬品の使用に関する情報は「医薬品安全管理小委員会」に報告し情報共有している。

・ 担当者の指名の有無（ ☒ ・ 無 ）

・ 担当者の所属・職種：別紙 2「医薬品安全管理補助者指名書」の通り

（所属：                      ， 職種                                      ）	（所属：                      ， 職種                                      ）
（所属：                      ， 職種                                      ）	（所属：                      ， 職種                                      ）
（所属：                      ， 職種                                      ）	（所属：                      ， 職種                                      ）
（所属：                      ， 職種                                      ）	（所属：                      ， 職種                                      ）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

☒ ・ 無

- ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：  
 年 4 回、診療科（部）毎に 1 か月 5 例を無作為に選択し、インフォームド・コンセントの過程がわかるように説明内容、説明時反応、同席者が記載されているか等、チェック項目に基づき確認を行っている。適切でない事例が認められた場合は、IC 責任者より、上記の評価結果を医療問題対策・臨床倫理委員会へ報告するとともに、病棟医長・看護師長会議や病院協議会等を通じ、院内の各部署へ周知する。また、インフォームド・コンセントを受けた患者に対して、同席者の有無、理解、納得について年 3 回のアンケート調査を行い、インフォームド・コンセントの質向上に努めている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 責任者の監督下において診療情報管理士による診療録監査を年2回16診療科に実施しており、監査結果は病院長承認後に各診療科へフィードバックを行っている。</li> </ul>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>所属職員：専従（3）名、専任（1）名、兼任（3）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（1）名</li> </ul> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>インシデント・アクシデント報告に関すること。</li> <li>医療安全管理対策の調査・分析及び指導に関すること。</li> <li>医療安全管理対策の教育・研修に関すること。</li> <li>定められた手順やルールが実践されているかどうかのモニタリング。</li> </ul> </li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>①画像診断結果報告書の未確認件数（月別、診療科別） （ルール：放射線診断科医が読影診断結果を報告している。オーダー診療科の医師が報告内容を確認後、確認ボタンを押すと、報告書の内容がカルテに転記される。カルテへの転記がない場合、報告内容の確認がされていない可能性があるため、診断結果の見落としエラー対策として作成したルールである。併せて、未読影率をフィードバックする。）</li> <li>②注射薬を患者に投与する直前に、照合端末を用いて、薬剤ラベルと患者リストバンドを照合した率（月別、病棟別） （ルール：注射薬投与時は患者誤認事故をゼロにするため、ひとによる確認＋器械による確認を組み合わせる。）</li> <li>③抗がん剤の調製確定後の変更件数（月別、診療科別） （ルール：医師が抗がん剤を前日締め切り時刻までにオーダーし、前日締め切り後に薬剤師が監査する。当日10時までに医師は、患者に投与してよいか患者の状態やデータで判断し、調製確定を入力する。薬剤師は確定されたオーダーに基づいて薬剤を調製する。）</li> <li>④バイタルデータターミナルを用いてバイタルデータを転送している率（月別、病棟別） （ルール：血圧、体温、SpO2、脈拍などのデータは、患者ベッドサイドに設置した端末にかざすことで、当該患者の電子カルテにタイムリーに転送される。今までは、看護師が電子カルテに転記していたため、測定時刻から転記まで時間がかかっていた。また誤記も散見された。）</li> <li>⑤患者誤認報告件数 （ルール：全ての医療・看護行為を実施する際は、患者自身にフルネームで名乗らせる。名乗れない場合は、リストバンドもしくは診察券で確認をする。）</li> <li>⑥患者受け持ち忘れ報告件数 （ルール：受け持ち看護師は、勤務初めに受け持ち登録を実施する。各勤務帯リーダー看護師は、勤務開始後1時間以内に受け持ち患者登録漏れがないかを確認する。）</li> </ol>	

- ・ ルールの逸脱（やむを得ない場合も含む）をインシデント報告対象として、逸脱件数を測定する。
  - ①入院患者へのリストバンド未装着（月別、病棟別）  
（全員にリストバンドを装着するルールがあるが、皮膚の脆弱性などでやむを得ない場合も含め、未装着は全例報告する。）
  - ②高濃度カリウム製剤投与に関する院内規程からの逸脱事例  
（医学的理由があっても、ルールから逸脱している場合には報告しておく。）
- ・ リスクアセスメント（褥瘡リスク・転倒リスク）のアウトカムを評価するための事故件数のモニタリング。
  - ①院内褥瘡発生率
  - ②転倒転落事故発生
- ・ その他医療安全管理対策に関すること。

- ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
- ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 6 件）、及び許可件数（ 3 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 

「京都大学医学部附属病院高難度新規医療技術取扱規程」に、高難度新規医療技術の定義、高難度新規医療技術の提供に係る申請事項（既存の技術との優位性、医療提供体制の整備状況、執刀医等の経験、患者への説明同意の取得方法等）、倫理委員会審査の受審、実施体制の確認及び報告、遵守状況の確認、病院長への報告など、高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合における必要な事項、遵守・確認すべき事項を定め活動している。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 47 件）、及び許可件数（ 40 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：  
「京都大学医学部附属病院未承認新規医薬品等取扱規程」に、未承認新規医薬品等を用いた医療の定義、未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に係る申請事項（既存の医薬品等との優位性、未承認新規医薬品等の使用条件、有害事象の把握方法、患者への説明同意の取得方法等）、倫理委員会審査の受審、実施体制の確認及び報告、遵守状況の確認、病院長への報告など、未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合における必要な事項、遵守・確認すべき事項を定め活動している。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 222 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 128 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容  
医療サービスに起因し、影響度レベルが重症・重大なものについて、医療安全管理室は、毎月開催の医療安全管理委員会にて報告する。委員会では、これらのうち、調査が必要と判断したものについては、外部委員を含めるか含めないかなども含め、調査方法を決定する。また、影響度レベルが 3a 以下または未遂であっても、インシデントが潜在的に危険を有しているものがあれば、調査を命じることがある。医療安全管理委員会の審議結果は病院長に報告される。調査結果についても医療安全管理委員会及び病院長に報告される。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り（ ☒ （病院名：奈良県立医科大学） ・ 無）
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ ☒ （病院名：和歌山県立医科大学） ・ 無）
- ・ 技術的助言の実施状況

立入り後に技術的助言を含む報告書として取りまとめ、相手方病院へ送付した。

立入り受入れ後には相手方病院から技術的助言を含む報告書を受け取り院内で周知対応した。

1. 医療安全管理部の人員配置について、医療安全の質の担保につなげるため、前任者と後任者が重複する勤務期間を設ける取り組みの推奨があった。看護師は以前より 2 名の配置。医師については、本年 4 月より 2 名兼任となり、業務を引き継げる体制をとっている。薬剤師について

は専従 1 名のみであるが、薬剤部に申し入れを行っている。

2. 副作用が起こった場合、医薬品安全管理責任者への報告は速やかに行われているが、システム上の投与回避ができておらず、薬剤アレルギー登録することで代用している事について指摘があった。投与回避や薬剤の再投与防止については、登録理由の記載などを含め、2022 年 1 月のシステムリプレイスに向け要望を行っている。
3. 手術室で高難度医療の実施状況を把握しやすくするため、管理室に看護師を配置するといった対応の推奨があった。既に手術室看護師長を高難度医療等管理室の室員に加えており、対応できる状況である。
4. 高難度医療の申請書に、実施体制変更に伴う場合の書式も示されているが、定期的な実施体制を確認するルール設定がない旨、指摘があった。既に年 2 回の各診療科長への実施体制確認を行うことが決定している。また、高難度新規医療技術の実施状況を手術室全体で把握しやすいように、管理室に臨床工学技士を配置する取り組みの推奨があった。臨床工学技士の配置については、当院では全分野に精通する技士がいないなどの課題もあり、検討を継続する予定である。
5. 高難度医療に関する評価委員会の人員配置について、広い医学的評価を行うために、医師以外の多様な職種の配置する取り組みの助言があった。評価委員会には、既に、外科系・侵襲を伴う内科系医師 10 人、医療安全管理室長 1 人、倫理支援部員 1 人を配置し、多角的な視点からのピアレビューを実施している。また、IC 文書の作成も、新規高難度技術として患者に伝えるべきポイントを整理し、3 名の医師が独立して校正を行っているところである。医師以外の職種の評価委員会への参加、並びに IC 文書の作成や校正方法については引き続き検討を行っていく。
6. 医療技術の適格な審査以外に、手術室全体で安全を確保するという視点から、医師以外の多様な職種の審査、評価への配置も検討するよう助言があった。既に手術室看護師を管理室員として配置しており、更に多角的な審査、管理を実施することとしている。
7. 医療安全管理部の業務内容が多岐にわたっており、業務過多になっている旨、意見があった。本年 4 月より、麻酔科医（兼任）1 名が助教となり、外科医の助教と合わせて、2 名の医師が室長の業務を引き継いでいるところである。

#### ⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

##### ・ 体制の確保状況

本院には患者やその家族からの相談、苦情に対して適切な処理を行うことを目的とする患者相談窓口がある。

各診療科（部）は、患者等からの相談内容について、患者相談窓口から対応を要請された場合は、責任をもって協力するものとする。

各診療科（部）に患者支援担当者を置き、患者等からの相談内容について患者相談窓口と連携し、責任をもって対応するものとする。

各診療科（部）のリスクマネージャーが、患者支援担当者として兼務する。

相談内容が医療安全に関する事項については、インシデント報告を行い、医療安全管理部門が把握する。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

医療安全にかかる項目について、いつでも受講可能な e-learning 整備し、受講状況をモニタリングしている。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

管理者	: 特定機能病院管理者研修 (R2. 11. 25)
医療安全管理責任者	: 特定機能病院管理者研修 (R2. 11. 11)
医薬品安全管理責任者	: 特定機能病院管理者研修 (R3. 1. 7)
医療機器安全管理責任者	: 特定機能病院管理者研修 (R2. 10. 15)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

2021 年 1 月 12 日～1 月 15 日に ISO9001 審査を受け、2021 年 3 月 14 日に再認証を受けた。

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

改善のために講ずべき措置について指摘はなかったが、当該評価の内容については、2021 年 9 月 22 日の QM(quality management) 推進委員会にて検討を予定している。

・ 評価を踏まえ講じた措置

医療安全管理プロセスを手順と記録をもとに確認され、医療安全部門に対する指摘事項はなかった。

(注) 記載時点の状況を記載すること

## 規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>基準の主な内容             <ol style="list-style-type: none"> <li>医療法第10条に規定された病院の管理者として要件を満たす医師であること。</li> <li>大学附属病院の管理運営に必要な資質・能力を有すること。</li> <li>医療安全確保のために必要な資質・能力を有すること。</li> <li>京都大学医学部附属病院の基本理念を理解し、その実現に向けた強い意思とリーダーシップを有すること。</li> </ol> </li> <li>基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> ・ 無 ）</li> <li>公表の方法 大学ホームページに掲載 <a href="https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/publication/conference/ihoukoku/hospital/rinen">https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/publication/conference/ihoukoku/hospital/rinen</a></li> </ul>

## 規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ）</li> <li>選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ）</li> <li>選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ）</li> <li>公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無



規則第 9 条の 2 3 第 1 項及び第 2 項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の  
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合議体の主要な審議内容 病院運営に関する重要事項を協議するため、協議会を置く。 協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、協議会が定める。</li> <li>・ 審議の概要の従業者への周知状況 院内ホームページに議事要旨を掲載。</li> <li>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公表の方法</li> </ul> </li> <li>・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・無 ）</li> </ul>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
別紙 3 のとおり			

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
  
- ・ 規程の主な内容：別紙4のとおり
  
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
  - ・ 副病院長（診療、労務担当）、副病院長（経営、施設担当）、副病院長（研究経営戦略担当）、副病院長（医療安全、広報担当）
  - ・ 病院長補佐（病院長が指示した特定の事項について企画立案及び連絡調整）
  - ・ 運営企画室（病院長の指示により病院運営及び経営に関し、情報の収集及び分析を行うとともに必要事項について企画立案し、病院長に提言する。）
  
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
  - ・ 全国医学部長病院長会議が主催する「医師の働き方改革緊急セミナー」に病院長が参加。
  - ・ 病院協議会構成員を病院長補佐へ積極的に選任し、週1回開催される執行部会議に出席させることで病院マネジメントを経験させている。
  - ・ 本院が開講する「実践的医療経営プロフェッショナル教育事業プログラム（KUMAHOPE）」を職員に受講させている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況					有・無	
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>    本院における医療安全管理に係る業務執行状況の監査、及び監査結果に基づき、必要に応じて総長や病院長に対し是正措置を講じるよう意見する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 公表の方法：京都大学ホームページに掲載</p>						
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）						
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況	
北村 雅史	京都大学副学 長（法務・コン プライアンス 担当）		総長が指名する副 学長	有・無	3	
平野 哲郎	立命館大学 法科大学院教授		法律に関する専門 的知識を有する者	有・無	1	
佐和 貞治	京都府立医科大 学医療安全管理 部部長		医療に係る安全管 理に関する専門的 知識を有する者	有・無	1	
伊藤 英樹	広島大学病院 医療安全管理部 部長		医療に係る安全管 理に関する専門的 知識を有する者	有・無	1	
山口 育子	認定 NPO 法人 ささえあい医療 人権センター COML 理事長	○	医療を受ける者そ の他の医療従事者 以外の者	有・無	2	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容  
監査を担当する理事のもとに公正調査監査室を設置しており、同室により本院管理者の業務が法令に適合していることを確保するための監査を行うこととしている。
- ・ 専門部署の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法：ホームページに掲載

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 以下に掲げる委員7名以上で組織されており、うち過半数は②の委員で構成されている。 ①総長が指名する理事又は副学長 ②本学の役員又は職員以外の者のうちから総長が任命するもの ③その他本学の教職員のうちから総長が必要と認める者 若干名 議長は①の委員のうち、総長が指名するものを充てており、委員の半数以上の出席で会議を開会する。</li> <li>・ 会議体の実施状況（ 年 1 回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）（ 年 1 回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：京都大学医学部附属病院業務監督会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
北村 雅史	京都大学副学長（法務・コンプライアンス担当）	○	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
村上 章	京都大学理事・副学長（財務、入試担当）		<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
黒田 啓史	京都市立病院機構 京都市立病院 院長		有 ・ <input checked="" type="checkbox"/>
田中 一成	静岡県立病院機構 静岡県立総合病院 院長		有 ・ <input checked="" type="checkbox"/>
邊見 公雄	全国自治体病院協議会 名誉会長		有 ・ <input checked="" type="checkbox"/>
松井 道宜	京都府医師会 会長		有 ・ <input checked="" type="checkbox"/>
山口 育子	認定 NPO 法人 ささえあい医療人権センターCOML 理事長		有 ・ <input checked="" type="checkbox"/>

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合  
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li><li>・ 通報件数（年 0 件）</li><li>・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li><li>・ 周知の方法 院内ホームページに掲載</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	㊦・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページ( <a href="https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp">https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp</a> )および広報誌「京大病院広報」「京大病院のご案内」( <a href="https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/relation/publish.html">https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/relation/publish.html</a> )において、各診療科の紹介や院内活動の報告等を行っている。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	㊦・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要  1) 「集学的がん診療ユニット」と呼ばれる診療科横断的な診療体制を構築している。がん種ごとに専門とする内科医・外科医・放射線治療医、あるいは病理診断医・放射線診断医・各種医療スタッフが、診療科・職種を越えてカンファレンス・診療を行い、迅速かつ最適な治療を提供している。また、がん種ごとに毎週定期カンファレンスを実施することにより、患者の情報および専門性の高い知識を共有することで医療の質を高め、専門医・スタッフの教育の場としても大きな効果を上げている。さらに、分子標的薬やがん免疫チェックポイント阻害薬の普及により、全身管理を必要とする有害事象対策が求められており、非がん領域の様々な診療科との連携体制を構築し、治療を受ける患者の安全対策に万全を期している。  2) 2019年6月より遺伝子パネル検査が保険適応となり、がんゲノム医療中核拠点病院としてがんゲノム医療を先進的に提供する体制を構築している。全国の18のがんゲノム医療連携病院と連携し遺伝子パネル検査施行症例に関して、京大をホストに各施設とWeb会議でエキスパートパネルを開催している。エキスパートパネルでは、各施設から腫瘍内科医、病理医、腫瘍外科医、婦人科医、脳外科医、小児科医、臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラーなどの複数の職種が参加して、非常に活発な議論を行い治療方針を提示し、高度な医療を提供している。	

## 未承認等の医薬品の具体的な使用事例

適応外・禁忌・未承認のデータベース集計

2020/04/01～2021/03/31



情報入手日	分類	薬剤分類	薬剤名	診療科	使用目的
2020/4/2	適応外	抗がん剤	ゲムシタビン ドセタキセル	整形外科	骨肉腫
2020/4/2	適応外	抗がん剤	サレド	血液内科	POEMS症候群
2020/4/7	適応外	抗がん剤	カルボプラチン、ペメトレキセド	呼吸器外科	胸壁腫瘍
2020/4/2	適応外	要注意薬	プロポフォール	放射線治療科	持続的鎮静
2020/4/3	適応外	要注意薬	プロポフォール静注1%50mL	脳神経外科	第3脳室腫瘍 (r/o)リンパ腫、germ cell tumor、chordoid glioma、optic nerve glioma、hypothalamic glioma)が疑われている患者。 見当識不良であり、点滴自己抜去など不穩のため術前からpropofolで鎮静し手術室入室。術後もpropofolで鎮静。明日朝CTで問題なければ、drain抜去し鎮静終了の予定。患者家族同意済み。全身管理嚴重に行いつつ使用。
2020/4/13	適応外	要注意薬	アクテムラ点滴静注用	免疫・膠原病内科	高安動脈炎に対するアクテムラ点滴静
2020/4/16	適応外	要注意薬	スロンノンHI注10mg/2mL	脳神経内科	脳梗塞に対して、スロンノンHI注10mg/2mL 60mg 72h持続投与の後、40mg 24h持続投与。
2020/4/1	適応外	その他	トシリズマブ皮下シリンジ	免疫膠原病内科	再発性多発軟骨炎
2020/4/9	適応外	その他	アビガン錠200mg	救急科	COVID-19に対する投薬
2020/4/9	適応外	その他	オルベスコ200μgインヘラー56吸入用 5.6mg	救急科	COVID-19に対する投薬
2020/4/13	適応外	その他	ホスカビル	呼吸器外科	サイトメガロウイルス感染症
2020/4/15	禁忌	要注意薬	メトグルコ錠250mg	循環器内科	糖尿病に使用

情報入手日	分類	薬剤分類	薬剤名	診療科	使用目的
2020/04/30	適応外	抗がん剤	ゲムシタビン ドセタキセル	整形外科	骨肉腫
2020/05/07	適応外	抗がん剤	シスプラチン	乳腺外科	乳癌治療
2020/05/14	適応外	抗がん剤	シスプラチン	乳腺外科	乳がん治療(NAC)
2020/04/16	適応外	要注意薬	スロンノンHI注10mg/2mL	脳神経内科	脳梗塞に対して、スロンノンHI注10mg/2mL 60mg 72h持続投与の後、40mg 24h持続投与。
2020/04/17	適応外	要注意薬	ミコフェノール250mg	免疫膠原病内科	間質性肺炎をともなう全身性強皮症
2020/04/26	適応外	要注意薬	クロピドグレル錠75mg	脳神経内科	TIA疑いに対して、プラビックス300mgをローディングとして初回投与
2020/04/28	適応外	要注意薬	プレセデックス	耳鼻咽喉科	一般病棟入室中だが他薬では鎮静できずやむなく使用
2020/05/08	適応外	要注意薬	サラゾピリン錠500mg	脳神経内科	関節リウマチ
2020/04/16	適応外	麻薬	オプソ内用液	呼吸器内科	呼吸苦
2020/04/24	適応外	その他	アビガン錠200mg	呼吸器内科	COVID-19に対する投薬
2020/04/27	適応外	その他	クリアクター静注用40万 40万国 際単位	眼科	黄斑下出血に対するt-PAの使用
2020/04/28	適応外	その他	オルベスコ200μgインヘラー56 吸入用	救急科	COVID-19に対する投薬
2020/04/30	適応外	その他	サイトテック錠200μg	産科	流産後の過多出血
2020/05/01	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	切迫流・早産に対する子宮収縮抑制
2020/05/01	適応外	その他	アビガン錠200mg	救急科	COVID-19に対する投薬
2020/05/01	適応外	その他	オルベスコ200μgインヘラー56 吸入用	救急科	COVID-19に対する投薬
2020/05/01	適応外	その他	ウトロゲスタン腔用カプセル200mg	産科	子宮頸管の短縮防止目的(双胎妊娠)
2020/05/07	適応外	その他	ブリカニール皮下注0.2mg	産科	妊娠16週未満の卵巣腫瘍術後の子宮収縮抑制
2020/04/23	禁忌	要注意薬	サインバルタカプセル20mg	泌尿器科	疼痛
2020/04/27	禁忌	その他	乾燥弱毒生水痘ワクチン	肝胆膵移植外科	感染予防のため
2020/04/27	禁忌	その他	乾燥弱毒生風しんワクチン	小児外科	感染予防のため
2020/04/27	禁忌	その他	乾燥弱毒生風しんワクチン	小児外科	感染予防のため
2020/04/27	禁忌	その他	乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	肝胆膵移植外科	感染予防のため
2020/04/27	禁忌	その他	乾燥弱毒生風しんワクチン	小児外科	感染予防のため
2020/05/12	禁忌	その他	乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	肝胆膵移植外科	感染予防のため
2020/05/12	禁忌	その他	乾燥弱毒生風しんワクチン	小児外科	感染予防のため
2020/05/12	禁忌	その他	乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	小児外科	感染予防のため
2020/05/12	禁忌	その他	チモプトールXE点眼液0.5%	眼科	喘息既往患者に対してチモプトール点眼(持参薬)使用中。

情報入手日	分類	薬剤分類	薬剤名	診療科	使用目的
2020/05/18	適応外	抗がん剤	カルボプラチン	呼吸器内科	胸膜中皮腫
2020/05/26	適応外	抗がん剤	カルボプラチン、イリノテカン、テモゾロミド	小児科	神経芽腫
2020/05/28	適応外	抗がん剤	アブラキサン/カルボプラチン	がん診療部	胸腺癌に対する治療
2020/6/8	適応外	抗がん剤	シスプラチン	乳腺外科	乳がん治療
2020/6/10	適応外	抗がん剤	カルボプラチン/エトポシド	皮膚科	メルケル細胞癌
2020/6/10	適応外	抗がん剤	アブラキサン、カルボプラチン	呼吸器内科	胸腺癌
2020/05/18	適応外	要注意薬	ポリドカスケロール1%	形成外科	血管奇形硬化療法(上口唇)
2020/05/19	適応外	要注意薬	クロピドグレル錠75mg	脳神経内科	非心原性脳梗塞急性期
2020/05/20	適応外	要注意薬	アクテムラ点滴静注	免疫・膠原病内科	再発性多発軟骨炎
2020/05/22	適応外	要注意薬	スロンノンHI注10mg	脳神経内科	BADリスク高いため
2020/05/22	適応外	要注意薬	クロピドグレル	脳神経内科	非心原性脳梗塞急性期
2020/05/25	適応外	要注意薬	スロンノンHI注10mg	脳神経内科	BADリスク高いため
2020/05/27	適応外	要注意薬	セルセプトカプセル250 250mg	皮膚科	SLE治療コントロールのため
2020/06/03	適応外	要注意薬	レミケード点滴静注用	消化器内科	クローン病
2020/06/03	適応外	要注意薬	レミケード点滴静注用	消化器内科	クローン病
2020/6/5	適応外	要注意薬	レクチゾール錠25mg	皮膚科	血管炎に対する治療
2020/6/10	適応外	要注意薬	エフィエント錠3.75mg	脳神経外科	動脈瘤に対するFRED留置後閉塞コントロール
2020/05/19	適応外	麻薬	オプソ内用液5mg	呼吸器内科	咳嗽
2020/05/19	適応外	その他	ミノサイクリン	呼吸器内科	胸膜癒着術
2020/05/20	適応外	その他	クリアクター静注用40万 40万国際単位	眼科	黄斑下出血に対するt-PAの使用
2020/05/22	適応外	その他	ミリスロール注1mg	産科	分娩時の子宮収縮抑制剤として
2020/05/25	適応外	その他	レダマイシンカプセル150mg	呼吸器内科	SIADH
2020/05/28	適応外	その他	薬用炭	泌尿器	腸管-尿路の瘻孔検査目的
2020/05/28	適応外	その他	コレバインミニ83%	肝胆膵移植外科	PSCに対して使用中
2020/06/02	適応外	その他	クリアクター静注用40万 40万国際単位	眼科	黄斑出血に対するt-PAの使用
2020/06/03	適応外	その他	ニコチン酸アミド散	皮膚科	水疱性類天疱瘡治療
2020/06/03	適応外	その他	アムビゾーム注	腎臓内科	肺アスペルギウス
2020/06/05	適応外	その他	コルヒチン錠0.5mg	心外	心膜炎予防
2020/6/5	適応外	その他	ウロナーゼ静注用6万単位	救急科	ドレナージ不良に対する線維素溶解療
2020/6/12	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	切迫流・早産に対する子宮収縮抑制
2020/6/12	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	切迫流・早産に対する子宮収縮抑制
2020/6/15	適応外	その他	マーロックス顆粒	血液内科	出血性膀胱炎治療に対して
2020/06/01	禁忌	その他	スピロノラクトン	肝胆膵移植外科	プログラフ服用中だが、入院後スピロノラクトン併用開始
2020/6/5	禁忌	その他	乾燥弱毒生麻しんワクチン	小児外科	感染予防のため
2020/6/5	禁忌	その他	乾燥弱毒生水痘ワクチン	小児外科	感染予防のため
2020/6/5	禁忌	その他	乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	小児外科	感染予防のため
2020/6/10	禁忌	その他	アゾルガ配合懸濁性点眼液	眼科	喘息患者に対する使用

情報入手日	分類	薬剤分類	薬剤名	診療科	使用目的
2020/06/16	適応外	抗がん剤	シスプラチン	乳腺外科	乳癌治療
2020/06/30	適応外	抗がん剤	サイラムザ	腫瘍内科	AFP400ng/mL未満の肝細胞癌
2020/07/02	適応外	抗がん剤	カルセド注射用20mg	がん診療部	胸腺癌
2020/07/06	適応外	抗がん剤	ゲムシタビン	腫瘍内科	胸腹膜中皮腫に対する治療
2020/06/16	適応外	要注意薬	リウマトレックスカプセル2mg	免疫膠原病内科	再発性多発軟骨炎
2020/06/22	適応外	要注意薬	ノリレン錠10mg	泌尿器科	鎮痛補助剤
2020/06/25	適応外	要注意薬	レミケード	消化器内科	不全型ベーチェット病
2020/06/25	適応外	要注意薬	ヒュミラ	免疫膠原病内科	再発性多発軟骨炎
2020/07/01	適応外	要注意薬	リツキシマブ	免疫膠原病内科	顕微鏡的多発血管炎
2020/07/02	適応外	要注意薬	リツキシマブ	免疫膠原病内科	ANCA関連血管炎
2020/07/02	適応外	要注意薬	クロピドグレル錠75mg	脳神経内科	非心原性脳梗塞急性期
2020/07/03	適応外	要注意薬	クロピドグレル錠75mg	脳神経内科	非心原性脳梗塞急性期
2020/07/08	適応外	要注意薬	レミケード	消化器内科	クローン病
2020/07/08	適応外	要注意薬	レミケード	消化器内科	クローン病
2020/07/10	適応外	要注意薬	レミケード	消化器内科	潰瘍性大腸炎
2020/07/10	適応外	要注意薬	レミケード	消化器内科	クローン病
2020/07/13	適応外	要注意薬	リツキシマブ	免疫膠原病内科	ANCA関連血管炎
2020/07/13	適応外	要注意薬	リツキシマブ	免疫膠原病内科	全身性エリテマトーデス、ループス神経炎
2020/07/14	適応外	要注意薬	ネオオーラルカプセル25mg、シクロス ホリンカプセル25mg	免疫膠原病内科	成人スティル病
2020/06/17	適応外	その他	ビブラマイシン錠100mg	皮膚科	水疱性類天疱瘡
2020/06/22	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	切迫流・早産に対する子宮収縮抑制
2020/06/22	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	切迫流・早産に対する子宮収縮抑制
2020/06/22	適応外	その他	サイトテック錠200μg	産科	子宮内胎児死亡に対する陣痛誘発
2020/07/01	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	切迫流・早産に対する子宮収縮抑制
2020/07/06	適応外	その他	ミラクリッド注射液	小児科	循環不全に対して
2020/07/07	適応外	その他	フランドルテープ	消化器内科	高血圧への対応(内服不可、ピソノテープ8mgに追加)
2020/07/10	適応外	その他	ゼンタコート	血液内科	腸管GVHDで
2020/07/02	適応外	その他	ゼンタコート	血液内科	難治性腸管GVHD治療
2020/07/02	禁忌	麻薬	フェンタニル注	脳神経内科	疼痛コントロール
2020/06/24	禁忌	その他	ミネプロ錠2.5mg/アスパラカリウム錠330mg	呼吸器内科	高血圧症
2020/06/29	禁忌	その他	プログラフ、スピロノラクトン	肝胆膵移植外科	プログラフ、スピロノラクトン併用中
2020/07/03	禁忌	その他	カロナール	消化器内科	鎮痛
2020/07/07	禁忌	その他	グラセプター、スピロノラクトン併用	肝胆膵移植外科	肝移植後でグラセプター服用していたが、腹水貯留ありスピロノラクトン等利尿
2020/07/10	禁忌	その他	ベネット錠17.5mg	眼科	骨粗鬆症
2020/07/13	禁忌	その他	乾燥弱毒生麻しんワクチン	小児外科	感染予防のため
2020/07/13	禁忌	その他	乾燥弱毒生水痘ワクチン	肝胆膵移植外科	感染予防のため
2020/07/13	禁忌	その他	カルベジローラ	肝胆膵移植外科	気管支喘息の既往あるがカルベジローラ服用継続中

情報入手日	分類	薬剤分類	薬剤名	診療科	使用目的
2020/07/20	適応外	抗がん剤	シスプラチン	乳腺外科	乳がん
2020/07/28	適応外	抗がん剤	シスプラチン	乳腺外科	乳がん
2020/08/11	適応外	抗がん剤	メトレキセート注10mg	免疫膠原病内科	抗MI-2抗体陽性皮膚筋炎
2020/07/20	適応外	要注意薬	シクレスト舌下錠5mg	消化器内科	強度せん妄
2020/07/20	適応外	要注意薬	サイレース注	消化器内科	夜間不眠・せん妄
2020/07/21	適応外	要注意薬	シムジア皮下注200mg オートクリックス	免疫膠原病内科	原発性硬化性胆管炎に対する関節炎
2020/07/21	適応外	要注意薬	デクスメトミジン塩酸塩	整形外科	鎮静
2020/07/21	適応外	要注意薬	ロイケリン散	消化器内科	UC治療
2020/07/21	適応外	要注意薬	デクスメトミジン塩酸塩	脳神経外科	もやもや病のMRI検査目的
2020/07/27	適応外	要注意薬	ジブレキサ筋注	脳神経内科	PD患者へのジブレキサ筋注施注
2020/07/27	適応外	要注意薬	ロイケリン	消化器内科	クローン病
2020/07/28	適応外	要注意薬	クロビドグレル錠	脳神経内科	脳梗塞に対して、初回300mg
2020/08/07	適応外	要注意薬	スロンノンHI注10mg/2mL	脳神経内科	スロンノンを6アンプル24時間投与後、次の日に4アンプル投与
2020/08/12	適応外	要注意薬	プロポフォール	消化器内科	鎮静
2020/08/12	適応外	要注意薬	デクスメトミジン(プレセデックス)	消化器内科	鎮静
2020/08/12	適応外	要注意薬	アクテムラ点滴静注用200mg	免疫・膠原病内科	再発性多発軟骨炎
2020/07/16	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	切迫流・早産に対する子宮収縮抑制
2020/07/16	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	切迫流・早産に対する子宮収縮抑制
2020/07/21	適応外	その他	イルベサルタン錠100mg	心臓血管外科	心臓の血管イベント抑制(300mg/日)
2020/07/22	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	切迫流・早産に対する子宮収縮抑制
2020/07/25	適応外	その他	アビガン錠200mg	呼吸器内科	COVID-19に対する投薬
2020/07/25	適応外	その他	オルベスコ200μgインヘラー56吸入用	呼吸器内科	COVID-19に対する投薬
2020/07/28	適応外	その他	レボフロキサシン錠	脳神経内科	肥満患者のため750mg/回使用
2020/07/31	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	切迫流・早産に対する子宮収縮抑制
2020/07/31	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	切迫流・早産に対する子宮収縮抑制
2020/07/31	適応外	その他	ウトロゲスタン腔用カプセル200mg	産科	子宮頸管の短縮防止
2020/07/31	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	切迫流・早産に対する子宮収縮抑制
2020/08/04	適応外	その他	ポリドカスクレロール1%	消化器内科	ADPKD患者の肝嚢胞固定術目的
2020/08/11	適応外	その他	ノイキノン錠	耳鼻咽喉科	男性更年期障害(LOH症候群)
2020/08/04	禁忌	その他	乾燥弱毒生風しんワクチン	小児外科	感染予防のため

情報入手日	分類	薬剤分類	薬剤名	診療科	使用目的
2020/08/19	適応外	抗がん剤	ゲムシタビン	がん診療部	胸腺癌
2020/08/19	適応外	抗がん剤	シスプラチン	乳腺外科	乳がん治療
2020/09/01	適応外	抗がん剤	シスプラチン	乳腺外科	乳がん治療
2020/09/02	適応外	抗がん剤	イリノテカン ネダプラチン	泌尿器科	精巣癌 3rd line
2020/09/03	適応外	抗がん剤	シスプラチン	乳腺外科	乳がん治療
2020/08/20	適応外	要注意薬	スロンノンH注10mg/2mL	脳神経内科	スロンノンを24時間持続投与
2020/08/24	適応外	要注意薬	フォシーガ	循環器内科	心不全
2020/08/27	適応外	要注意薬	レミケード	脳神経内科	再発性多発軟骨炎
2020/08/27	適応外	要注意薬	スロンノンH注10mg/2mL	脳神経内科	BADリスク高いため
2020/09/01	適応外	要注意薬	シクレスト舌下錠	消化器内科	内服できず在宅に向け眠剤として使用
2020/09/02	適応外	要注意薬	スロンノンH注10mg/2mL	脳神経内科	急性期脳梗塞 右放線冠 s/o LSA BAD type
2020/09/04	適応外	要注意薬	デクスメトミジン(プレセデックス)	呼吸器外科	夜間鎮静
2020/09/04	適応外	要注意薬	プロポフォール	呼吸器外科	気管支鏡施行前の鎮静
2020/09/09	適応外	要注意薬	クロビドグレル錠75mg	脳神経内科	脳梗塞にクロビドグレル錠300mg
2020/08/18	適応外	その他	セルセプト	皮膚科	ステロイド抵抗性の水疱性類天疱瘡治
2020/08/19	適応外	その他	コルヒチン錠0.5mg	免疫・膠原病内科	ベーチェット病
2020/08/19	適応外	その他	セルセプト	腫瘍内科	ステロイド無効のirAE肝障害
2020/08/20	適応外	その他	降炭酸カルシウム錠500mg(三和)	循環器内科	低Ca血症
2020/08/25	適応外	その他	アピガン錠200mg	呼吸器内科	COVID-19に対する投薬
2020/08/25	適応外	その他	ルベスコ200μgインヘラー56吸入	呼吸器内科	COVID-19に対する投薬
2020/08/27	適応外	その他	デュピクセント	皮膚科	水疱性類天疱瘡
2020/08/28	適応外	その他	クリアクター静注用40万 40万国 際単位	眼科	黄斑下出血に対するt-PAの使用
2020/09/11	適応外	その他	グラニセトロン内服ゼリー2mg	精神科神経科	AIP疑いの嘔気時の対応
2020/09/14	適応外	その他	セレコックス錠100mg	産婦人科	切迫流産に対する子宮収縮抑制目的
2020/08/17	禁忌	その他	リマチル	肝胆膵移植外科	Cor50弱、リマチルは腎障害には禁忌だ が使用中
2020/09/02	禁忌	その他	ベサコリン	血液内科	頻尿(気管支喘息あり)
2020/09/08	禁忌	その他	リファジンカプセル150mg	小児科	肺炎治療
2020/09/10	禁忌	その他	乾燥弱毒生麻しんワクチン	肝胆膵移植外科	感染予防のため
2020/09/10	禁忌	その他	乾燥弱毒生水痘ワクチン	小児外科	感染予防のため
2020/09/10	禁忌	その他	乾燥弱毒生麻しんワクチン	肝胆膵移植外科	感染予防のため
2020/09/10	禁忌	その他	乾燥弱毒生麻しんワクチン	小児外科	感染予防

情報入手日	分類	薬剤分類	薬剤名	診療科	使用目的
2020/10/05	適応外	抗がん剤	カルボプラチン+エトポシド	呼吸器内科	LCNEC
2020/10/08	適応外	抗がん剤	pazopanib	腫瘍内科	肺癌
2020/09/29	適応外	要注意薬	スロンノンHI注10mg/2mL	脳神経内科	左橋BAD
2020/10/01	適応外	要注意薬	スロンノンHI注10mg/2mL	脳神経内科	AtoA梗塞疑いのため
2020/10/05	適応外	要注意薬	セルセプトカプセル250	呼吸器内科	強皮症関連間質性肺炎
2020/10/05	適応外	要注意薬	アクテムラ点滴静注用	免疫・膠原病内科	再発性多発軟骨炎
2020/10/09	適応外	要注意薬	デクスメデトミジン塩酸塩注200 μg	脳神経外科	鎮静目的
2020/10/13	適応外	要注意薬	インフリキシマブ	消化器内科	クローンカイト・カナダ症候群
2020/10/15	適応外	要注意薬	クロビドグレル錠75mg	脳神経内科	急性期脳梗塞にクロビドグレル錠300mg
2020/09/18	適応外	その他	クリアクター静注用40万	眼科	黄斑下出血に対するt-PAの使用
2020/09/29	適応外	その他	クリアクター静注用40万	眼科	黄斑下出血に対するt-PAの使用
2020/10/07	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	切迫流・早産に対する子宮収縮抑制
2020/10/15	適応外	その他	クリアクター静注用40万	眼科	黄斑下出血に対するtPAの使用
2020/10/12	禁忌	その他	乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	小児外科	感染予防

情報入手日	分類	薬剤分類	薬剤名	診療科	使用目的
2020/11/06	適応外	抗がん剤	ロイケリン散	消化器内科	クローン病
2020/11/10	適応外	抗がん剤	リムバーザ100mg	腫瘍内科	膀胱癌
2020/10/22	適応外	要注意薬	レミケード点滴静注用100	消化器内科	ベーチェット病 10mg/kgを6週ごとに投
2020/10/28	適応外	要注意薬	レミケード点滴静注用100	免疫・膠原病内科	高安動脈炎
2020/10/21	適応外	要注意薬	スロンノンHI注10mg/2mL	脳神経内科	スロンノン持続投与
2020/10/26	適応外	要注意薬	アクテムラ点滴静注用	免疫・膠原病内科	再発多発性軟骨炎
2020/10/27	適応外	要注意薬	レミケード	消化器内科	クローン病
2020/10/28	適応外	要注意薬	スロンノンHI注10mg/2mL	脳神経内科	スロンノン持続投与
2020/10/28	適応外	要注意薬	デクスメトミジン	呼吸器外科	手術出棟前の極度の不安
2020/10/30	適応外	要注意薬	リツキサン注	免疫膠原病内科	視神経脊髄炎
2020/11/06	適応外	要注意薬	デクスメトミジン	消化管外科	術後の鎮静
2020/11/10	適応外	要注意薬	クリアクター静注用 40万国際単位	眼科	黄斑下出血に対するt-PAの使用
2020/11/11	適応外	要注意薬	スロンノンHI注10mg	脳神経内科	亜急性期脳梗塞@右MCA watershed領域 s/o hymodynamic + A to A emboli
2020/11/11	適応外	要注意薬	クロピドグレル錠75mg	脳神経内科	亜急性期脳梗塞@右MCA watershed領域 s/o hymodynamic + A to A emboli
2020/11/12	適応外	要注意薬	クロピドグレル錠75mg	脳神経内科	アテローム血栓性脳梗塞
2020/11/12	適応外	要注意薬	クロピドグレル錠75mg	脳神経内科	脳梗塞疑い
2020/10/29	禁忌	要注意薬	アミオダロン塩酸塩静注150mg	循環器内科	ヨード造影剤アレルギー患者への投与



情報入手日	分類	薬剤分類	薬剤名	診療科	使用目的
2020/11/19	適応外	抗がん剤	テモソロミド・エトポシド(ラステツ	整形外科	腸骨骨肉腫
2020/11/26	適応外	抗がん剤	カルセド注射用20mg	がん診療部	胸腺癌に対する治療
2020/11/26	適応外	抗がん剤	アフィニール錠5mg	脳神経外科	他剤無効治療抵抗性のDiffuse midline glioma
2020/12/09	適応外	抗がん剤	カルボプラチン/パクリタキセル	泌尿器科	腎髄様癌に対する2nd line
2020/11/19	適応外	要注意薬	クロピドグレル錠75mg	脳神経内科	脳梗塞に対して初日300mg
2020/11/20	適応外	要注意薬	スロンノンHI注10mg	脳神経内科	スロンノン持続投与
2020/11/24	適応外	要注意薬	クロピドグレル錠75mg「KN」	脳神経内科	急性期脳梗塞(BAD s/o)
2020/11/27	適応外	要注意薬	ミルリノン注射液	NICU	動脈管依存血行動態新生児における動脈管開存の維持
2020/11/30	適応外	要注意薬	クロピドグレル錠75mg	脳神経内科	脳梗塞に対して初日300mg
2020/11/30	適応外	要注意薬	スロンノンHI注10mg	脳神経内科	スロンノン持続投与
2020/12/14	適応外	要注意薬	クロピドグレル錠75mg	脳神経内科	脳梗塞に対して初日300mg
44179	適応外	要注意薬	イムラン錠50mg	消化器内科	クローン病
44179	適応外	要注意薬	アザニン錠50mg	消化器内科	クローン病
2020/11/16	適応外	その他	献血ヴェノグロブリンIH	呼吸器外科	抗ドナー抗体陽性肺移植患者の脱感作療法
2020/10/23	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	切迫流・早産に対する子宮収縮抑制
2020/11/16	適応外	その他	エリル動注	脳神経外科	外傷SAH後、遅発性脳血管攣縮に対して
2020/11/25	適応外	その他	セレコックス錠100mg	産科	切迫流産に対する子宮収縮抑制目的
2020/11/25	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	切迫流・早産に対する子宮収縮抑制
2020/12/02	適応外	その他	ブリカニール皮下注0.2mg	産科	妊娠16週未満の頸管縫縮術後の子宮収縮抑制
2020/12/03	適応外	その他	クリアクター静注用 40万国単位	眼科	黄斑下出血に対するt-PA製剤の使用
2020/12/10	適応外	その他	クリアクター静注用 40万国単位	眼科	黄斑下出血に対するt-PA製剤の使用
2020/12/08	適応外	麻薬	オキノーム散5mg	消化器内科	慢性疼痛(腰痛)に対し頓用使用
2020/11/18	禁忌	その他	乾燥弱毒生風しんワクチン	肝胆膵移植外科	感染予防のため
2020/11/18	禁忌	その他	乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	肝胆膵移植外科	感染予防のため
2020/12/14	禁忌	その他	乾燥弱毒生風しんワクチン	小児外科	感染予防のため
2020/12/14	禁忌	その他	乾燥弱毒生麻しんワクチン	小児外科	感染予防のため

情報入手日	分類	薬剤分類	薬剤名	診療科	使用目的
2020/12/02	適応外	抗がん剤	シスプラチン	乳腺外科	乳癌
2020/12/21	適応外	抗がん剤	カルボプラチン	呼吸器内科	悪性胸膜中皮腫
2021/01/06	適応外	抗がん剤	エトポシド・カルボプラチン	泌尿器科	膀胱小細胞癌のNAC
2021/01/13	適応外	抗がん剤	シスプラチン	乳腺外科	乳癌
2021/01/15	適応外	抗がん剤	ロイケリン	消化器内科	クローン病
2020/12/15	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	デクスメトミジン	呼吸器外科	一般病棟での使用
2020/12/23	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	デキサート注	産科	HELLP症候群
2020/12/24	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	クロピドグレル錠75mg	脳神経内科	脳梗塞に対するクロピド グレル初回300mg
2020/12/24	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	スロンノンHI注10mg/2mL	脳神経内科	スロンノン持続投与
2020/12/24	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	スロンノンHI注10mg/2mL	脳神経内科	スロンノン持続投与
2020/12/24	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	クロピドグレル錠75mg	脳神経内科	クロピドグレル錠初回 300mg
2021/01/04	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	リウマトレックスカプセル 2mg	循環器内科	心サルコイドーシス
2021/01/12	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	エフィエント錠3.75mg	脳神経外科	内頸動脈瘤 コイル塞栓 術(2021/1/12手術)前
2021/01/12	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	デクスメトミジン塩酸塩	脳神経外科	SPECT検査中の鎮静
2021/01/14	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	クロピドグレル錠	脳神経内科	脳梗塞に対してクロピド グレル初回300mg
2020/12/18	適応外	その他	フルコナゾール注	免疫 膠原病内科	クリプトコックス髄膜炎
2020/12/28	適応外	その他	クリアクター静注用40万 40万国際単位	眼科	黄斑出血
2021/01/04	適応外	その他	コルヒチン錠0.5mg	循環器内科	心膜炎治療
2021/01/04	適応外	その他	献血ヴェノグロブリン IH10%静注20g/200mL	循環器内科	劇症型心筋炎
2021/01/18	適応外	その他	コルヒチン錠0.5mg	循環器内科	心膜炎治療

情報入手日	分類	薬剤分類	薬剤名	診療科	使用目的
2021/01/19	適応外	抗がん剤	FOLFOX	腫瘍内科	小腸癌の治療目的 (1次治療)
2021/01/22	適応外	抗がん剤	ロイケリン	精神神経科	潰瘍性大腸炎
2021/01/22	適応外	抗がん剤	スプリセル	小児科	神経芽腫
2021/01/25	適応外	抗がん剤	メソトレキセート錠	免疫膠原病内科	神経ベーチェット
2021/01/27	適応外	抗がん剤	ゼロダ錠	乳腺外科	術後補助化学療法(NA CでCRにならず)
2021/02/02	適応外	抗がん剤	キイトルーダ	腫瘍内科	縦隔肉腫
2021/02/03	適応外	抗がん剤	シスプラチン	乳腺外科	乳癌
2021/02/12	適応外	抗がん剤	フェマーラ	産婦人科	卵巣顆粒膜細胞腫の再
2021/02/15	適応外	抗がん剤	ロイケリン	消化器内科	クローン病
2021/01/16	適応外	要注意薬 (抗がん薬以	リツキシマブ	皮膚科	後天性表皮水疱症
2021/01/25	適応外	要注意薬 (抗がん薬以	プラザキサ	循環器内科	左室心尖部血栓
2021/01/29	適応外	要注意薬 (抗がん薬以	ミダゾラム注10mg	腫瘍内科	日中の不穏対策と 夜間の入眠
2021/02/01	適応外	要注意薬 (抗がん薬以	アザニン50mg	消化器内科	クローン病
2021/02/05	適応外	要注意薬 (抗がん薬以	ミダゾラム注10mg	放射線治療科	入眠
2021/02/15	適応外	要注意薬 (抗がん薬以 外)	クロピドグレル錠75mg	脳神経内科	脳梗塞患者に対する クロピドグレル初回 300mg/日
2021/02/15	適応外	要注意薬 (抗がん薬以	スロンノンHI注10mg/2mL	脳神経内科	スロンノン3日目以降も 持続投与
2021/02/03	適応外	麻薬	ケタラール静注200mg	耳鼻咽喉科	鎮痛
2021/01/18	適応外	その他	コルヒチン錠0.5mg	循環器内科	心膜炎治療
2021/01/20	適応外	その他	クリアクター静注用40万 40万国際単位	眼科	黄斑下出血に対するtPA 製剤の使用
2021/01/21	適応外	その他	アジスロマイシン錠250mg	呼吸器内科	気管支喘息、気管支拡張 症
2021/01/26	適応外	その他	クリアクター静注用40万 40万国際単位	眼科	黄斑出血に対するt-PA 製剤の使用
2021/02/03	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	子宮収縮抑制
2021/02/03	適応外	その他	ニフェジピンCR錠20mg	産科	子宮収縮抑制
2021/02/08	適応外	その他	セルシン錠	脳神経内科	stiff-person 症候群に対 するジアゼパム(45mg/ パーキンソン病患者のせん 妄
2021/02/15	禁忌	要注意薬 (抗がん薬以	セレネース注	消化器内科	
2021/01/18	禁忌	その他	ザラカム配合点眼液	眼科	緑内障における眼圧のコ ントロール
2021/01/19	禁忌	その他	アナペイン(ロピバカイン)	眼科	白内障手術での麻酔
2021/01/20	禁忌	その他	乾燥弱毒生風しんワクチン	小児外科	感染予防のため
2021/01/20	禁忌	その他	乾燥弱毒生風しんワクチン	肝胆膵移植外科	感染予防のため
2021/01/20	禁忌	その他	乾燥弱毒生風しんワクチン	肝胆膵移植外科	感染予防のため
2021/01/20	禁忌	その他	乾燥弱毒生風しんワクチン	小児外科	感染予防のため
2021/01/20	禁忌	その他	乾燥弱毒生麻しんワクチン	小児外科	感染予防のため
2021/01/20	禁忌	その他	乾燥弱毒生麻しんワクチン	肝胆膵移植外科	感染予防のため

情報入手日	分類	薬剤分類	薬剤名	診療科	使用目的
2021/02/18	適応外	抗がん剤	シスプラチン	乳腺外科	乳癌治療
2021/02/22	適応外	抗がん剤	スチバーガ錠40mg	整形外科	左肩甲骨骨肉腫、多発肺転移
2021/02/22	適応外	抗がん剤	リムパーザ(オラパリブ)	産婦人科	再発子宮体癌
2021/03/02	適応外	抗がん剤	パクリタキセル・カルボプラチン	泌尿器科	前立腺癌
2021/03/12	適応外	抗がん剤	ロイケリン	消化器内科	クローン病
2021/03/12	適応外	抗がん剤	ロイケリン	消化器内科	クローン病
2021/02/18	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	リクシアナ15mg	整形外科	皮弁・血管吻合あり、術後抗凝固薬使用
2021/02/18	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	プログラフ持続点滴	消化器内科	潰瘍性大腸炎の寛解導入
2021/02/24	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	スロンノンHI注10mg/2mL	脳神経内科	スロンノン4日間持続投与
2021/02/24	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	クロピドグレル錠75mg	脳神経内科	脳梗塞に対して、クロピドグレル初回300mg/日投
2021/03/01	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	ミダゾラム注10mg	呼吸器内科	終末期の鎮静
2021/03/02	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	エフィエント錠3.75mg	脳神経外科	未破裂動脈瘤に対して脳血管内治療目的
2021/03/02	適応外	要注意薬 (抗がん薬以)	オキシコドン徐放カプセル、オキノーム	消化器内科	急性膵炎の鎮痛
2021/02/19	適応外	その他	セレコックス錠100mg	産科婦人科	子宮収縮抑制
2021/03/05	適応外	その他	バクトラミン注	小児科	カリニ肺炎予防
2021/03/08	適応外	その他	ロナセンテープ	脳神経内科	せん妄
2021/03/08	適応外	その他	テオドール	消化器内科	徐脈に対して、テオドールによる心拍数上昇を目
2021/03/12	適応外	その他	ミカファンギン	NICU	真菌血症疑い(Candida glabrata)に15mg/kg/day
2021/02/19	禁忌	その他	オフロキサシン眼軟膏	呼吸器外科	GVHDによる角膜びらん治療、ジェニナックで皮疹
2021/02/25	禁忌	その他	乾燥弱毒生水痘ワクチン	小児外科	感染予防
2021/02/25	禁忌	その他	乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	小児外科	感染予防
2021/02/25	禁忌	その他	乾燥弱毒風しんワクチン	小児外科	感染予防
2021/02/25	禁忌	その他	乾燥弱毒生水痘ワクチン	小児外科	感染予防
2021/02/25	禁忌	その他	乾燥弱毒生麻しんワクチン	小児外科	感染予防
2021/02/25	禁忌	その他	乾燥弱毒生麻しんワクチン	小児外科	感染予防
2021/03/01	禁忌	その他	コソプト配合点眼液	眼科	眼圧のコントロール

情報入手日	分類	薬剤分類	薬剤名	診療科	使用目的
2021/03/16	適応外	抗がん剤	ロイケリン散	乳腺外科	潰瘍性大腸炎
2021/03/22	適応外	抗がん剤	リムパーザ(オラパリブ)	産婦人科	再発子宮体癌
2021/03/23	適応外	抗がん剤	パクリタキセル注	皮膚科	頭部血管肉腫
2021/03/18	適応外	要注意薬 (抗がん薬以外)	セルセプトカプセル250 250mg	免疫膠原病 内科	強皮症に伴う間質性肺病 変
2021/03/25	適応外	要注意薬 (抗がん薬以外)	ミダゾラム注	脳神経内科	せん妄の鎮静目的
2021/03/31	適応外	要注意薬 (抗がん薬以外)	ミダゾラム注	循環器内科	せん妄の鎮静目的
2021/03/19	適応外	その他	イーケプラドライシロップ	小児科	新生児てんかん
2021/03/31	適応外	その他	プロイメンド	小児科	催吐リスク高頻度の化学療法 に対する支持療法
2021/03/16	禁忌	その他	乾燥弱毒生風しんワクチ	小児外科	感染予防のため
2021/03/16	禁忌	その他	乾燥弱毒生麻しんワクチ	小児外科	感染予防のため
2021/03/16	禁忌	その他	乾燥弱毒生水痘ワクチン	小児外科	感染予防のため
2021/03/16	禁忌	その他	乾燥弱毒生風しんワクチ ン	肝胆膵・移植 外科	感染予防のため
2021/03/16	禁忌	その他	乾燥弱毒生おたふくかぜ ワクチン	小児外科	感染予防のため
2021/03/23	禁忌	その他	ビソプロロール錠2.5mg	産婦人科	血圧上昇を伴う頻脈に対 して使用(妊娠15週)

令和 3 年 9 月 1 日

京都大学医学部附属病院

医薬品安全管理責任者 寺田智祐

## 医薬品安全管理補助者指名書

医療法施行規則第九条の二十の二\* 第一項第三号イ及びロに掲げる措置を適切に実施するため、担当者として下記の者を指名します。

\*平成三十年改正省令

## 記

所 属	職 名	氏 名	指 名 日
薬剤部	副薬剤部長	中川 貴之	令和 3 年 3 月 1 日
	副薬剤部長	米澤 淳	平成 2 8 年 9 月 2 8 日
	副薬剤部長	深津 祥央	平成 2 8 年 9 月 2 8 日
	副薬剤部長	池見 泰明	平成 2 8 年 9 月 2 8 日
	副薬剤部長	北田 徳昭	平成 3 1 年 4 月 1 8 日
	副薬剤部長	今井 哲司	平成 3 1 年 4 月 1 8 日
	薬剤師	石塚 良子	平成 2 8 年 9 月 2 8 日
	助教	中川 俊作	平成 2 9 年 1 0 月 2 日
	助教	糸原 光太郎	令和 2 年 4 月 1 日
	特定助教	平 大樹	令和 3 年 6 月 1 日
	薬剤主任	猪熊 容子	平成 2 8 年 1 2 月 1 2 日
	薬剤主任	岡村みや子	平成 3 0 年 9 月 3 日
	薬剤主任	尾崎 淳子	平成 2 8 年 9 月 2 8 日
	薬剤主任	清水 宏賢	令和 3 年 9 月 1 日

	薬剤主任	杉本 充弘	平成28年9月28日
	薬剤主任	山際 岳朗	平成28年9月28日
	薬剤主任	吉田 優子	平成28年9月28日
	薬剤師	朝倉佳代子	平成31年4月18日
	薬剤師	上杉 美和	平成28年9月28日
	薬剤師	大石佳代子	令和2年4月1日
	薬剤師	梶原 望渡	平成31年4月18日
	薬剤師	川田 将義	平成28年12月12日
	薬剤師	北野 治廣	平成30年9月3日
	薬剤師	佐藤 裕紀	平成30年9月3日
	薬剤師	重面 雄紀	平成30年1月4日
	薬剤師	都築 徹教	平成31年4月18日
	薬剤師	松田 裕也	平成28年9月28日
	薬剤師	松村 勝之	平成31年4月18日
	薬剤師	丸山志穂子	平成28年12月12日
	薬剤師	森田真樹子	平成28年12月12日
	薬剤師	森田 洋亮	平成28年9月28日
	薬剤師	山本 将太	平成28年12月12日

## 病 院 協 議 会

2021年10月1日現在

	氏 名		氏 名
1	宮 本 教 授 (病院長) (脳神経外科)	28	中 本 教 授 (放射線診断科)
2	伊 達 教 授 (副病院長) (呼吸器外科)	29	溝 田 講 師 (麻酔科)
3	高 折 教 授 (副病院長) (血液内科)	30	吉 田 准教授 (脳神経外科)
4	松 田 教 授 (副病院長) (整形外科)	31	森 本 教 授 (形成外科)
5	平 井 教 授 (副病院長) (呼吸器内科)	32	湊 谷 教 授 (心臓血管外科)
6	稲 垣 教 授 (糖尿病・内分泌・栄養内科)	33	羽 賀 教 授 (病理診断科)
7	木 村 教 授 (循環器内科)	34	池 田 特定教授 (てんかん・運動異常生理学講座)
8	妹 尾 教 授 (消化器内科)	35	河 井 病院教授 (総合周産期母子医療センター)
9	森 信 教授 (免疫・膠原病内科)	36	近 藤 (祥) 准教授 (高齢者医療ユニット)
10	大 鶴 教授 (初期診療・救急科)	37	長 尾 教 授 (検査部)
11	高 橋 教 授 (脳神経内科)	38	松 村 教 授 (医療安全管理部)
12	柳 田 教 授 (腎臓内科)	39	黒 田 教 授 医師以外 (医療情報企画部)
13	武 藤 教 授 (腫瘍内科)	40	小 杉 教 授 (倫理支援部)
14	恒 藤 教 授 (緩和医療科)	41	甲 斐 講 師 (集中治療部)
15	小 濱 教授 (消化管外科)	42	永 井 (純) 教 授 (医療開発部)
16	中 島 教 授 (早期医療開発科)	43	森 田 教 授 医師以外 (クリニカルトライアルサイエンス部)
17	戸 井 教 授 (乳腺外科)	44	永 井 (洋) 教 授 (臨床研究支援部)
18	波多野 教授 (肝胆膵・移植外科、小児外科、 臓器移植医療部)	45	足 立 教 授 (人間健康科学系専攻長)
19	辻 川 教 授 (眼科)	46	小 西 教 授 (医学教育・国際化推進センター)
20	万 代 教 授 (産科婦人科)	47	伊 藤 特定教授 (研修センター)
21	滝 田 教 授 (小児科)	48	寺 田 教 授 医師以外 (薬剤部)
22	梶 島 教 授 (皮膚科)	49	井 川 医師以外 看 護 部 長
23	小 林 准教授 (泌尿器科)	50	久 保 医師以外 事 務 部 長
24	大 森 教 授 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科)		
25	村 井 教 授 (精神科神経科)		
26	別 所 教 授 (歯科口腔外科)		
27	溝 脇 教 授 (放射線治療科)		



## 管理者権限の明確化について

## 厚生労働省令

- 管理者が有する病院の管理運営に係る権限及び病院の管理運営のために必要となる一定の人事・予算執行権限について明確化することを求める。
- 管理者が有する権限を明確化した内部規程を特定機能病院の承認申請時に提出させるとともに、毎年報告させることで確認する。

病院の管理運営に係る権限

1. 京都大学医学部附属病院規程に次のように定めている。

(略)

第2条 病院に、病院長を置く。

2 病院長は、理事又は医学研究科若しくは病院の専任の教授をもつて充てる。

3 病院長は、病院の院務を掌理する。

(略)

第13条 この規程に定めるもののほか、病院の内部組織については、病院長が定める。

(略)

2. 京都大学医学部病院協議会規程に次のように定めている。病院協議会は、病院運営に関する合議体である。

(略)

第2条 協議会は、副病院長、病院長補佐、診療科の科長、診療部門の各部、室、センター及びユニットの長のうち医学研究科及び医学部附属病院の教授又は准教授、中央施設部門の各部、室及びセンターの長、運営部門の各部、室及びセンターの長のうち医学研究科及び医学部附属病院の教授又は准教授、先端医療研究開発機構の各部、センターの長及び副センター長（院内調整担当）、臨床研究・研修部門の各センター、部及び室の長、看護部長、薬剤部長、医療情報企画部長並びに事務部長をもって組織する。

2 前項に掲げるもののほか、病院教授の称号を付与された者を協議会組織に加えるものとする。

3 前2項に掲げるもののほか、医学研究科附属医学教育・国際化推進センター専任教授及び医学研究科人間健康科学系専攻長を協議会組織に加えるものとする。

4 前3項に掲げるもののほか、病院長が必要と認めるときは、協議会の議を踏まえて、医学研究科、医学部又は病院の教授、准教授又は講師を加えることができる。

第3条 病院協議会は、毎月1回病院長が招集し、議長となる。ただし、必要があるときは臨時に招集することができる。

(略)

3. 京都大学医学部附属病院執行部内規に次のように定めている。病院執行部は、病院の業務に関し迅速な意思決定を行い、病院執行部会議において企画・実施する。

(設置)

第1条 京都大学医学部附属病院規程第13条の規定に基づき、京都大学医学部附属病院（以下「病院」という。）に、病院の業務に関し迅速な意思決定を行うため、京都大学医学部附属病院執行部（以下「病院執行部」という。）を置く。

(組織)

第2条 病院執行部は、次の各号に掲げる者で組織する。

(1) 病院長

(2) 副病院長

(3) 病院長補佐

(4) その他病院長が必要と認めた者

(業務)

第3条 病院執行部の業務は、次に掲げるとおりとする。

(1) 病院の診療、教育、研究に関する企画及び実施に関すること。

(2) 病院の経営に関する企画及び実施に関すること。

(3) その他重要事項に関すること。

(病院執行部会議)

第4条 前条の業務を企画・実施するため、病院執行部に病院執行部会議（以下「会議」という。）を置く。

(議長)

第5条 病院長は、会議を招集し、その議長となる。

2 議長に事故あるときは、副病院長のうち議長が指名する者がその職務を代理する。

(略)

## 人事権限

1. 京都大学医学部附属病院規程に次のように定めている。

第6条 病院に、診療部門として、次の部、室、センター及びユニットを置く。

デイ・ケア診療部

臓器移植医療部

遺伝子診療部

心臓血管疾患集中治療部

女性のこころとからだの相談室

脳卒中診療部

がんセンター

VHL病センター

リウマチセンター

もやもや病支援センター

高度生殖医療センター

頭蓋底腫瘍センター

てんかん診療支援センター  
総合周産期母子医療センター  
こども医療センター  
児童思春期こころの相談センター  
黄斑疾患治療センター  
高齢者医療ユニット  
漢方診療ユニット

2 前項に掲げる各組織に関し必要な事項は、病院長が定める。

各組織の長は、各組織の内規において一定の対象者から**病院長が指名すると定めているか、本規定条文にて必要な事項を病院長が定めることとされている。**

第7条 病院に、中央施設部門として、次の部、室及びセンターを置く。

検査部  
感染制御部  
手術部  
放射線部  
救急部  
リハビリテーション部  
医療器材部  
人工腎臓部  
病理部  
疾患栄養治療部  
集中治療部  
内視鏡部  
臨床心理室  
細胞療法センター  
高圧酸素治療室

2 前項に掲げる各組織に関し必要な事項は、病院長が定める。

各組織の長は、各組織の内規において一定の対象者から**病院長が指名するあるいは委嘱すると定めている。**

第8条 病院に、運営部門として、次の部、センター及び室を置く。

看護部  
薬剤部  
医療情報企画部  
医療安全管理部  
病院運営企画室  
診療報酬センター  
ベッドコントロールセンター  
地域ネットワーク医療部

新病院整備推進部  
病歴管理室  
患者総合サポートセンター  
品質管理室  
事業場安全衛生管理室

(略)

12 第2項から前項までに定めるもののほか、第1項に掲げる各組織に関し必要な事項は、病院長が定める。

各組織の長は、各組織の内規において一定の対象者から病院長が指名すると定めているか、本規定条文にて必要な事項を病院長が定めることとされている。

(ただし、新病院整備推進部長は病院長をもって充てると定めており、看護部長は、候補者選考内規において、選考委員長は病院長をもって充てると定めている。)

第9条 病院に、先端医療研究開発機構を置く。

2 先端医療研究開発機構に、次の部、センター及び室を置く。

医療開発部

クリニカルトライアルサイエンス部

臨床研究支援部

次世代医療・iPS細胞治療研究センター

先端医療機器開発・臨床研究センター

先制医療・生活習慣病研究センター

クリニカルバイオリソースセンター

戦略・広報室

3 前項に定めるもののほか、先端医療研究開発機構に関し必要な事項は、病院長が定める。

各組織の長は、それぞれの内規において、一定の対象者から病院長が指名すると定めている。

(ただし、先制医療・生活習慣病研究センターは、病院長が指名する副病院長又は病院長補佐をもって充てると定めている。)

第10条 病院に、臨床研究・研修部門として、次のセンター、部及び室を置く。

総合臨床教育・研修センター

iPS細胞臨床開発部

看護職キャリアパス支援センター

EHR利用推進センター

レセプト情報等オンサイトリサーチセンター（京都）運用部

倫理支援部

共同機器研究室

2 前項に掲げる各組織に関し必要な事項は、病院長が定める。

各組織の長は、それぞれの内規において、一定の対象者から病院長が指名すると定めている。

(ただし、看護職キャリアパス支援センター長は看護部長、EHR利用推進センター長及びレセプト情報等オンサイトリサーチセンター（京都）運用部長は医療情報企画部長をもって充てると定めている。)

#### 予算執行権限

1. 国立大学法人京都大学予算規則において病院の予算責任者は、病院長と定めている。

(略)

(予算単位と予算責任者)

第3条 会計規程第6条に定める予算単位及び予算責任者は、別表に定めるところによる。

(略)

別表 (抜粋)

医学部附属病院

病院長

2. 京都大学医学部附属病院予算委員会規程に次のように定めている。

第1条 京都大学医学部附属病院における予算について審議するため、京都大学医学部附属病院予算委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 概算要求事項に関すること。
- (2) 予算配分に関すること。
- (3) 予算の執行に関すること。
- (4) その他予算に関し、委員会が必要と認めること。

第3条 委員会は、次に掲げる委員で組織する。

- (1) 病院長
- (2) 内科系教授2名
- (3) 外科系教授2名
- (4) 中央施設部門の部（室）長 3名（但し、前各号の委員を兼ねることはできない。）
- (5) 薬剤部長、看護部長及び事務部長
- (6) その他病院長が必要と認める者。

2 前項第1号及び第5号以外の委員は、病院長が委嘱する。

3 第一項第1号及び第5号以外の委員の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第4条 委員会に委員長を置き、病院長をもってあてる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

- 4 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

(略)

**※以下の内規等は、上述の規程等を補完するもの**

**病院の管理運営に係る権限**

4. 京都大学医学部附属病院運営企画室内規に次のように定めている。

(設置)

第1条 京都大学医学部附属病院（以下「病院」という。）に、病院運営企画室（以下「運営企画室」という。）を置く。

(業務)

第2条 運営企画室は、病院長の指示により病院運営及び経営に関し、情報の収集及び分析を行うとともに必要事項について企画立案し、病院長に提言する。

(略)

5. 外来医長・看護師長会議規程に次のように定めている。

第1条 病院に、外来医長・看護師長会議（以下「会議」という。）を置く。

第2条 会議は、各診療科外来における管理・運営の円滑化をはかるため、病院長の諮問に応じて、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 各診療科外来における診療及び診療事務に関すること。
- (2) 各診療科外来間の連絡及び調整に関すること。
- (3) その他各診療科外来に関すること。

(略)

6. 病棟医長・看護師長会議規程に次のように定めている。

第1条 病院に、病棟医長・看護師長会議（以下「会議」という。）を置く。

第2条 会議は、病棟における管理・運営の円滑化をはかるため、病院長の諮問に応じて、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 病棟における診療及び診療事務に関すること。
- (2) 病棟間の連絡及び調整に関すること。
- (3) その他病棟に関すること。

(略)

7. 京都大学医学部附属病院危機管理会議内規に次のように定めている。構成員は、病院執行部である。

(目的)

第1条 京都大学医学部附属病院（以下「病院」という。）において発生した緊急か

つ重大な事案に迅速に対応するため、京都大学医学部附属病院危機管理会議（以下「危機管理会議」という。）を置く。

（業務等）

第2条 危機管理会議は、病院において発生した緊急かつ重大な医療事故、研究活動における不適合事案、院内感染、集団食中毒、天災、人災等に迅速な対応を行う。ただし、医療法に定める特定臨床研究活動及び再生医療等技術を用いる臨床研究活動における不適合事案については、この限りでない。

2 前項における対応のうち、診療行為及び研究活動の継続又は中止の判断については、危機管理会議の議を踏まえて、病院長が行う。

（組織）

第3条 危機管理会議は、次の各号に掲げる者で組織する。

(1) 病院長

(2) 副病院長

(3) 病院長補佐

(4) その他病院長が必要と認める者

（議長）

第4条 病院長は、会議を招集しその議長となる。

（略）

## 人事権限

5. 外来医長・副医長職務内規に次のように定めている。

第二条 病院各診療科外来に、外来副医長一名を置くことができる。

2 外来副医長は、当該診療科の講師または助教から、当該診療科長の推せんにより病院長が任命する。

6. 病棟医長・副医長職務内規に次のように定めている。

第二条 病院各病棟に、病棟副医長一名を置くことができる。

2 病棟副医長は、当該部局の講師または助教から、当該部局長の推せんにより病院長が任命する。

7. 京都大学医学部附属病院医員等取扱要項に次のように定めている。

1. 医員

第1（略）

第2 医員の採用は、関係診療科の長・診療部の長（以下「診療科長等」という。）の意見を参考に、病院長が選考のうえ、決定する。

第3（略）

2～4（略）

第4（略）

第5（略）

## 2. 医員（研修医）

### 第6（略）

第7 医員（研修医）の採用は、別に定める要件を満たした者の中から病院長が決定する。